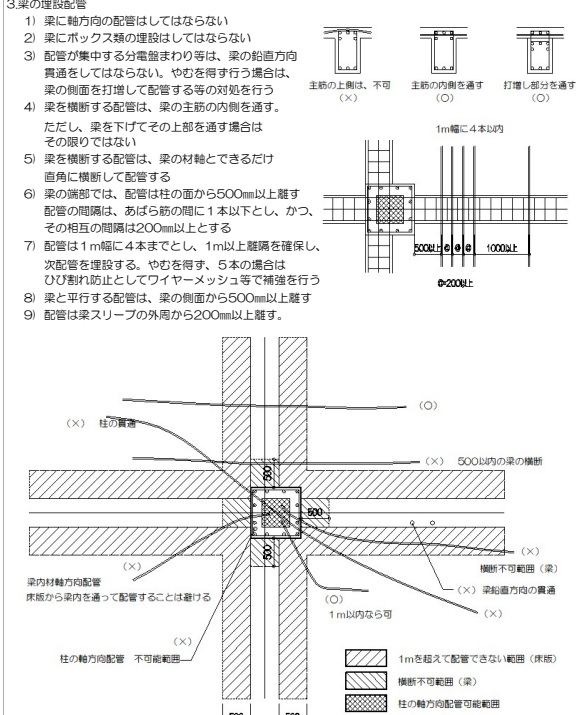
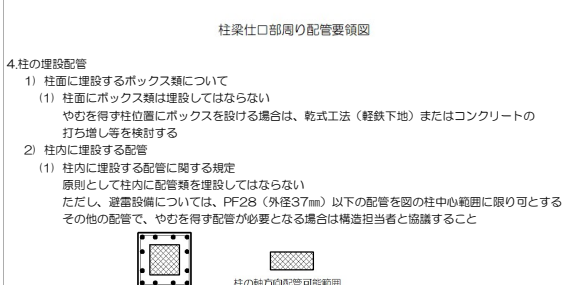
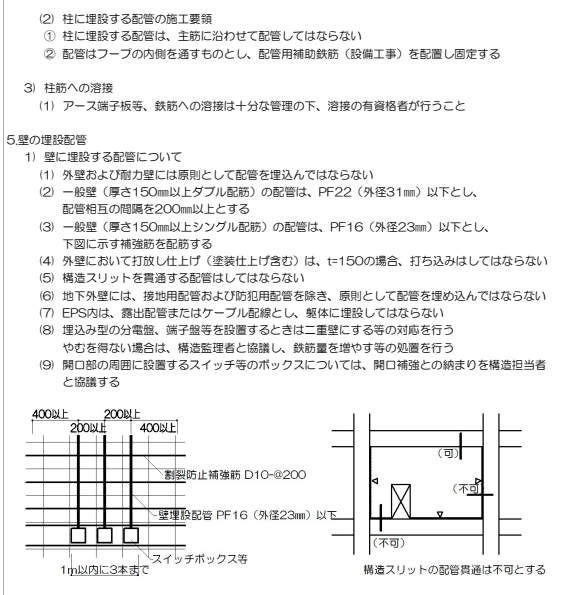


I 設計概要										
1.建物概要										
1. 工事件名	岩手県立中部病院サイバーナイフ棟整備工事									
2. 建築主	氏 名	岩手県 代表者 県立病院等事業管理者 医療局長								
	郵便番号	020-0023								
	住 所	岩手県盛岡市内丸11-1								
	電話番号	019-629-6311								
3. 工事場所 及び 敷地条件	地名地番 住居表示	岩手県北上市崎野17地割10番地								
	都市計画区域 の内外の別等	● 都市計画区域内 ( ・ 市街化区域 ・ 市街化調整区域 ● 区域区分非設定 ) ・ 準都市計画区域内 ・ 都市計画区域及び準都市計画区域外								
	防火地域	・ 防火地域 ・ 準防火地域 ● 指定なし								
	その他の区域 地域、地区、街区	・ 法第22条区域 ・ 法第52条第7項適用区域								
	道 路	幅 員	6.0～16.0 m	敷地に接している部分の長さ	m					
	敷地面積	89,873.28 m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>					
	用途地域等	持定用途制限地域								
	許容容積率	200 %	%	%	%					
	許容建ぺい率	70 %	%	%	%					
	敷地面積合計	m <sup>2</sup>								
	建築可能な容積率	%								
	建築可能な建ぺい率	%								
	備考									
4. 建築物	主要用途	病 院 (区分 08260 )								
	工事種別	増 築								
	建築面積	計画部分	計画以外の部分	合計						
	【建築面積】	556.46 m <sup>2</sup>	14,568.92 m <sup>2</sup>	15,125.38 m <sup>2</sup>						
	【建ぺい率】			15.61 %						
	延べ面積	計画部分	計画以外の部分	合計						
	【建築物全体】	776.87 m <sup>2</sup>	33,789.78 m <sup>2</sup>	34,566.65 m <sup>2</sup>						
	【	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>						
	【	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>						
	【容積率対象延べ面積】			33,764.94 m <sup>2</sup>						
	【容積率】			34.85 %						
	高 さ	最高の高さ	10.00 m	最高の軒の高さ	9.87 m					
	階 数	地 上	2 階	地 下	0 階					
	構 造	鉄筋コンクリート 造 一部 鉄 骨 造								
建物別概要			耐震安全性の分類：「官庁施設の総合耐震計画基準及び同解説平成25年版」							
	建物名称	構造	階数	延べ面積 (m <sup>2</sup> )	消防法施行 令別表第一	構造体	建築非構造部材	建築設備		
	サイバーナイフ棟	RC	2	701.52 (6)イ	I 類	A 類		甲類		
	渡り廊下棟	S	1	75.35 (6)イ	I 類	A 類		甲類		
	病院本棟	RC	6	3,001.99 (6)イ						
	リニアック棟	RC	1	1,128.62 (6)イ						
	緩和ケア棟棟	RC	1	1,537.16 (6)イ						
	マニホール棟	RC	1	30.60 (6)イ						
	公用車庫庫	S	1	0.00 (13)イ						
	一般駐輪場	RC	1	0.00 (16)ロ						
	職員用駐輪場	RC	1	0.00 (16)ロ						
	身障者用駐輪場	RC	1	0.00 (13)イ						
	東屋	木	1	13.24 -						
	バス待合所	S	1	5.74 (10)						
	倉庫庫	S	2	252.71 (14)						
	扇型歩廊	RC	0	0.00 -						
	歩廊	RC	0	0.00 -						
2.工事概要										
1. 工事種目及び工事範囲 (●のついたものを適用する)	工事種別及び屋外	サイバーナイフ棟 渡り廊下棟 病院本棟 リニアック棟		工事種別		屋外				
	● 空気調和設備	新設	一式	新設	一式	新設	一式			
	● 換気設備	新設	一式							
	● 排煙設備									
	● 自動制御設備	新設	一式							
	● 床暖房設備									
	● 衛生器具設備	新設	一式							
	● 給水設備	新設	一式		新設	一式		新設 一式		
	● 排水設備	新設	一式					新設 一式		
	● 給湯設備	新設	一式							
	● 消火設備	新設	一式	新設	一式	新設	一式			
	● ガス設備									
	● 厨房機器設備									
	● 医療ガス設備	新設	一式	新設	一式	新設	一式			
	● 排水処理設備									
	● 防設備									
	● さく井設備									
	● 撤去工事			撤去	一式	撤去	一式	撤去 一式		
	●									
	●									
2. 指定工事範囲	● 無し	● 有り (指定工期 令和 年 月 日)	対象部分：							
3. 設備概要	(本工事における、工事種目ごとの概要を示すもので、仕様を規定するものではない)		方式及び種別							
空調方式			設備概要							
主要熱源機器			● 空気調和機 (全空気) ● 空気調和機 (全空気) + 温水コイル ● 空気調和機 (外調機) + ファンコイルユニット ● 空気調和機 (外調機) + パッケージ形空気調和機 (EH-P) ● 炉筒煙管ボイラー ・ 小型貫流ボイラー ・ ● 真空式温水発生機 ・ 無圧式温水発生機 ・ ● 直だし吸収冷凍水機 ・ チリリングユニット ・ 吸収冷凍機							
自動制御方式			● 電気式 ・ 電子式 ● デジタル式 ・ 空気式							
給水方式			● 高圧タンク式 ・ 水道直結式 ● 加圧送水式							
排水方式			建物内の汚水と雑排水 ( ・ 分流水 ● 合流水 ) ポンプ排水 ● 有り ( ・ 汚物 ・ 雑排水 ● 湧水 ) ・ 無し 建物外 放流先 (1)汚水 ● 直放流下水管 ・ (2)雑排水 ● 直放流下水管 ・							
消火設備の種類			● 屋内消火栓設備 (備付率1台) ● スプリンクラー設備 ・ 不活性ガス消火設備							
2.工事概要										
1. 工事種目及び工事範囲 (●のついたものを適用する)	工事種別及び屋外	サイバーナイフ棟 渡り廊下棟 病院本棟 リニアック棟		工事種別		屋外				
	● 空気調和設備	新設	一式	新設	一式	新設	一式			
	● 換気設備	新設	一式							
	● 排煙設備									
	● 自動制御設備	新設	一式							
	● 床暖房設備									
	● 衛生器具設備	新設	一式							
	● 給水設備	新設	一式		新設	一式		新設 一式		
	● 排水設備	新設	一式					新設 一式		
	● 給湯設備	新設	一式							
	● 消火設備	新設	一式	新設	一式	新設	一式			
	● ガス設備									
	● 厨房機器設備									
	● 医療ガス設備	新設	一式	新設	一式	新設	一式			
	● 排水処理設備									
	● 防設備									
	● さく井設備									
	● 撤去工事			撤去	一式	撤去	一式	撤去 一式		
	●									
	●									
2. 指定工事範囲	● 無し	● 有り (指定工期 令和 年 月 日)	対象部分：							
3. 設備概要	(本工事における、工事種目ごとの概要を示すもので、仕様を規定するものではない)		方式及び種別							
空調方式			設備概要							
主要熱源機器			● 空気調和機 (全空気) ● 空気調和機 (全空気) + 温水コイル ● 空気調和機 (外調機) + ファンコイルユニット ● 空気調和機 (外調機) + パッケージ形空気調和機 (EH-P) ● 炉筒煙管ボイラー ・ 小型貫流ボイラー ・ ● 真空式温水発生機 ・ 無圧式温水発生機 ・ ● 直だし吸収冷凍水機 ・ チリリングユニット ・ 吸収冷凍機							
自動制御方式			● 電気式 ・ 電子式 ● デジタル式 ・ 空気式							
給水方式			● 高圧タンク式 ・ 水道直結式 ● 加圧送水式							
排水方式			建物内の汚水と雑排水 ( ・ 分流水 ● 合流水 ) ポンプ排水 ● 有り ( ・ 汚物 ・ 雑排水 ● 湧水 ) ・ 無し 建物外 放流先 (1)汚水 ● 直放流下水管 ・ (2)雑排水 ● 直放流下水管 ・							
消火設備の種類			● 屋内消火栓設備 (備付率1台) ● スプリンクラー設備 ・ 不活性ガス消火設備							
2.工事概要										
1. 工事種目及び工事範囲 (●のついたものを適用する)	工事種別及び屋外	サイバーナイフ棟 渡り廊下棟 病院本棟 リニアック棟		工事種別		屋外				
	● 空気調和設備	新設	一式	新設	一式	新設	一式			
	● 換気設備	新設	一式							
	● 排煙設備									
	● 自動制御設備	新設	一式							
	● 床暖房設備									
	● 衛生器具設備	新設	一式							
	● 給水設備	新設	一式		新設	一式		新設 一式		
	● 排水設備	新設	一式					新設 一式		
	● 給湯設備	新設	一式							
	● 消火設備	新設	一式	新設	一式	新設	一式			
	● ガス設備									
	● 厨房機器設備									
	● 医療ガス設備	新設	一式	新設	一式	新設	一式			
	● 排水処理設備									
	● 防設備									
	● さく井設備									
	● 撤去工事			撤去	一式	撤去	一式	撤去 一式		
	●									
	●									
2. 指定工事範囲	● 無し	● 有り (指定工期 令和 年 月 日)	対象部分：							
3. 設備概要	(本工事における、工事種目ごとの概要を示すもので、仕様を規定するものではない)		方式及び種別							
空調方式			設備概要							
主要熱源機器			● 空気調和機 (全空気) ● 空気調和機 (全空気) + 温水コイル ● 空気調和機 (外調機) + ファンコイルユニット ● 空気調和機 (外調機) + パッケージ形空気調和機 (EH-P) ● 炉筒煙管ボイラー ・ 小型貫流ボイラー ・ ● 真空式温水発生機 ・ 無圧式温水発生機 ・ ● 直だし吸収冷凍水機 ・ チリリングユニット ・ 吸収冷凍機							
自動制御方式			● 電気式 ・ 電子式 ● デジタル式 ・ 空気式							
給水方式			● 高圧タンク式 ・ 水道直結式 ● 加圧送水式							
排水方式			建物内の汚水と雑排水 ( ・ 分流水 ● 合流水 ) ポンプ排水 ● 有り ( ・ 汚物 ・ 雑排水 ● 湧水 ) ・ 無し 建物外 放流先 (1)汚水 ● 直放流下水管 ・ (2)雑排水 ● 直放流下水管 ・							
消火設備の種類			● 屋内消火栓設備 (備付率1台) ● スプリンクラー設備 ・ 不活性ガス消火設備							
2.工事概要										
1. 工事種目及び工事範囲 (●のついたものを適用する)	工事種別及び屋外	サイバーナイフ棟 渡り廊下棟 病院本棟 リニアック棟		工事種別		屋外				
	● 空気調和設備	新設	一式	新設	一式	新設	一式			
	● 換気設備	新設	一式							
	● 排煙設備									
	● 自動制御設備	新設	一式							
	● 床暖房設備									
	● 衛生器具設備	新設	一式							
	● 給水設備	新設	一式		新設	一式		新設 一式		
	● 排水設備	新設	一式					新設 一式		
	● 給湯設備	新設	一式							
	● 消火設備	新設	一式	新設	一式	新設	一式			
	● ガス設備									
	● 厨房機器設備									
	● 医療ガス設備	新設	一式	新設	一式	新設	一式			
	● 排水処理設備									
	● 防設備									
	● さく井設備									
	● 撤去工事			撤去	一式	撤去	一式	撤去 一式		
	●									
	●									
2. 指定工事範囲	● 無し	● 有り (指定工期 令和 年 月 日)	対象部分：							
3. 設備概要	(本工事における、工事種目ごとの概要を示すもので、仕様を規定するものではない)		方式及び種別							
空調方式			設備概要							

	<div>設計用水平地震力は、機器の重量（自由表面を有する水槽その他の貯槽にあっては有効重量）に、設計用水平震度を乗じたもの、設計用鉛直震度は設計用鉛直震度を乗じたものとする</div> <div>設計用水平震度（<math>K_H</math>）＝<math>Z \cdot K_S</math>（<math>K_S</math>：設計用標準震度、<math>Z</math>：地域係数） 設計用鉛直震度（<math>K_V</math>）＝<math>1/2 \cdot K_H</math> 地域係数（<math>Z</math>）※ 1.0      0.9      0.8      0.7</div> <div>建築設備機器の設計用標準震度（<math>K_e</math>）と耐震クラス</div> <table><tr><th>機器の設置階</th><th>建築設備機器の耐震クラス</th><th>耐震クラスS</th><th>耐震クラスA</th><th>耐震クラスB</th><th>適用階の区分</th></tr><tr><td>上層階、 屋上及び増屋</td><td></td><td>2.0</td><td>1.5</td><td>1.0</td><td rowspan="3"></td></tr><tr><td>中間階</td><td></td><td>1.5</td><td>1.0</td><td>0.6</td></tr><tr><td>地階及び1階</td><td></td><td>1.0 (1.5)</td><td>0.6 (1.0)</td><td>0.4 (0.6)</td></tr></table> <div>（ ）内の値は地階及び1階（あるいは地表）に設置する水槽の場合に適用する</div> <div>上層階の定義 2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4階</div> <div>中間階の定義 地下階、1階を除く各階で上層階に該当しない階（平屋建ての場合はなし） 下記、重要機器に●なきものは、一般機器として設定耐震クラスに応じた対策を行う (イ)重要機器（● 耐震クラスS ● 耐震クラスA ● 耐震クラスB） ● 給水機器 ● 排水機器 ● 熱源機器 ● 空調機器 ● 換気機器 ● 排煙設備 ● 監視制御設備 ● 危険物貯蔵設備 ● 火気を使用する設備 ● 避難経路に隣接して設置する機器 ● 消火設備 ● 医療ガス設備 ● 厨廃機器 (ロ)一般機器（● 耐震クラスS ● 耐震クラスA ● 耐震クラスB）</div> <div>(2) 免震建物内に設置する機器の場合、設計用水平震度は耐震クラスBの値とする。 ただし、設計用鉛直震度は設定耐震クラスの設計用水平震度に1/2を乗じた値とする。 (3) 配管等の耐震対策は「建築設備耐震設計・施工指針（2014年版）」指針表 6-2-1 による。</div>	機器の設置階	建築設備機器の耐震クラス	耐震クラスS	耐震クラスA	耐震クラスB	適用階の区分	上層階、 屋上及び増屋		2.0	1.5	1.0		中間階		1.5	1.0	0.6	地階及び1階		1.0 (1.5)	0.6 (1.0)	0.4 (0.6)	<div>● 19. 既存設備との 取り合い</div> <div>● 20. 気密施工</div> <div>● 21. 遮音対策</div> <div>● 22. 放射線防護対策</div> <div>● 23. 天井内漏水対策</div> <div>● 24. 切り直し工事等</div> <div>● 3.共通通風工事</div> <div>● 1. 足場 作業橋台の類</div> <div>● 2. 監理者事務所</div> <div>● 5. 配管</div> <div>● 6. 地中配管</div> <div>● 7. 保温</div> <div>● 8. 塗装及び防錆</div> <div>● 9. 標識その他</div> <div>● 10. 電線類</div> <div>● 11. はつり</div> <div>● 12. 配管・ダクトの 吊り及び支持</div> <div>● 13. アンカーボルト 及びキャップ</div> <div>● 14. 振動伝播の防止</div> <div>15. 運転状態の記録</div> <div>● 16. 機器仕様</div> <div>● 17. 機器基礎</div> <div>● 18. 案内板</div>	<div>設置する案内板の大きさは、1㎡程度とする</div> <div>配管などの切替えまたは接続等で、既存設備を一時停止させる場合はその時期、工法等を監理者と協議を行い、施設運営に支障を及ぼさない対応をする</div> <div>下記の各室に設ける機器、ダクト、配管、スイッチボックス等は、他室との空気流出入を防止するため、シール材充填及び防護パッキン等を使用し、気密保持に必要な処理を行う（ ）</div> <div>遮音性能を要求する室の壁にスイッチボックス等を埋込む場合は、その裏面に遮音シートまたは鉛板等を巻きつけ、遮音に必要な処理を行う</div> <div>放射線防護区画を貫通するダクト、配管、器具等を設置する場合は、貫通部に（一社）日本画像医療システム工業会規格「X線防護工事 標準化マニュアル」による放射線防護処理を行う（適用範囲は図示による）</div> <div>高圧遮断機器等が設置される室の天井内には極力水配管の設置をさけること、やむを得ず設置する場合は漏水対策を施す（対策方法、対象配管は図示による） 対象室（ ）</div> <div>既設の切り直しや改修、撤去について、設計図は基本的に既存図や現地調査結果をもとに作成しているが、隠蔽部や埋設部等、図面と異なることも予想されるので、既設の切り直しや改修、撤去を行う場合は、事前に十分調査を行い、結果を監理者へ報告すること。尚、設計図と異なる場合には協議とする。</div> <div>※ 関連工事の関係者が定する足場、作業橋台の類は、無償で使用できる（2.4.1.1(ア)） ・ 本工事で設置する ・ 建築工事改修標準仕様書(2.3.1(2))によるほか下記による。取付け箇所は図示による ・ 内部板設定等（ ● 種 ● 種 ） ・ 外部板設定等（ ● 種 ● 種 ）</div> <div>※ 設ける（建築工事に含む） ● 設けない ● 単独で設ける（2.4.1.1(イ)） 監理者事務所の規模 ● 10㎡程度 ● 20㎡程度 ● 35㎡程度 ● 65㎡程度 ● 100㎡程度 ● ㎡程度 監理者事務所の仕上げ ● 受注者事務所同程度 ● 監理者事務所の備品 ● 監理者事務所備品（ 5人分） 備品は、建築工事標準仕様書(2.3.1(b))によるほか、下記の物を備える ・ 外線電話機 ● ファクシミリ ● コピー機（ ● A3カラー ● A1モノクロ ） ・ パersonalコンピュータ（ ● モニター ● アプリケーション ● Office ● AutoCAD ● ネットワーク接続 ● プリンター（ ） ・ デジタルカメラ（ ※ 300万画素以上 ● ヘルメット ● 安全靴 ● 上ばき ● 防音服 ● 帽子 ● 長靴 ● 安全帯 ● その他（ ）</div> <div>常備図書 ● 公共建築工事標準仕様書（機械設備工編） ● 公共建築設備工事標準詳細図（機械設備工編） ● 機械設備工事監理指針 ● 工事等真実撮影ガイドブック 機械設備工編 ●</div> <div>連絡係 ※ おかない ● おく</div> <div>連絡用機材等 ・ WEB会議用機材 ※ 機器・設置場所・運用方法等は監理者と協議による ・ （ ） ・ クラウドサーバー等による情報共有 ※ 機器・運用方法等は監理者と協議による ・ （ ）</div> <div>● 3. 工事用水</div> <div>● 4. 工事用電力</div> <div>● 5. 工事用仮設物</div> <div>● 6. 建設発生土の 処分</div> <div>● 7. 埋め戻し土・ 盛土</div> <div>● 4.空気調和設備</div> <div>● 1. 設計温度</div> <table><tr><th rowspan="2"></th><th colspan="4">屋外（盛降）</th><th colspan="4">屋内（調整目標値）</th></tr><tr><th>一般系統</th><th>24時間系統</th><th>一般系統</th><th>機械室</th><th>一般系統</th><th>一度</th><th>一度</th><th>一度</th></tr><tr><td>夏期</td><td>33.3℃</td><td>74.3℃</td><td>℃</td><td>℃</td><td>26℃</td><td>50℃</td><td>21℃</td><td>50℃</td></tr><tr><td>冬期</td><td>-5.9℃</td><td>73.3℃</td><td>℃</td><td>℃</td><td>22℃</td><td>40℃</td><td>21℃</td><td>40℃</td></tr></table> <div>測定口は80㎝以上とし、各機器ごとに取付ける（3.1.1.2）</div> <div>● 2. はいじん量 測定口</div> <div>● 3. 煙道</div> <div>● 4. ダクト</div> <div>● 5. 風量測定口</div> <div>● 6. チャンパー</div> <div>● 7. 吹出口及び吸込 口ボックス</div> <div>● 8. ダンパー</div> <div>● 19. ダクトのシール</div> <div>● 20. ダクト内清掃</div> <div>● 21. 予備品</div> <div>● 5.換気設備</div> <div>● 1.ダクト</div> <div>● 2. 風量測定口</div> <div>● 3. ダンパー</div>		屋外（盛降）				屋内（調整目標値）				一般系統	24時間系統	一般系統	機械室	一般系統	一度	一度	一度	夏期	33.3℃	74.3℃	℃	℃	26℃	50℃	21℃	50℃	冬期	-5.9℃	73.3℃	℃	℃	22℃	40℃	21℃	40℃	<div>(2) ピストンダンパー 復帰方式（ ※ 遮断 ● ）（3.1.15.10） (3) 外気取入系統に設置するダンパーの軸・軸受はSUS、テフロンセラミック等とする 連結金具は外部取付とするか、SUS、テフロンセラミック等とする</div> <div>(1) 別紙凡例による（2.2.1.2） (2) 膨張管、空気抜き管及び膨張タンクよりボイラー等への補給水管は（ ）とする JIS又はJV（ ● 5K ● 10K ● ）（2.2.2.1）(2.2.1.2） ・ ステンレス配管を使用する場合の材質はステンレス製とする</div> <div>取付け部は下記による（2.2.3.2）(3.1.14.14） ・ 温水ボイラーの温水管（入口側）（図-施工51） ・ 温水発生機の温水管（出入口側）（図-施工54.55） ・ チリングユニット、冷凍機の冷水管（出入口側）及び冷却水管（出入口側）（図-施工52） ・ 吸収冷凍機の冷水水管（出入口側）及び冷却水管（出入口側）（図-施工53） ● 空気調和機の冷水水管（出入口側） ● 空気調和機（パッケージ形含む）のサブライチチャンパー、レタンダクト、 外気取入ダクト及びレタンチャンパー ・ 冷凍水ヘッダー（注）の各送り管及び冷水水ヘッダー（注）の各送り管 ・ 熱交換機の冷水水管（出入口側）（図-施工58.59）</div> <div>取付け部は下記による（2.2.3.1） ・ 温水発生機の温水管（入口側）（図-施工54.55） ・ チリングユニット、冷凍機の冷水管（出入口側）及び冷却水管（出入口側）（図-施工52） ● 吸収冷凍機の冷水水管（出入口側） ● 空気調和機の冷水水管（出入口側） ・ 熱交換機の冷水水管（出入口側）（図-施工58.59） ・ ポンプ（密閉回路は出入口側、開放回路は出口側）（図-施工57）</div> <div>網間流量計はピスト管方式によるもので止水コック付とし、形式及び取付け部は下記による（2.2.3.8） なほ、管形状の指示図は、 （ ● 40A用 個 ● 100A用 個 ● 250A用 個 ）付属とする ・ 温水発生機の温水管（入口側）に（ ● 固定形 ※ 管形状 ）を設ける（図-施工54.55） ・ 冷凍機の冷水管（出口側）及び冷却水管（出口側）に（ ● 固定形 ※ 管形状 ）を設ける（図-施工53） ・ 吸収冷凍機の冷水水管（出口側）及び冷却水管（出口側）に（ ● 固定形 ※ 管形状 ）を設ける ● 空気調和機の冷水水管（入口又は出口側）に（ ● 固定形 ※ 管形状 ）を設ける ・ 冷凍水ヘッダーの（ ● 各送り管 ● 各戻り管 ）に（ ● 固定形 ※ 管形状 ）を設ける</div> <div>制御盤には、（ ● 給油ポンプ制御 ● 返油ポンプ制御 ● 電磁弁制御 ● 漏油監視 ● 減油監視 ● 過速監視 ● 過熱監視 ）の端子を設ける（2.2.3.5） なほ、フロートスイッチ部と制御盤間の配管配線は製造者の標準仕様とする</div> <div>遠隔油量指示計（ ● 抵抗変化式液面計 ● 磁歪式液面計 ）（2.2.3.6） 副指示計（ ● 有り ● 無し ）</div> <div>図示の箇所に取付ける</div> <div>標準仕様書第2編3.1.4によるほか、下記による ● 遠気ダクトの保温（保温厚25mm） ● 外気ダクトの保温（保温厚25mm） 居室天井内の保温仕様は、 （ ※ グラスウール保温板25mm ● ポリスチレンフォーム保温板50mm ）とする。 ・ 膨張タンクよりボイラー等への補給水管の保温は、標準仕様書第2編3.1.4の膨張管の項による ・ 建物内の空気抜き管の保温は、標準仕様書第2編3.1.4の膨張管の項による ● ドレン管の保温は、標準仕様書第2編3.1.5の排水管の項による ・ 年間運転系統冷却水管の屋外露出部、操作盤や電子機器の上部を通過する部分の保温は、 標準仕様書第2編3.1.5の給水管の項による ・ 蒸気管の放熱器廻り配管、各種装置廻り配管及び伸縮管継手の保温 ・ 蒸気配管の保温 ・ 蒸気弁の保温（ヘッダー廻りはジャケットとする） ・ 高圧（0.1MPa以上）の蒸気管及び蒸気ヘッダーの保温厚は下記による 15A～20A 30mm、25A～50A 40mm、65A～100A 50mm 125A～200A 65mm、250A～300A 75mm ・ 高温水管の保温は、標準仕様書第2編3.1.4の蒸気管（低圧の蒸気）の項による ● 冷凍水、蒸気管の保温材は、（ ● グラスウール ● ロックウール ）とする ● 冷媒管の保温外装は、（ ● ステンレス鋼板 ● 保温化粧ケース ）とする 保温化粧ケースの材質は、（ ● 硬質ポリ塩化ビニル樹脂 ● 塩化ビニル樹脂 ・ 溶融亜鉛-アルミニウム-マグネシウム系合金めっき鋼板 ）とする ・ 機器類の保温外装は、（ ● カラー亜鉛鉄板 ● アルミニウム板 ● ステンレス鋼板 ● 溶融アルミニウム-亜鉛鉄板 ）とする ・ 保温を行う機器（ ）</div> <div>冷媒管の区画貫通処理は、国土交通大臣認定工法とする 冷媒管の立管の中間部固定を、（ ● 行う ※ 行わない ） 天井内配管となる冷媒管は結露防止のため、系統ごとの配管の間隔を50mm以上確保する 冷媒管の保温厚は下記とする。 ・ 液管 ※ 10mm ・ 15mm ・ 20mm ・ ガス管 ※ 20mm ・ 30mm ● 保温2層タイプ 保温材は、JIS-A-9511-A-PE-C-2規格準拠品、化学架橋30倍発泡ポリエチレンとする</div> <div>HEPAフィルターを設置している給気、送気系統 シール種別（ ● N ● A ● B ● C ）（図-施工47.48）</div> <div>空気清浄度クラス7（JIS-B-9920）【B・クラス10,000】以上の系統は取付け前にダクト内面を清掃する系統名（ ）</div> <div>空調機器のフィルター予備は、各形番台数の（ ※ 機器表参照 ● 100% ● 50% ）とする（HEPAフィルターは含まない）</div> <div>● 低圧ダクト ● 長方形ダクト ● アングルフランジ工法 ● コーナーボルト（ ● 共板フランジ ● スライドオンフランジ ）工法 ● スパイラルダクト ● 差込み接合 ● フランジ接合 ・ 高圧1ダクト（適用範囲は図示による） ・ 高圧2ダクト（適用範囲は図示による） ・ 厨房系統の長方形排気ダクトは（ ● 亜鉛鉄板 ● ステンレス鋼板 ● 溶融アルミニウム-亜鉛鉄板 ）製とし、標準仕様書より一番厚いものを使用する ・ 厨房の排気ダクトは、ダクト内の点検が可能な措置を講ずる（3.2.2.1） ・ 厨房の排気フードは、その内部にフードライト（LED）を設置する。 （構造は、東京消防庁予防事務部審査・検査基準に基づく） ● 送風機吐出ダクト ● 外気ダクト ● 図示による（3.1.14.13） ・ ファンコイルユニット、パッケージ形空気調和機に接続する外気ダクト ● 備品機器類用ダクト</div> <div>空気調和設備の当該項目による</div>	<div>4. ダクトのシール</div> <div>● 5. チャンパー</div> <div>● 6. 吹出口及び吸込 口ボックス</div> <div>● 7. 保温</div> <div>標準仕様書第2編3.1.4によるほか、下記による ● 外気ダクト（保温厚25mm） 居室天井内の保温仕様は、 （ ※ グラスウール保温板25mm ● ポリスチレンフォーム保温板50mm ）とする。 ・ 温水発生機の温水管（入口側）に（ ● 固定形 ※ 管形状 ）を設ける（図-施工54.55） ・ 冷凍機の冷水管（出口側）及び冷却水管（出口側）に（ ● 固定形 ※ 管形状 ）を設ける（図-施工53） ・ 吸収冷凍機の冷水水管（出口側）及び冷却水管（出口側）に（ ● 固定形 ※ 管形状 ）を設ける ● 空気調和機の冷水水管（入口又は出口側）に（ ● 固定形 ※ 管形状 ）を設ける ・ 冷凍水ヘッダーの（ ● 各送り管 ● 各戻り管 ）に（ ● 固定形 ※ 管形状 ）を設ける</div> <div>● 6.排煙設備</div> <div>1. ダクト</div> <div>2. 排煙口の形式</div> <div>3. 排煙口手動 開放装置</div> <div>4. 排煙風量測定</div> <div>● 7.自動制御設備</div> <div>● 1. 中央監視制御装置</div> <div>● 2. 中央監視制御装置の構成・機能</div> <div>● 3. 電気計装工事の 記録</div> <div>● 8.床暖設備</div> <div>1. 加熱方式</div> <div>2. 試運転</div> <div>● 9.衛生器具設備</div> <div>● 1. 衛生陶器</div> <div>2. 小便器用排水 装置</div> <div>3. 水石けん入れ</div> <div>● 4. 自動水栓</div> <div>5. 水栓</div> <div>6. 和風大便器の防 火区画貫通処理</div> <div>● 7. 止水栓</div> <div>● 8. シールする器具</div> <div>● 9. 温水洗浄便座</div> <div>● 10. 電気温水器</div> <div>● 10.給水設備</div> <div>● 1. 配管材料</div> <div>2. 量水器</div> <div>3. 量水器併</div> <div>4. 弁類</div> <div>5. 緊急遮断弁装置</div> <div>6. 水栓柱</div> <div>● 7. 管の地中埋設 深さ</div> <div>8. 引込納付金等</div> <div>● 9. 保温</div> <div>・ 多連箇所排気ダクト シール種別（ ● N ※ A ※ B ● C ）（図-施工47.48） 水取管を（ ※ 設ける ● 設けない ）（3.2.2.1） ・ 特殊排気ダクト シール種別（ ● N ● A ● B ● C ）（図-施工47.48） シール種別（ ● N ● A ● B ● C ）（図-施工47.48）</div> <div>空気調和設備の当該項目による</div> <div>空気調和設備の当該項目による</div> <div>標準仕様書第2編3.1.4によるほか、下記による ● 外気ダクト（保温厚25mm） 居室天井内の保温仕様は、 （ ※ グラスウール保温板25mm ● ポリスチレンフォーム保温板50mm ）とする。 ・ 温水発生機の温水管（入口側）に（ ● 固定形 ※ 管形状 ）を設ける（図-施工54.55） ・ 冷凍機の冷水管（出口側）及び冷却水管（出口側）に（ ● 固定形 ※ 管形状 ）を設ける（図-施工53） ・ 吸収冷凍機の冷水水管（出口側）及び冷却水管（出口側）に（ ● 固定形 ※ 管形状 ）を設ける ● 空気調和機の冷水水管（入口又は出口側）に（ ● 固定形 ※ 管形状 ）を設ける ・ 冷凍水ヘッダーの（ ● 各送り管 ● 各戻り管 ）に（ ● 固定形 ※ 管形状 ）を設ける</div> <div>※ 亜鉛鉄板 ● 普通鋼板（厚1.5mm以上）（3.1.14.5）(3.2.2.4）</div> <div>・ 天井取付（ ● スリット形 ● パネル形 ）（3.1.15.5） ・ 壁取付（ ● スリット形 ● ）</div> <div>・ ワイヤ式 ・ 電気式（ ● 遠隔操作 ● 要 ● 不要 ）</div> <div>建築設備定期検査業務指導書（財）日本建築設備安全センター）の排煙風量の検査方法に準ずる</div> <div>● 有（ ● 本工事 ● 別途工事 ） ● 無</div> <div>図示による</div> <div>(1)使用する電線種は原則としてEM電線とする (2)屋外・屋内露出の配線は、図面に特記のない限り金属管配線とする (3)天井内隠ぺいの配線は、図面に特記のない限りケーブル配線とする</div> <div>工事仕様は別紙図面による ・ 電気式 ● 電気加熱式 ● 温水式 ● パッシブソーラー式</div> <div>床仕上材の施工前に、加熱方式に応じた方法により試運転を行う</div> <div>衛生陶器の付属品および水栓、洗浄弁、洗浄管等の見え掛り部は（ ※ ニッケルクロムメッキ仕上げ ● ステンレス製 ）とする</div> <div>・ 個別感知フラッシュ方式（ ● ※ 内蔵 ● 連込 ● 露出 ） ・ 集合感知フラッシュ方式（ ● 隠ぺい ● 露出 ）</div> <div>・ 陶器取付形 ● 壁取付形 ● カウンター取付形（5.1.1.11） ・ 自動供給式（ ● 有 ● 無 ）</div> <div>電源供給方式（ ● 電気式 ● 電池式 ● 発電式 ）（5.1.1.7） 手動スイッチ（ ● 有 ● 無 ）</div> <div>厨房機器に設置する水栓は、● 本工事 ● 別途工事 ）とする</div> <div>● 標準図施工67による（ピット内は除く）（5.2.1.1） ・</div> <div>（ ● ※ 洗面器 ※ 手洗器 ● 流し台（台付水栓） ● ）</div> <div>※ 手術用洗器と壁間 ● 壁付け洗面器と壁間 ・ アンダーカウンター洗面器と洗面カウンター ・ 洗面化粧台と壁間</div> <div>加熱方式（ ● 貯湯式 ● 瞬間式 ● ）付加機能は図示による（5.1.1.2）</div> <div>難いす利用者対象洗面器の下部壁面に設置する場合（床から電気温水器器面までの設置高さ） 設置高さ ※ FL+250mm以上 ● （ ）</div> <div>(1) 別紙凡例による（2.2.1.1）(2.2.1.2） (2) 水道直結配管 ・ 引き込みは水道事業者の指定により、量水器以降の地中埋設管は（ ● 塩ビパイピング継管（VD） ● 水道用挿鉄管 ● ）とし、他の部分は(1) による</div> <div>・ 観メーター（ ● 貸与品 ● ） ・ 子メーター（ ● 買取り ● ） （ ● 直読式 ● パルス式 ）</div> <div>・ 水道事業者指定品（ ● 貸与品 ● 買取り ）（5.1.8.4） ・ 標準図MCM形</div> <div>JIS又はJV ・ 水道直結部分（ ● ※ 10K ● ） ・ その他の部分（ ● ● 5K ● ）（2.2.2.1） ・ ステンレス配管を使用する場合の材質はステンレス製とする</div> <div>遮断弁の駆動方式は（ ● 電気式 ● 機械式 ）とし設置位置は図示による</div> <div>・ アルミニウム合金製 ● ステンレス製 ●</div> <div>埋設深さ（管の上端深さ）は原則として、車両部分は、（ ● 600mm ● mm ）以上、（2.2.7.2） その他の部分は、（ ● 300mm ● 600 mm ）以上とする ただし、寒冷地では凍結深さ以上とする</div> <div>・ 要（ ● 別途工事 ● 本工事 ） ● 不要</div> <div>保温材は、（ ● ロックウール ● グラスウール ● ポリスチレンフォーム ）とする（2.3.1.5）</div>	<table><tr><td>件名</td><td>岩手県立中部病院サイバーナティブ機整備工事</td><td></td></tr><tr><td>図名</td><td>特記仕様書—2</td><td>機械</td></tr><tr><td>縮尺</td><td>—</td><td>MOO</td></tr><tr><td>日付</td><td>2022/10/01（令和4年）</td><td></td></tr></table>	件名	岩手県立中部病院サイバーナティブ機整備工事		図名	特記仕様書—2	機械	縮尺	—	MOO	日付	2022/10/01（令和4年）	
機器の設置階	建築設備機器の耐震クラス	耐震クラスS	耐震クラスA	耐震クラスB	適用階の区分																																																																						
上層階、 屋上及び増屋		2.0	1.5	1.0																																																																							
中間階		1.5	1.0	0.6																																																																							
地階及び1階		1.0 (1.5)	0.6 (1.0)	0.4 (0.6)																																																																							
	屋外（盛降）				屋内（調整目標値）																																																																						
	一般系統	24時間系統	一般系統	機械室	一般系統	一度	一度	一度																																																																			
夏期	33.3℃	74.3℃	℃	℃	26℃	50℃	21℃	50℃																																																																			
冬期	-5.9℃	73.3℃	℃	℃	22℃	40℃	21℃	40℃																																																																			
件名	岩手県立中部病院サイバーナティブ機整備工事																																																																										
図名	特記仕様書—2	機械																																																																									
縮尺	—	MOO																																																																									
日付	2022/10/01（令和4年）																																																																										



		● ステンレス鋼板製タンクの保温 ・ 要 ・ 否 (5.1.4.2.4) (5.1.4.2.5)													
● 11.排水設備															
● 1. 配管材料		別紙凡例による (2.2.1.1)(2.2.1.2)													
● 2. 洗面器等の排水管		洗面器及び手洗器に連結する排水管は、器具トラップより1サイズアップとする 台所流し等の床上部分の配管は、硬質強化ビニル管でもよい													
● 3. 漏水試験経手		3階以上わたる汚水排水立て管には、各階ごとに漏水試験経手を取り付ける													
● 4. 保温		保温材は、（ ● ロックウール ● グラスウール ・ ポリスチレンフォーム ）とする (2.3.1.5)  ・ 高温排水管の保温は、標準仕様書表2.3.2.2の蒸気管（低圧(0.1MPa未満)の蒸気）の項による 保温材は、（ ● ロックウール ・ グラスウール ）とする													
5. 放流納付金等		・ 要 （ ・ 別途工事 ・ 本工事 ） ・ 不要													
● 12.給湯設備															
● 1. 配管材料		別紙凡例による (2.2.1.1)(2.2.1.2)													
● 2. 絶縁フランチ		図示の箇所に取付ける													
● 3. 弁類		JIS又はJV（ ● 5K ・ 10K ） ・ ステンレス配管を使用する場合の材質はステンレス製とする (2.2.2.1)													
● 4. 保温		保温材は、（ ● ロックウール ● グラスウール ）とする (2.3.1.5)													
● 5. 貫通部処理		躯体貫通部は保温材にて埋め戻す。													
● 13.消火設備															
● 1. 配管材料		別紙凡例による (2.2.1.1)(2.2.1.2)													
● 2. 保温		屋外露出配管は標準仕様書第2編3.1.5、表2.3.5のa3・ⅡⅠ・Ⅴによる保温を行う ただし、防凍保温は2.共通工事による (2.3.1.5)													
3. 消火ポンプユニット		貯水タンクは、（ ※ SUS製溶接 ・ ）とする (5.1.2.8)													
14.ガス設備															
1. ガス種別		・ 都市ガス （ 発熱量： kJ/m <sup>3</sup> (N) ） ・ 液化石油ガス													
2. 配管材料		・ 都市ガス ガス事業者の供給規定による ・ 液化石油ガス 別紙凡例による													
3. 充てん容器		・ ボンベ （ ※ 別途工事 ・ 本工事 ） （ ・ 50 kg ・ kg ・ kg ）× 本 ・ パルク （ ※ 別途工事 ・ 本工事 ） m <sup>2</sup> × 台													
4. 集合装置		標準図 （ ・ (a) ・ (b) ・ (c) ）による 本立て (図-施工7.3)													
5. 転倒防止		標準図 （ ・ (a) ・ (b) ）による (図-施工7.4)													
6. メーター		・ 親メーター （ ・ 貸与品 ・ ） ・ 子メーター （ ・ 買取り ・ ） （ ・ 直読式 ・ パルス式 ）													
7. ガス漏れ警報器		※ 別途工事 ・ 本工事 外部警報端子 （ ・ 無 ・ 有 ）													
8. 引込負担金等		・ 要 （ ・ 別途工事 ・ 本工事 ） ・ 不要													
15.厨房機器設備															
1. 機器の寸法		概略寸法とする													
2. 加熱方法		・ ガス ・ 電気 ・ 蒸気													
3. 機器の固定		焼焦機器、加熱調理機器、高さか1.0mを超える機器及び下記に示す機器は、 床または壁にアンカーボルトで固定できるような補強及び固定金具を備える。 （ ） (5.1.6.1) (図-施工7.5)													
● 16.医療ガス設備															
● 1. 供給ガス、設備名称		工事仕様は別紙図面による ● 酸素 ・ 笑気 ● 空気 ・ 非治療用空気 ・ 窒素 ・ 吸引 ・ 炭酸ガス ・ 混合ガス ・ 余剰麻酔ガス排出設備													
● 2. 配管材料		別紙図面による (11.2.1.3)													
3. 超低温液化ガス供給装置		設置形式 （ ・ 定置式 ・ 可搬式 ） （ ・ 別途工事 ・ 本工事 ） (11.2.1.1.1)(11.2.1.1.2)													
4. マニフォールド		ボンベ （ ※ 別途工事 ・ 本工事 ） ボンベの転倒防止は標準図に準拠する。ただし、鎖は2本掛けとする 標準図 （ ・ (a) ・ (b) ）による (11.2.1.1.3) (図-施工7.4)													
5. 吸引装置		吸引ポンプ （ ・ 水封ロータリー式 ・ 油回転式 ） (11.2.1.1.6)													
6. 麻酔ガス排除装置		麻酔ガス排除装置 （ ・ エジェクタ方式 ・ 吸引方式 （ ・ プロウ ・ 吸引ポンプ） ） (11.2.1.1.7)													
7. アウトレット		治療用ガスと吸引のガス別特定方式は ・ ピン方式 ・ シュレダ方式 ）とする (11.2.1.2.1)													
8. 接地工事		屋外及び別の建物から配管を導入する場合は導入部になるべく近い場所で、配管に対して D種接地工事を行う (11.2.2.2.7)													
● 既存配管設備の変更		(1) 既存部から供給設備があり、既存部から新設備へ供給することになる場合の検査・試験は 監理者と協議を行う (2) 工事中の仮設供給 （ ● 有り ・ 無し ） 仮設供給の方法は図示による (11.2.3.1)													
17.排水処理設備															
1. 排水処理の種別、 処理方式及び 排水量		工事仕様は別紙図面による <table><tr><th>排水処理の種別</th><th>処理方式</th><th>排水量</th></tr><tr><td>・ 合併排水処理</td><td>長時間ばっき方式</td><td>人 m<sup>3</sup>/日</td></tr><tr><td>・ 接合排水処理</td><td>連続式自動中和処理方式</td><td>m<sup>3</sup>/日</td></tr><tr><td>・ 人工透析排水処理</td><td>連続式自動還元・中和処理方式</td><td>m<sup>3</sup>/日</td></tr></table>		排水処理の種別	処理方式	排水量	・ 合併排水処理	長時間ばっき方式	人 m <sup>3</sup> /日	・ 接合排水処理	連続式自動中和処理方式	m <sup>3</sup> /日	・ 人工透析排水処理	連続式自動還元・中和処理方式	m <sup>3</sup> /日
排水処理の種別	処理方式	排水量													
・ 合併排水処理	長時間ばっき方式	人 m <sup>3</sup> /日													
・ 接合排水処理	連続式自動中和処理方式	m <sup>3</sup> /日													
・ 人工透析排水処理	連続式自動還元・中和処理方式	m <sup>3</sup> /日													
		・ 厨房排水処理 生物処理方式 m <sup>3</sup> /日 ・ 感染排水処理 固分式自動消毒・還元・中和処理方式 m <sup>3</sup> /日 ・ 動物飼育室排水処理 固液分離処理方式 m <sup>3</sup> /日 ・ ポイラブロー排水処理 冷却・中和処理方式 m <sup>3</sup> /日 ・ ・ ・ ・ ・													
2. 放流水の水質		放流先（ ） BOD ppm以下 SS ppm以下 pH N+Hex ppm以下													
3. 試験		排水処理設備の試験は様仕(8.2.2.2)(8.3.2.2)に準拠し行うこと													
18.凡設備															
1. 中央監視装置		工事仕様は別紙図面による ※ 本工事 ・ 別途工事													
2. モニタ類		・ γ線エリアモニタ ・ ルームガスモニタ ・ ルームヨウ素ガスモニタ ・ ゲートエリアモニタ ・ γ線水モニタ ・ オートマチックヨウ素モニタ ・ γ線ガスモニタ ・ ハンドフットクロスモニタ ・													
3. 排水処理方式		減衰・希釈方式													
4. タンク類		・ 貯留槽 m <sup>2</sup> × 槽 ・ 希釈槽 m <sup>2</sup> × 槽 ・ 調整槽 m <sup>2</sup> × 槽 ・ 浄化槽 人 × 槽													
19.さく井設備															
1. 用途		工事仕様は別紙図面による ・ 掘水井 （ ・ 飲料用水 ・ 雑用水用 ・ 融雪用 ） (7.1.1.1) ・ 地中熱交換井 （ ・ 空調用 ・ 融雪用 ）													
2. 事前調査		以下の調査を事前に行なう (7.1.2.1) ・ 掘水井 （ ・ 既設井分布調査 ・ 法的規制調査 ・ 地表探査 ・ 周辺環境調査（騒音・振動測定） ・ 地中熱交換井 （ ・ 既設井分布調査 ・ 法的規制調査 ・ 地質情報の収集・整理 ・ 代表井による熱交換効率の把握（熱応答試験法： ・ 周辺環境調査（騒音・振動測定）													
3. 掘水井設備		(1)掘さく工法 （ ・ パーカッション式 ・ ロータリー式 ） (7.2.1.1) ・ ダウンザホールハンマ式 ・ 回転振動式 (2)孔口保護管（深さ m） (3)仮設ケーシング ・ 要 ・ 不要 (4)ケーシング挿入の安全確認 ・ 要 （ ・ 傾斜測定 ・ ガイド管降下試験 ） ・ 不要 (5)電気検漏は、比抵抗測定法とし、掘さく完了後及びケーシング降下前に行う 測定方法 （ ※ 連続測定 ・ スポット測定（深さ1 mごと）） (7.2.1.2) (6)ケーシング材質 （ ※ 配管用炭素鋼管(黒) ・ 配管用ステンレス鋼鋼管 ）													
4. 地中熱交換井設備		(1)掘さく工法 （ ・ 回転振動式 ・ ロータリー式 ・ ダウンザホールハンマ式 ・ パーカッション式 ） (7.3.1.1) (2)地中熱交換器挿入後の水圧試験 ・ 要 ・ 不要 (7.3.2.1)													
● 20.撤去工事															
● 1. 撤去内容		※ 撤去内容は図示による													
● 2. 保温材		保温材は配管、ダクト等より分離する													
● 3. 支持金物等		ダクト及び配管等の支持金物、吊りボルト等は本工事にて撤去する													
● 4. 産業廃棄物等		(1)産業廃棄物の処理は、収集から最終処分までをマニフェスト交付を経て適正に処理する (改修1.5.1.2) (2)特別管理産業廃棄物は、1一般共通事項・6発生材の処理等による (改修1.5.1.2) (3)冷凍の回収方法及び放出を防止する措置は、業務用冷凍空調機器(第1種特定製品)は、 特定製品に係るフロン類の回収及び破壊の実施の確保に関する法律(平成13年法律第64号)の 定めに従って行う。特定家庭用機器再商品化法(平成10年法律第97号)の対象となるものは、 同法の定めに従って行う (改修3.2.4.3) (4)オイルタンク、オイルサービスタンク、油管等の廃油は、関係法令に従い、専門業者に (改修1.5.1.2) より適正に処理する (5)吸収冷凍機、吸収冷凍水機等の異化リチウム水溶液等は、関係法令に従い、専門業者により (改修1.5.1.2) 適正に処理する (6)冷凍機用フライン液は、関係法令に従い、専門業者により適正に処理する (7)消火設備の薬剤及び水溶液は、関係法令に従い、専門業者により適正に処理する													
● 5. 有害物質を含む撤去		撤去部にアスベスト、鉛等の有害物質を含む材料が使用されている場合は、監理者と協議の (改修1.4.2.1) うえ関係省庁、都道府県条例等に基づき適正に処理する。対象物質は下記による 対象物質（ ）													
21.設備機材等の選定		1. 製造者の選定 製造者については、原則として下記の選定表に該当する製造者を採用し、受注者が任意に選定することが できるが、監理者に事前に承諾を得ること <table><tr><th>品</th><th>目</th><th>機 材 名</th><th>製造者等</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>		品	目	機 材 名	製造者等								
品	目	機 材 名	製造者等												
2. 設備機材等選定表															
● 22.配管スリーブ打ち込み要領		1.スリーブ施工図作成要領 1) ベース図は監理者および各施工者間の調整事項を反映した建築躯体図（縮尺1/50）とする 部分図の場合は全体キープランを図中に記入し、その範囲を示す 2) 施工図には工事名称・図面名称・図面番号・施工者名・各工種の番通者名及び作成年月日等を 記入する 3) 表示する内容はスリーブ径、平面上の位置と高さ、梁の上下のへりあき、補強筋及び工事種別 とする 工事種別は略号で表記し図中に凡例を記入する（線の色で種別分けをしても構わない） （例：建築K、衛生P、空調A、電気E、搬送T） 4) 次の箇所に展開図を作成する (1) すべての耐力壁 (2) 機械室周囲の壁等で開口が集中する箇所 (3) 梁貫通孔が集中する箇所（ビット内地中梁人通孔周り等） (4) その他監理者が指示する部位 5) 外壁やホール、吹き抜け等の意匠上見えがかりとなる箇所は、意匠検討を行うため建築 立面図や展開図に記入する（意匠監理者と協議を行う） (6) 床開口が集中する場合の補強方法について、構造監理者の指示を受けること 7) 梁貫通補強で既製品を使用する場合は、製造所の施工仕様と補強計算書を事前に提出し構造監理者 の確認を受けること 8) 放射線防護壁内の建設配管は、事前に構造監理者と協議を行うこと 9) 工事区分（補強筋施工・スリーブ施工）、施工工程（各関連業種の施工手順と日程）は事前に調整、 確認すること													

2.埋設配管共通事項		1) 屋根スラブ、外壁への埋め込み配管は行ってはならない。 やむを得ず、外壁へ埋め込む場合は、コンクリートのひび割れを抑制する為、ワイヤーメッシュ等 にて適切な処置を行う。ただし、新築壁及び埋設配管が見出す箇所に置いては、構造監理者と 協議を行い、適切な処置を行うこと 2) 一般床、壁への埋め込みボックス類は十分深いものを検討し、埋め込み配管を床、壁の中央に 行う 3) スリーブ等は必ず鉄筋より30mm以上離し、必要がふり厚さを確保する 4) 構造スリットへの貫通は行ってはならない	
3.梁の埋設配管		1) 梁に軸方向の配管はしてはならない 2) 梁にボックス類の埋設はしてはならない 3) 配管が集中する分電盤まわり等は、梁の軸造方向貫通をしてはならない。やむを得ず行う場合は、梁の側面を打増して配管する等の対応を行う 4) 梁を横断する配管は、梁の主筋の内側を通す。 ただし、梁を下げてその上部を通す場合はその限りではない 5) 梁を横断する配管は、梁の材軸とできるだけ直角に横断して配管する 6) 梁の端部では、配管は柱の面から500mm以上離す 配管の間隔は、あばら筋の間に1本以下とし、かつ、その相互の間隔は200mm以上とする 7) 配管は1m幅に4本までとし、1m以上離隔を確保し、次配管を埋設する。やむを得ず、5本の場合はひび割れ防止としてワイヤーメッシュ等で補強を行う 8) 梁と平行する配管は、梁の側面から500mm以上離す 9) 配管は梁スリーブの外周から200mm以上離す。 	
4.柱の埋設配管		1) 柱面に埋設するボックス類について (1) 柱面にボックス類は埋設してはならない やむを得ず柱位置にボックスを設ける場合は、乾式工法（軽鉄下地）またはコンクリートの打ち増し等を検討する 2) 柱内に埋設する配管 (1) 柱内に埋設する配管に関する規定 原則として柱内に配管類を埋設してはならない ただし、避難設備については、PF28（外径37mm）以下の配管を柱の中心範囲に限り可とする その他の配管で、やむを得ず配管が必要となる場合は構造担当者と協議すること 	
5.壁の埋設配管		1) 壁に埋設する配管について (1) 外壁および耐力壁には原則として配管を埋込んでではない (2) 一般壁（厚さ150mm以上ダブル配筋）の配管は、PF22（外径31mm）以下とし、配管相互の間隔を200mm以上とする (3) 一般壁（厚さ150mm以上シングル配筋）の配管は、PF16（外径23mm）以下とし、下図に示す補強筋を配筋する (4) 外壁において打放し仕上げ（塗装仕上げ含む）は、t=150の場合、打ち込みはしてはならない (5) 構造スリットを貫通する配管はしてはならない (6) 地下外壁には、接地用配管および防犯用配管を除き、原則として配管を埋め込んでではない (7) EPS内は、露出配管またはケーブル配線とし、躯体に埋設してはならない (8) 埋込み型の分電盤、端子盤等を設置するときは二重壁にする等の対応を行う やむを得ない場合は、構造監理者と協議し、鉄筋量を増やす等の処置を行う (9) 開口部の周囲に設置するスイッチ等のボックスについては、開口補強との納まりを構造担当者 と協議する 	
6.床の埋設配管		1) 床の埋設配管 (1) 屋根スラブや防水仕様のスラブには、埋設配管を行ってはならない (2) 配管が集中するプルボックスまわり等は、構造監理者と協議しスラブ厚さを増す、鉄筋量を増やす等の処置を行う (3) EPSなどで配管が集中して立ち上がる場所は、その1スパンの範囲内の梁およびスラブを150mm以上下げ、差し打ちしたスラブの配管の上部には、メッシュ筋（6φ-150×150程度）を敷設する (4) 平行する配管は、1m幅に4本以下とする。また、配管相互の間隔は、150mm以上離す (5) 埋設配管の径は、PF22（外径31mm）以下とする (6) 埋設配管をやむを得ず交差させる場合は、鉄筋と重ならない位置で交差させる 特に3重の交差にならないように注意する。また、カップリングも鉄筋筋道を選択する (7) 梁スリーブ補強の範囲は、床埋設配管を行ってはならない (8) 梁と平行する配管は、梁の側面から500mm以上離す (9) フロアダクトを埋設する場合は、施工要領、配置について構造監理者と協議する	

件名 岩手県立中部病院サイバーナティブ棟整備工事			
図名 特記仕様書ー3		機械	
編尺	ー	日付 2022/10/01(令和4年)	MO03

工 事										工 事										工 事										工 事										
項 目										項 目										項 目										項 目										
負 担 金 等	負担金（工事用以外のもの）									ボルト等の貫通口・開口部	ALCパネル等を貫通する配管配線の穴明け	※	※	※	※	※			・	各工事別とする	制 御	空調用自動制御機器	・	・	・	※	・			・	そ の 他	点検口（床、天井、シャフト等）	※	・	・	・	・			・
	イ、電気引込	・	・	・	・	・			※	PC板を貫通する配管配線の穴明け	※	・	・	・	・				・	同上配管配線	・	・	・	※	・			・	外壁取付がらり（防虫網共）	※	・	・	・	・		・				
	ロ、水道引込	・	・	・	・	・			※	壁・天井の軽重鉄骨下地の開口補強	※	・	・	・	・				・	同上電源供給	・	※	・	・	・			・	同上ダンパ（FD）	・	・	・	※	・		・				
	ハ、下水道接続	・	・	・	・	・			※	壁、天井ボード類の切込み	※	・	・	・	・				位置出しは各工事別とする	中央監視								・	外壁取付ダクト接続用がらり（防鳥網共）	※	・	・	・	・		・				
	ニ、ガス引込	・	・	・	・	・			※	既製間仕切壁等の切込み及び補強	※	・	・	・	・				・	イ、電気	・	※	・	※	・			・	同上ダンパ（FD）	・	・	・	※	・		・				
	引渡しまでの各種料金（基本料金、使用料金共）																			ロ、空調	・	※	・	※	・			・	アコーディオンカーテン	※	・	・	・	・		・				
	イ、給水	※	※	※	※	※														ハ、衛生	・	※	・	※	・			・	ブラインド	・	・	・	・	・		※				
	ロ、ガス	※	※	※	※	※														二、防災	・	※	・	・	・			・	カーテン、遮幕	・	・	・	・	・		※				
	ハ、電気	※	※	※	※	※														ホ、ガス警報	・	※	・	・	・			・	カーテンボックス及びブラインドボックス	※	・	・	・	・		・				
	二、油	※	※	※	※	※														ハ、昇降機	・	・	・	・	※			・	カーテンレール	※	・	・	・	・		・				
屋 外 ・ 工 作 物 等	公害調査費及び対策費（工事に関する以外のもの）	・	・	・	・	・			※											昇 降 機	ト、搬送	・	・	・	・	・			・	搬送工事とする	医 療 機 器 等	ファンコイルカバー	※	・	・	・	・		・	
	電波受信障害調査費及び対策工事費	・	・	・	・	・			※																					フリーアクセスフロアー	※	・	・	・	・		・			
																														電動ラック、移動棚等	・	・	・	・	・		※			
																														サイン（室名表示、階段表示、案内板等）	※	・	・	・	・		・			
																														サイン内部照明	※	・	・	・	・		・ 配管配線の接続は電気工事			
																														自動ドア	※	・	・	・	・		・ 一次側電源供給は電気工事			
コ ン ク リ ー ト 槽 ・ 溝 等	給気送・排気送及びコンクリート風道	※	・	・	・	・			・											器 具	エレベーター三方枠、幕板	・	・	・	・	※			・	昇 降 機	エレベーター三方枠、幕板	・	・	・	・	※		・		
	給気送・排気送及びコンクリート風道	※	・	・	・	・			・												エレベーター化粧枠・化粧幕板	※	・	・	・	・			・		エレベーター化粧枠・化粧幕板	※	・	・	・	・		・		
	給気送・排気送及びコンクリート風道	※	・	・	・	・			・												エレベーター中間ビーム	※	・	・	・	・			・		エレベーター中間ビーム	※	・	・	・	・		・		
	給気送・排気送及びコンクリート風道	※	・	・	・	・			・												エレベーター用吊フック	※	・	・	・	・			・		エレベーター用吊フック	※	・	・	・	・		・		
	給気送・排気送及びコンクリート風道	※	・	・	・	・			・												エレベーター用インナーホン及び監視テレビ	・	・	・	・	※		・ 昇降路内の配管配線は昇降機工事	エレベーター用インナーホン及び監視テレビ	・	・	・	・	※		・				
	給気送・排気送及びコンクリート風道	※	・	・	・	・			・												同上昇降路外の配管配線	・	※	・	・	・			・	同上昇降路外の配管配線	・	※	・	・	・		・			
	給気送・排気送及びコンクリート風道	※	・	・	・	・			・												エレベータービット内タラップ	※	・	・	・	・			・	エレベータービット内タラップ	※	・	・	・	・		・			
	給気送・排気送及びコンクリート風道	※	・	・	・	・			・												エレベータービット内コンセント	・	※	・	・	・			・	エレベータービット内コンセント	・	※	・	・	・		・			
	給気送・排気送及びコンクリート風道	※	・	・	・	・			・												中央監視運行表示板	・	・	・	・	※		・	中央監視運行表示板	・	・	・	・	※		・				
	給気送・排気送及びコンクリート風道	※	・	・	・	・			・												地震感知路から制御盤までの配管配線	・	・	・	・	※		・	地震感知路から制御盤までの配管配線	・	・	・	・	※		・				
設 備 機 器 の 基 礎 等	給気送・排気送及びコンクリート風道	※	・	・	・	・			・											防 災									器 具											
	給気送・排気送及びコンクリート風道	※	・	・	・	・			・																															
	給気送・排気送及びコンクリート風道	※	・	・	・	・			・																															
	給気送・排気送及びコンクリート風道	※	・	・	・	・			・																															
	給気送・排気送及びコンクリート風道	※	・	・	・	・			・																															
	給気送・排気送及びコンクリート風道	※	・	・	・	・			・																															
	給気送・排気送及びコンクリート風道	※	・	・	・	・			・																															
	給気送・排気送及びコンクリート風道	※	・	・	・	・			・																															
	給気送・排気送及びコンクリート風道	※	・	・	・	・			・																															
	給気送・排気送及びコンクリート風道	※	・	・	・	・			・																															
S・S・R・C・造の開口部	給気送・排気送及びコンクリート風道	※	・	・	・	・			・											防 災									器 具											
	給気送・排気送及びコンクリート風道	※	・	・	・	・			・																															
	給気送・排気送及びコンクリート風道	※	・	・	・	・			・																															
	給気送・排気送及びコンクリート風道	※	・	・	・	・			・																															
	給気送・排気送及びコンクリート風道	※	・	・	・	・			・																															
	給気送・排気送及びコンクリート風道	※	・	・	・	・			・																															
	給気送・排気送及びコンクリート風道	※	・	・	・	・			・																															
	給気送・排気送及びコンクリート風道	※	・	・	・	・			・																															
	給気送・排気送及びコンクリート風道	※	・	・	・	・			・																															
	給気送・排気送及びコンクリート風道	※	・	・	・	・			・																															
	給気送・排気送及びコンクリート風道	※	・	・	・	・			・																															
S・S・R・C・造の開口部	給気送・排気送及びコンクリート風道	※	・	・	・	・			・											防 災									器 具											
	給気送・排気送及びコンクリート風道	※	・	・	・	・			・																															
	給気送・排気送及びコンクリート風道	※	・	・	・	・			・																															
	給気送・排気送及びコンクリート風道	※																																						



1. 種別は●印のついたものを適用し、○印のついたものは適用しない。 2. 材質は◎印のついたものを適用し、・印のついたものは適用しない。							
種別	記号	材質	備考	種別	記号	材質	備考
● 矩形ダクト		◎亜鉛鉄板 ◎ステンレス	浴室・シャワー室はステンレス製とする	○ 連結散水管	XB	・配管用炭素鋼鋼管（白） ・圧力配管用炭素鋼鋼管（白 Sch40）	
○ 排煙ダクト		・亜鉛鉄板 ・ステンレス		● スプリンクラー配管	SP	◎配管用炭素鋼鋼管（白） ・圧力配管用炭素鋼鋼管（白 Sch40）	
● スパイラルダクト		◎亜鉛鉄板 ◎ステンレス	浴室・シャワー室はステンレス製とする	○ 二酸化炭素消火配管	CO2	・配管用炭素鋼鋼管（白） ・圧力配管用炭素鋼鋼管（白 Sch80）	
○ 特殊排気ダクト		・アルファーマーコーティングダクト ・塩バイニングダクト		○ 粉末消火配管	PO	・配管用炭素鋼鋼管（白） ・圧力配管用炭素鋼鋼管（白 Sch40）	
● フレキシブルダクト		・鉄 ◎アルミ ・塩化ビニル樹脂 ・塩化ビニリデン樹脂		○ 泡消火配管	F	・配管用炭素鋼鋼管（白） ・圧力配管用炭素鋼鋼管（白 Sch40）	
● キャンバス継手				○ 中圧ガス管	MG	・ガス会社規定品 ・	
● 風量測定口				○ 低圧ガス管	G	・ガス会社規定品 ・	
● シーリング		◎アルミ	C2, E2 指定色焼き付け塗装	○ 液化石油ガス管	PG	・配管用炭素鋼鋼管（白）	
● ユニバーサル		◎アルミ	VHS, HS 指定色焼き付け塗装				
● スリット		◎アルミ	GVS 指定色焼き付け塗装				
● ライン		◎アルミ	BL, CL 指定色焼き付け塗装				
● バイプフード		◎アルミ ・ステンレス	PH 指定色焼き付け塗装	● 埋設弁			
○ 排気フード		・ステンレス （・一重 ・二重）		● 仕切弁		◎50A以下 ◎JIS5K ・JIS10K	
○ 排煙口		・鋼板 1, 6mm厚以上	指定色焼き付け塗装	● バタフライ弁		◎65A以上 ◎JIS10K	結露防止対策品：弁体SUS, 本体SUS, ギア式
● 風量調節ダンパー		◎鋼板 ◎ステンレス		○ 玉形弁		・JIS5K ・JIS10K	
● 防火ダンパー		◎鋼板 ◎ステンレス	厨房120℃ その他72℃	● 逆止弁		◎JIS10K	
○ 排煙用防火ダンパー		・鋼板 ・ステンレス	280℃	● ボール弁			
○ 防火兼用風量調節ダンパー		・鋼板 ・ステンレス		○ コック			
● モーターダンパー		◎鋼板 ・ステンレス		○ 安全弁および逃し弁			
● 逆流防止ダンパー		◎鋼板 ・ステンレス		○ 減圧弁装置			
○ 排煙ダンパー		・鋼板 ・ステンレス		○ 温度調整装置			
○ 防煙ダンパー		・鋼板 ・ステンレス		○ 電動弁装置			
○ 防火防煙ダンパー		・鋼板 ・ステンレス		● 電磁弁装置			
○ ピストンダンパー		・鋼板 ・ステンレス		● 自動エア抜き装置			
○ 防火兼用ピストンダンパー		・鋼板 ・ステンレス		○ 圧力計			
● チャンバー類（内貼は図示による）		◎亜鉛鉄板 ・ステンレス		○ 水高計			
● 消音エルボ（内貼は図示による）		◎亜鉛鉄板 ・ステンレス		○ 連成計			
				● 温度計			
○ 蒸気管（往）		・配管用炭素鋼鋼管（黒） ・圧力配管用炭素鋼鋼管（黒 Sch40） ・	（ ）内に圧力を記入	○ ストレーナー			
○ 蒸気管（還）		・配管用炭素鋼鋼管（黒） ・一般配管用ステンレス鋼管（Sch40） ・		○ 瞬間流量計			
○ 冷却水管（往）		・配管用炭素鋼鋼管（白） ・硬質塩化ビニルライニング鋼管（・VA ・VB） ・		○ トラップ装置			
○ 冷却水管（還）		・配管用炭素鋼鋼管（白） ・硬質塩化ビニルライニング鋼管（・VA ・VB） ・		● フレキシブルジョイント（円筒形）		◎ベローズ形 ◎合成ゴム	
○ MRⅠ装置用冷却水管（往）		・硬質塩化ビニルライニング鋼管（・VA ・VB） ・一般配管用ステンレス鋼鋼管		● ベローズ形伸縮継手（単式・複式）			（ ）内にSまたはDを記入
○ MRⅠ装置用冷却水管（還）		・硬質塩化ビニルライニング鋼管（・VA ・VB） ・一般配管用ステンレス鋼鋼管		● 防振継手		・ベローズ形 ◎合成ゴム ・3山ベローズ形	
○ MRⅠクエンチ管		・配管用ステンレス鋼鋼管（Sch10） ・		● 間接排水口			
● 冷媒管		◎メーカー標準品 ・		● リトラップ			
● 冷水管（往）		◎配管用炭素鋼鋼管（白） ・硬質塩化ビニルライニング鋼管（・VA ・VB） ・		● 梁貫通部			
● 冷水管（還）		◎配管用炭素鋼鋼管（白） ・硬質塩化ビニルライニング鋼管（・VA ・VB） ・		● 配管固定点			
● 温水管（往）		◎配管用炭素鋼鋼管（白） ・耐熱性硬質塩化ビニルライニング鋼管 ・		○ 油量計			
● 温水管（還）		◎配管用炭素鋼鋼管（白） ・耐熱性硬質塩化ビニルライニング鋼管 ・		○ 定水位弁			
○ 冷温水管（往）		・配管用炭素鋼鋼管（白） ・耐熱性硬質塩化ビニルライニング鋼管 ・		○ 量水器			
○ 冷温水管（還）		・配管用炭素鋼鋼管（白） ・耐熱性硬質塩化ビニルライニング鋼管 ・		○ ボールタップ			
● ドレン管		◎配管用炭素鋼鋼管（白） ◎硬質塩化ビニル管 ◎耐火VP		● 給水栓			
○ 膨張管		・配管用炭素鋼鋼管（白） ・耐熱性硬質塩化ビニルライニング鋼管 ・		● 給湯栓			
○ 油管（往）		・配管用炭素鋼鋼管（黒） ・		● 混合栓			
○ 油管（還）		・配管用炭素鋼鋼管（黒） ・		● 洗浄栓			
○ 油通気管（往）		・配管用炭素鋼鋼管（黒） ・		○ シャワー			
○ 空気抜管		・配管用炭素鋼鋼管（白） ・		● 水栓柱			
○ 上水引込管		◎水道配水用ポリエチレン管（HPPE） ・耐衝撃性硬質塩ビ管（HIVP）		● 散水栓			ボックスはステンレス製
● 上水給水管		◎塩ビライニング鋼管（一般 ◎VA ・VB） ◎水道用ポリエチレン二層管（PP）（土中）		● 床上バルブ止め			
● 加温給水管		◎塩ビライニング鋼管（一般 ◎VA ・VB）		○ 床上掃除口			
○ 雑用水揚水管		・塩ビライニング鋼管（一般 ・VA ・VB）（土中 ・VD） ・耐衝撃性硬質塩ビ管（HIVP）		● 床下掃除口			
○ 雑用水給水管		・塩ビライニング鋼管（一般 ・VA ・VB）（土中 ・VD） ・耐衝撃性硬質塩ビ管（HIVP）		○ 床排水トラップ			
● 給湯管（往）		・銅管（M） ・給湯用塩ビライニング鋼管 ◎一般配管用ステンレス鋼鋼管		● 満水試験継手			
● 給湯管（還）		・銅管（M） ・給湯用塩ビライニング鋼管 ◎一般配管用ステンレス鋼鋼管		○ グリストラップ			
○ 膨張管		・銅管（M） ・給湯用塩ビライニング鋼管 ・一般配管用ステンレス鋼鋼管		● 通気金物		◎アルミ ・ステンレス	指定色焼き付け塗装
● 雑排水管		・排水用塩ビライニング鋼管 ◎硬質塩ビ管（VP） ◎耐火二層管		○ 床上ブラグ止め			
● 汚水管		・排水用塩ビライニング鋼管 ◎硬質塩ビ管（VP） ◎耐火二層管		● トラップ樹			
● 屋外排水管		・遠心力鉄筋コンクリート管 ◎硬質塩ビ管（VP）		● 汚水樹			
● 通気管		・配管用炭素鋼鋼管（白） ◎硬質塩ビ管（VP） ◎耐火二層管		● ため樹			
● ポンプ圧送管		◎耐衝撃性硬質塩ビ管（HIVP） ・配管用炭素鋼鋼管（白） ・硬質塩ビ管（VP）		○ 公共樹			
○ 温泉排水管		・耐熱性硬質塩ビ管（HTVP） ・硬質塩ビ管（VP）		○ ーロガスカラン			
○ 人工透析排水管		・耐熱性硬質塩ビ管（HTVP） ・排水用硬質塩ビライニング管 ・硬質塩ビ管（VP）		○ ニロガスカラン			
○ 高温排水管		・強化ポリプロピレン二層管（GRP） ・排水用硬質塩ビライニング管 ・硬質塩ビ管（VP）		○ ガスコック			
○ 検査排水管		・排水用塩ビライニング鋼管 ・硬質塩ビ管（VP） ・耐火二層管		○ ガス計量器			
○ RI排水管		・耐熱性硬質塩ビ管（HTVP） ・排水用硬質塩ビライニング管 ・硬質塩ビ管（VP）					
○ 感染排水管		・排水用塩ビライニング鋼管 ・硬質塩ビ管（VP） ・耐火二層管					
○ 便器消毒器排水管		・強化ポリプロピレン二層管（GRP） ・排水用硬質塩ビライニング管 ・硬質塩ビ管（VP）					
○ 屋内消火栓配管		・配管用炭素鋼鋼管（白） ・圧力配管用炭素鋼鋼管（白 Sch40）					
○ 連結送水管		・圧力配管用炭素鋼鋼管（白 Sch40） ・	埋設・ビット配管は消火用高性能PE管とする				

件 名 岩手県立中部病院サイバーナイフ棟整備工事		
図 名 凡例・配管材質表		機械
縮 尺 -	日 付 2025/12（令和7年）	M005

### 外調機機器表

機器番号	機 器 名 称 ( 系 統 名 )	設置場所	台 数	機 器 仕 様																				送 方		備 考																									
				型 式	送 風 機 / 運 風 機								イン バー タ ー	運気量 m <sup>3</sup> /h	外気量 m <sup>3</sup> /h	排気量 m <sup>3</sup> /h	全 外 気	コ イ ル タ イ プ	冷 却 コ イ ル				予 熱 コ イ ル				加 熱 コ イ ル				加 温	暖熱交換器		全熱交換器		フィルター		防漏装置													
					風 量 m <sup>3</sup> /h	機外 静圧 Pa	電動機 ( 50 Hz )				冷却能力 L/min 7.0℃~14.0℃ Δt=7.0℃	入 口 出 口 DB ℃ WB ℃							加熱能力 kW	冷水量 L/min 49.0℃~42.0℃ Δt=7.0℃	空気条件		加熱能力 kW	温水量 L/min 49.0℃~42.0℃ Δt=7.0℃	空気条件		加熱能力 kW	温水量 L/min 49.0℃~42.0℃ Δt=7.0℃	蒸気量 kg/h	空気条件		気化式 kg/h	形式	熱効率 %	形式	熱効率 %	早 型	オ イ ー ロ ー 型	主 機 型	副 機 型	フ ィ ー ン セ ー ン 型	本 機 架 台	本 機 架 台	本 機 架 台	イン ター ロ ー ク ・ 運 動	免 状 書					
							動	相	電	極											出 口	DB			WB					入 口																	DB	WB	出 口	DB	WB
							力	圧	圧	数											源	℃			℃					℃																	℃	℃	℃	℃	℃
AC-C-01	1階 放射線治療室系統	1階 空調機械室	1	コンパクト型空気調和機	送風機	3,000	300	2.2	3	200		○	-	3,000	-	○	H+C+H	43.2	89	33.3	26.4	18.4	38	-14.1	-15.1	36.4	75	-	2.0	-2.4	18.4							○	○		○	○	○	○	○	基礎は建築工事					
	外調機																		14.8	14.3				2.4	-3.5																										
AC-C-02	2階 更衣室、会議室系統	2階 空調機械室	1	コンパクト型空気調和機	送風機	2,000	280	1.5	3	200		○	-	2,000	-	○	H+C+H	28.8	59	33.3	26.4	12.4	26	-14.1	-15.1	24.3	50	-	2.0	-2.4	12.3											○	○		○	○	○	○	○	基礎は建築工事	
	外調機																																																		
注記 下記仕様について ○を適用する。 ○かない場合は×を適用する。																																																			
1 機器仕様は公共建築工事標準仕様書とする。																6 全熱交換器には、静圧測定孔、差圧計、中継期間欠運転制動警付及び排気流入防止装置付とする。																11 予熱コイルの空気入口条件は既設外調機による。																			
2 空調機コイル通過風速は、ユニット型(※2.5m/s以下 ・ m/s)、コンパクト型(※3.0m/s以下 ・ m/s)とする。																7 インバーター制御型は、機器表表記 ○ コンパクト型空調機込 : 一般空調機は別途電気工事 とする。																12 24時間運転とし、スイッチに24時間運転の表記を行う。																			
3 フィルタ－仕様 (◎多分交換型 ・ 洗淨型) 予備フィルタ－ (◎ 全フィルタ－の50% ※ 不要)																8 インバーター制御型は高用途用途運転制御型(※有り ・ 無し)とする。																																			
4 空調機には、空気清浄装置(メインフィルタ－等)前後の有効な圧損は差圧計を設ける。																9 機器表にてインバーター指定のない風量調整は、(・スフロー)ダンパ ※メーカー標準)とする。																																			
5 電動機は (※高効率仕様 JIS C 4212 ・メーカー標準仕様 ・ )とする。																10 コイルタイプ(スリーコイル) H+C+H:予熱コイル+冷水コイル+温水コイル																																			

### 空冷ヒートポンプ機器表

機 器 番 号	機 器 名 称 (系 統 名)	設 置 場 所	型 式	室 外 機										室 内 機														非 常 電 源	イン タ ク ロ ッ ク 連 動	送 方			冷 媒 配 管	防振設置	備 考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
				設 置 階	台 数	冷房能力 KW	吸込空気温度	暖房能力 KW	吸込空気温度	送風機 KW	圧縮機 KW	電 源		設 置 階	台 数	冷房能力 KW	吸込空気温度	暖房能力 KW	吸込空気温度	送 風 機			圧縮機 KW	電 源		外気量 m <sup>3</sup> /h	有効 加熱量 kg/h			フ ィ ル タ ー																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
												相 電 圧	電 圧							送風量 m <sup>3</sup> /h	機 外 静 圧 Pa	出 力 KW		相 電 圧	電 圧																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						

＜共通仕様＞

- |   |  |   |
|---|--|---|
| <p>2) 室外機基礎については、建築工事とする。</p>   | <p>3) ACP-C1, ACP-C2, ACP-C3は停電時自動復帰機能とする。</p> <p>4) 屋外機～屋内機間の通り配管、配線及びリモコン及びリモコンへの配線工事は本工事とする。</p> <p>5) 屋内機はドレンアップポンプ内蔵とする。</p> <p>6) 冷媒は新冷媒(R32・R410A)とする。</p> <p>7) 冷媒漏洩対策を行うこと。(冷媒漏洩検知器, 警報機, 遮断弁(配管・配線共)本工事)</p> | <p>8) 室外機には防雪フードを吸込側、吹出側共設置とする。</p> <p>9) 防雪対策として、室外機には500Hの策台(SUS製)を設置する。</p> <p>10) 電気容量(kW)等は参考値であり、当該機器等の製作によって多少異なるも、その機器または性能を満足すれば差し支えないこととする。詳細は機器承諾図により決定すること。</p> |
| <p>(ACP-C1: 冷房 入口空気温度 21℃DB 50%RH、暖房 入口空気温度 21℃DB 40%RH)</p> <p>(ACP-C2: 冷房 入口空気温度 26℃DB 50%RH、暖房 入口空気温度 22℃DB 40%RH)</p> <p>(ACP-C3 冷房 入口空気温度 24℃DB 50%RH、暖房 入口空気温度 22℃DB 40%RH)</p> |  |   |

件 名 岩手県立中部病院サイバーナフ棟整備工事		
図 名 空調と設備 機器表(1)		機械
縮 尺 ー	日 付 2025/12(令和7年)	M101

### 送風機・排風機機器表

[illegible]

#### 除溫器機器表

[illegible]

件 名 岩手県立中部病院サイバーナイフ棟整備工事		
図 名 空調設備 機器表 (2)		機械
縮 尺 —	日 付 2025/12 (令和7年)	M102



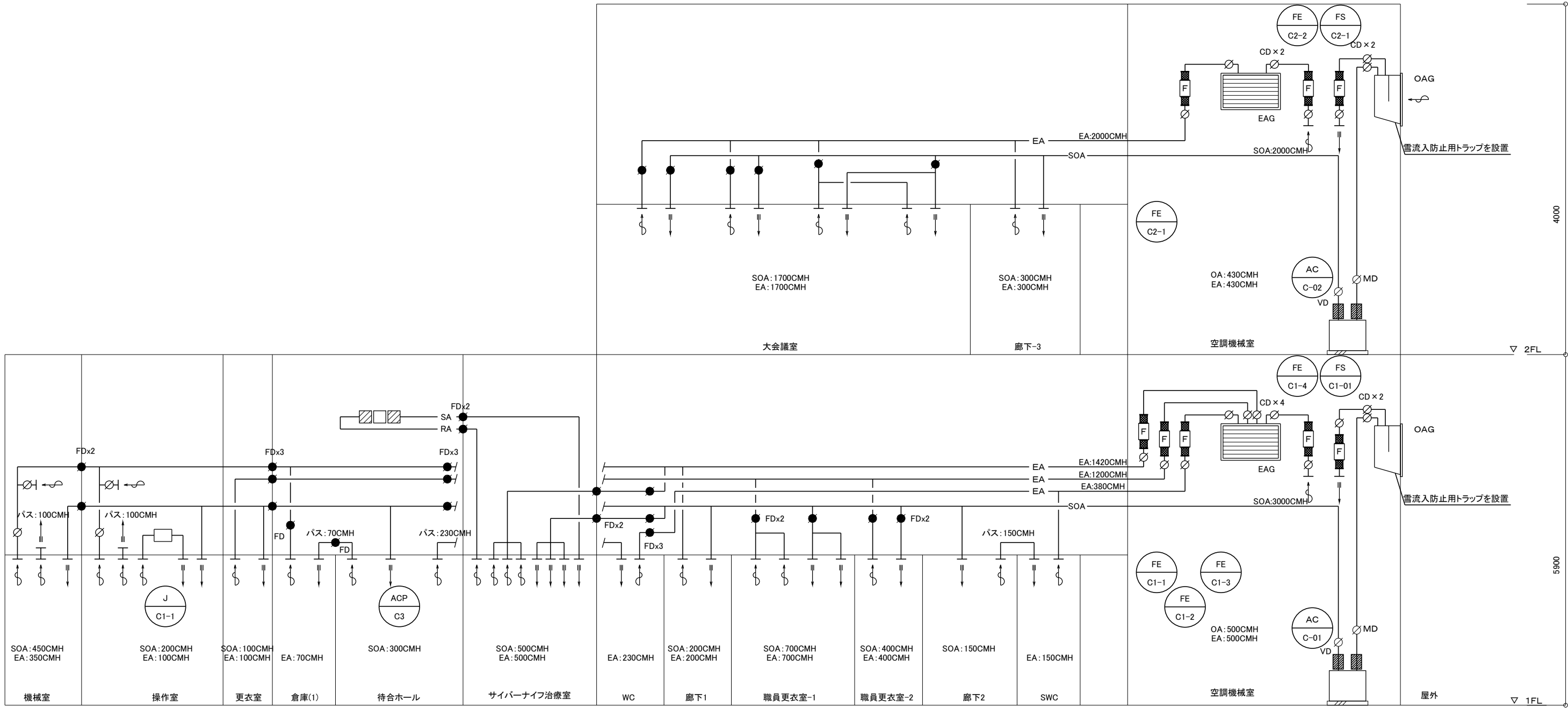
換気計算書

階数	室名	建築			換気設備 計算																		
		床面積 A f	天井高 h	気積 Q	換気回数による換気量		人員による換気量						局所排気	シックハウス 24時間換気		算定根拠	決定風量	気積に対する 換気回数 n	給気機に よる給気量	排気機に よる排気量	換気種別	機器	
					V=nQ		建令20条-1 V=20Af/N		設備設計基準V=30Af/n					O × 0.3									
					n	V : ①	N	V : ?	n	N	V : ③												
												(回/h)			(m3/h)								
(m2)	(m)	(m3)	(回/h)	(m3/h)	m2/人	m3/h	人/m2	人	m3/h	(m3/h)		(m3/h)	m3/h	回	m3/h	m3/h	給気機	排気機					
1	機械室	19.69	3.2	63.1	5	320	5	78.8	0.15	3	90			①	450	7.13	450	350 (100)	第1種	AC — C1 — 1	FE — C1 — 1		
1	機械室天井裏	19.69	1.1	21.7	1	30								①	100	4.61	100	100	第3種		FE — C1 — 1		
1	操作室	27.88	2.5	69.7	2	140	5	111.5	0.15	4	120		○	20.91	③	200	2.87	200	100 (100)	第3種	AC — C1 — 1	FE — C1 — 1	
1	操作室天井裏	27.88	1.8	50.2	1	60							○	15.06	①	100	1.99	100	100	第3種		FE — C1 — 1	
1	サイバーナイフ治療室	78.37	4.4	344.9	2	690	5	313.5	0.15	12	360		○	103.47	③	500	1.45	500	500	第1種	AC — C1 — 1	FE — C1 — 1	
1	更衣室	5.49	2.5	13.8	5	70	5	22	0.15	1	30				①	100	7.25	100	100	第1種	AC — C1 — 1	FE — C1 — 2	
1	職員更衣室-1	52.11	2.5	130.3	5	660	5	208.4	0.15	8	240				①	700	5.37	700	700	第1種	AC — C1 — 1	FE — C1 — 2	
1	職員更衣室-2	25.85	2.5	64.7	5	330	5	103.4	0.15	4	120				①	400	6.18	400	400	第1種	AC — C1 — 1	FE — C1 — 2	
1	振り廊下	72.19	2.6	187.7																			
1	空調機械室	22.54	4.4	99.2	5	500									①	500	5.04	500	500	第1種	FS — C1 — 1	FE — C1 — 4	
1	待合ホール	47.35	2.75	130.3	2	270	5	189.4	0.15	7	210		○	39.09	①	300	2.3	300	70 (230)	第2種	AC — C1 — 1		
1	WC	6.12	2.5	15.3	15	230							○	4.59	①	230	15.03	230	230	第2種		FE — C1 — 3	
1	倉庫	4.79	2.5	12	5	60							○	3.6	①	70	5.83	70	70	第3種		FE — C1 — 1	
1	廊下-1	37.64	2.6	97.9	2	200									①	200	2.04	200	200	第1種	AC — C1 — 1	FE — C1 — 1	
1	廊下-2	35.61	2.6	92.6	1	100									①	150	1.62	150	150	第2種	AC — C1 — 1		
1	SWC	3.09	2.5	7.8	15	120									①	150	19.23	150	150	第3種		FE — C1 — 3	
	合計	312.78										AC-C1-1				3000							
2	大会議室	103.23	2.5	258.1	5	1300	5	412.9	0.5	52	1560		○	77.43	③	1700	6.59	1700	1700	第1種	AC — C2 — 1	FE — C2 — 1	
2	廊下	58.1	2.5	145.3	2	300	5	232.4	0.15	9	270				①	300	2.06	300	300	第1種	AC — C2 — 1	FE — C2 — 1	
2	空調機械室	22.54	3.8	85.7	5	430									①	430	5.02	430	430	第1種	FS — C2 — 1	FE — C2 — 2	
	合計	183.87										AC-C2-1				2000							

※（ ）内の換気風量はパスによるものとする

制気ロリスト

階	部屋名	系統	種別	合計風量	個数	風量	器具名称	結露防止仕様	サイズ		BOXサイズ			内貼り	系統	種別	合計風量	個数	風量	器具名称	結露防止仕様	サイズ		BOXサイズ			内貼り	備考
				(m3/h)		(m3/h)	(m/s)	(m2)	W	D	W	D	H	GW25			(m3/h)		(m3/h)	(m/s)	(m2)	W	D	W	D	H	GW25	
									(mm)	(mm)	(mm)	(mm)	(mm)									(mm)	(mm)	(mm)	(mm)	(mm)		
1	機械室	AC－C1－1	SOA	450	1	450	VHS	○	250	250	450	450	400	○	FE－C1－1	EA	350	1	350	HS		200	200	400	400	400	○	
1	機械室															PASS	100	1	100	HS		150	150	350	350	350	○	
1	機械室天井裏		PASS	100	1	100	金網		150φ						FE－C1－1	EA	100	1	100	金網		150φ						
1	操作室	AC－C1－1	SOA	200	1	200	VHS	○	150	150	350	350	350	○	FE－C1－1	EA	100	1	100	HS		100	100	300	300	350	○	
1	操作室															PASS	100	1	100	HS		150	150	350	350	350	○	
1	操作室	J－C1－1	SA	780	1	780	VHS	○	350	350	550	550	500	○	J－C1－1	RA	780	1	780	HS		350	350	550	550	500	○	
1	操作室天井裏		PASS	100	1	100	金網		150φ						FE－C1－1	EA	100	1	100	金網		150φ						
1	サイバーナイフ治療室	AC－C1－1	SOA	500	1	500	VHS	○	300	300	500	500	400	○	FE－C1－1	EA	500	1	500	HS		300	300	500	500	400	○	
1	サイバーナイフ治療室	ACP－C3	SA	2040	3	680	E2	○	#25		500	500	450	○	ACP－C3	RA	2040	3	680	HS		400	400	600	600	450	○	
1	倉庫(1)		PASS	70	1	70	VHS		100	100	300	300	350	○	FE－C1－1	EA	70	1	70	HS		50	50	250	250	350	○	
1	更衣室	AC－C1－1	SOA	100	1	100	VHS	○	100	100	300	300	350	○	FE－C1－2	EA	100	1	100	HS		100	100	300	300	350	○	
1	職員更衣室-1	AC－C1－1	SOA	700	2	350	VHS	○	200	200	400	400	400	○	FE－C1－2	EA	700	2	350	HS		200	200	400	400	400	○	
1	職員更衣室-2	AC－C1－1	SOA	400	1	400	VHS	○	250	250	450	450	400	○	FE－C1－2	EA	400	1	400	HS		250	250	450	450	400	○	
1	空調機械室	FS－C1－1	OA	500	1	500	VHS		300	300	500	500	400		FE－C1－4	EA	500	1	500	HS		300	300	500	500	400		
1	待合ホール	AC－C1－1	SOA	300	1	300	VHS	○	200	200	400	400	400	○		PASS	230	1	230	HS		300	300	500	500	400		
1	待合ホール															PASS	70	1	70	HS		100	100	300	300	350		
1	廊下-1	AC－C1－1	SOA	200	1	200	VHS	○	150	150	350	350	350	○	FE－C1－1	EA	200	1	200	HS		150	150	350	350	350	○	
1	廊下-2	AC－C1－1	SOA	150	1	150	VHS	○	100	100	300	300	350	○		PASS	150	1	150	HS		200	200	400	400	400	○	
1	WC		PASS	230	1	230	VHS		300	300	500	500	400	○	FE－C1－3	EA	230	1	230	HS		150	150	350	350	350		
1	SWC		PASS	150	1	150	VHS		200	200	400	400	400	○	FE－C1－3	EA	150	1	150	HS		100	100	300	300	350		
2	大会議室	AC－C2－1	SOA	1700	4	425	VHS	○	250	250	450	450	400	○	FE－C2－1	EA	1700	4	425	HS		250	250	450	450	400	○	
2	廊下	AC－C2－1	SOA	300	1	300	VHS	○	200	200	400	400	400	○	FE－C2－1	EA	300	1	300	HS		200	200	400	400	400	○	
2	空調機械室	FS－C2－1	OA	430	1	430	VHS		250	250	450	450	400		FE－C2－2	EA	430	1	430	HS		250	250	450	450	400		

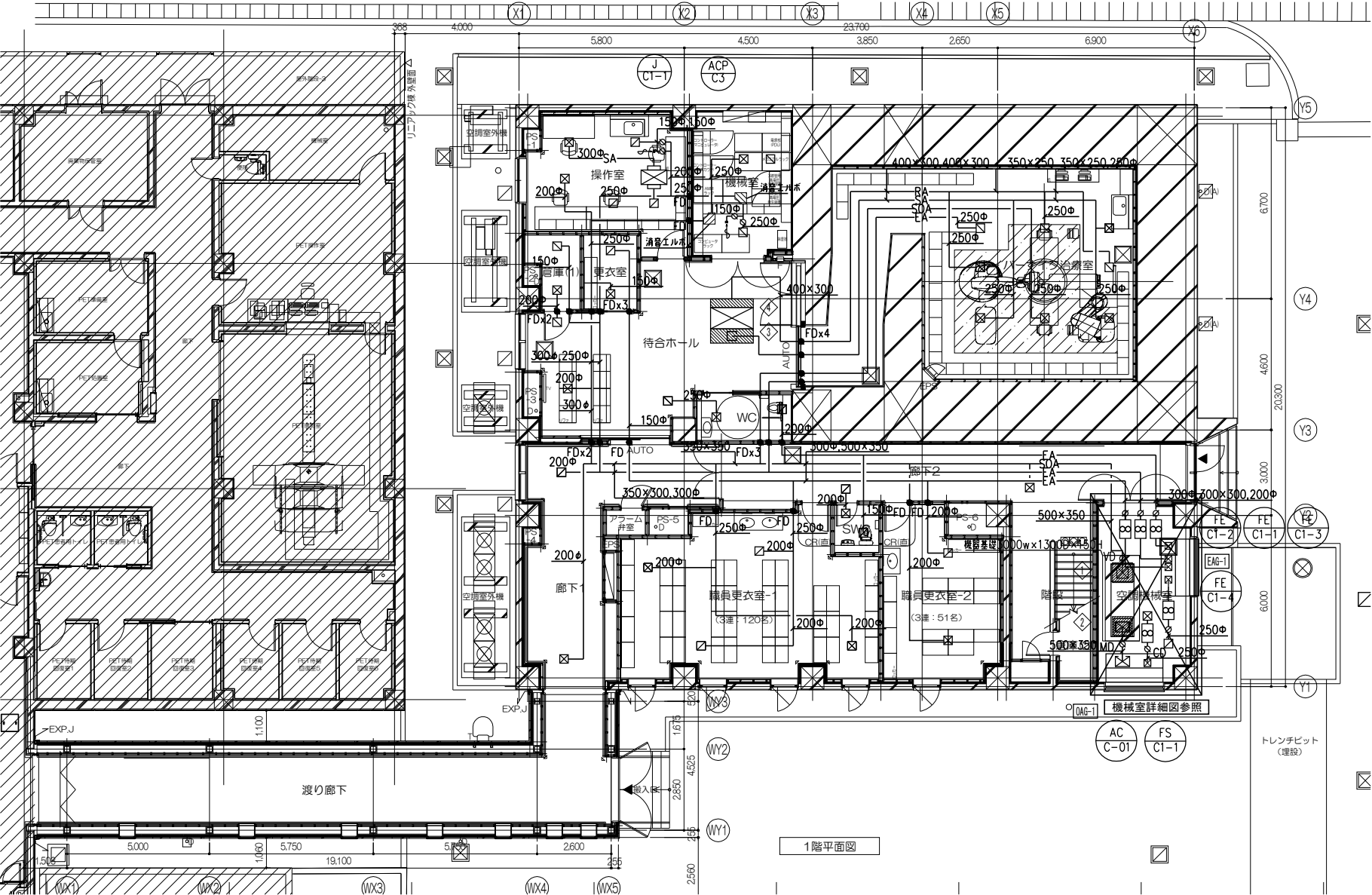


空調設備 ダクト系統図

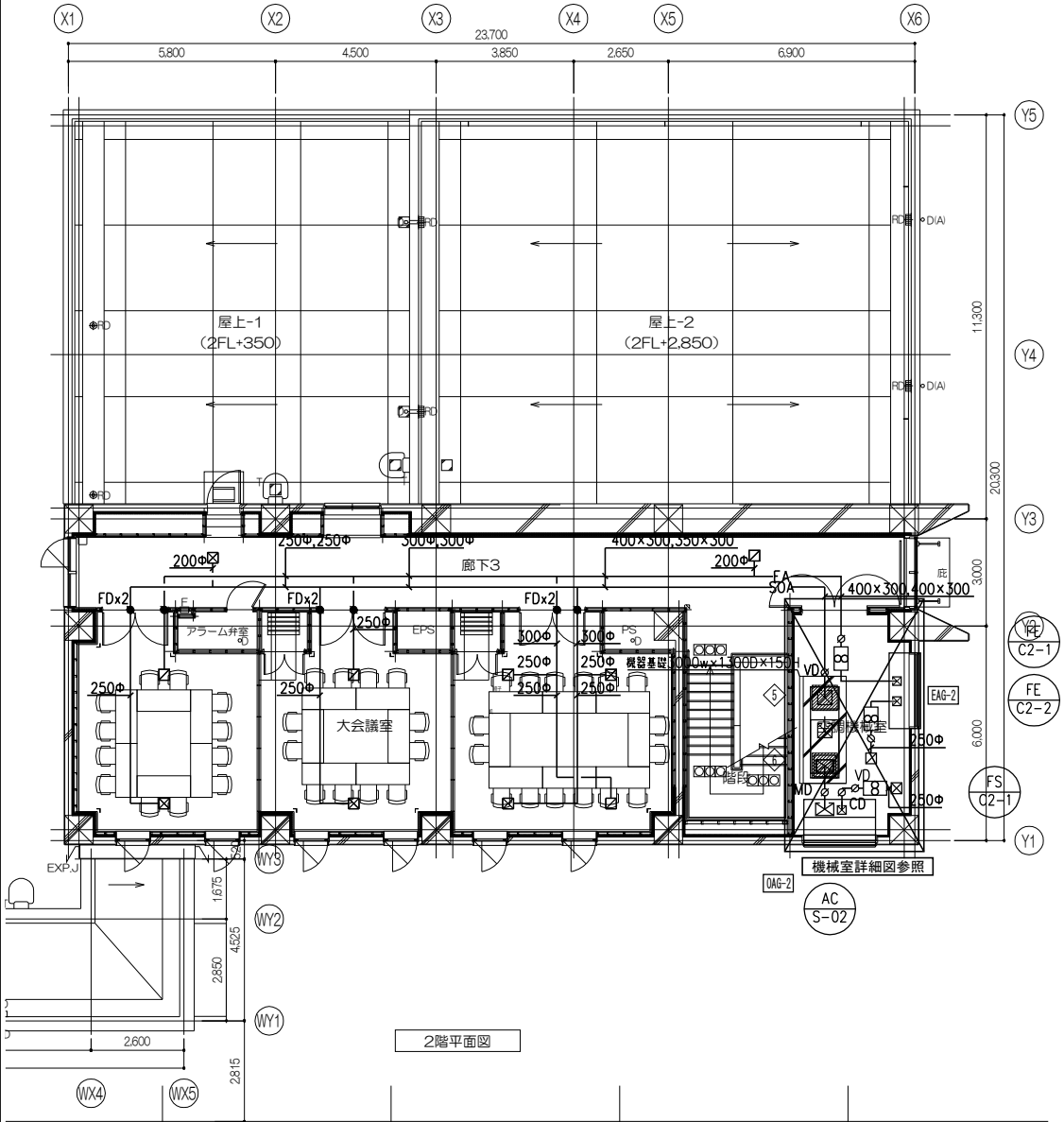
注記 1) 図中特記無き ∅はVDを表す。  
2) 図中 ∅MD はモーターダンパーを表す。  
3) 排風機・送風機とダクトの接続部にはキャンパス継手を設置すること。

件 名 岩手県立中部病院サイバーナイフ棟整備工事		
図 名 空調調和設備 ダクト系統図		機械
縮 尺 —	日 付 2025/12 (令和7年)	M104

空調設備 1階ダクト平面図



空調設備 2階ダクト平面図



ガラリリスト

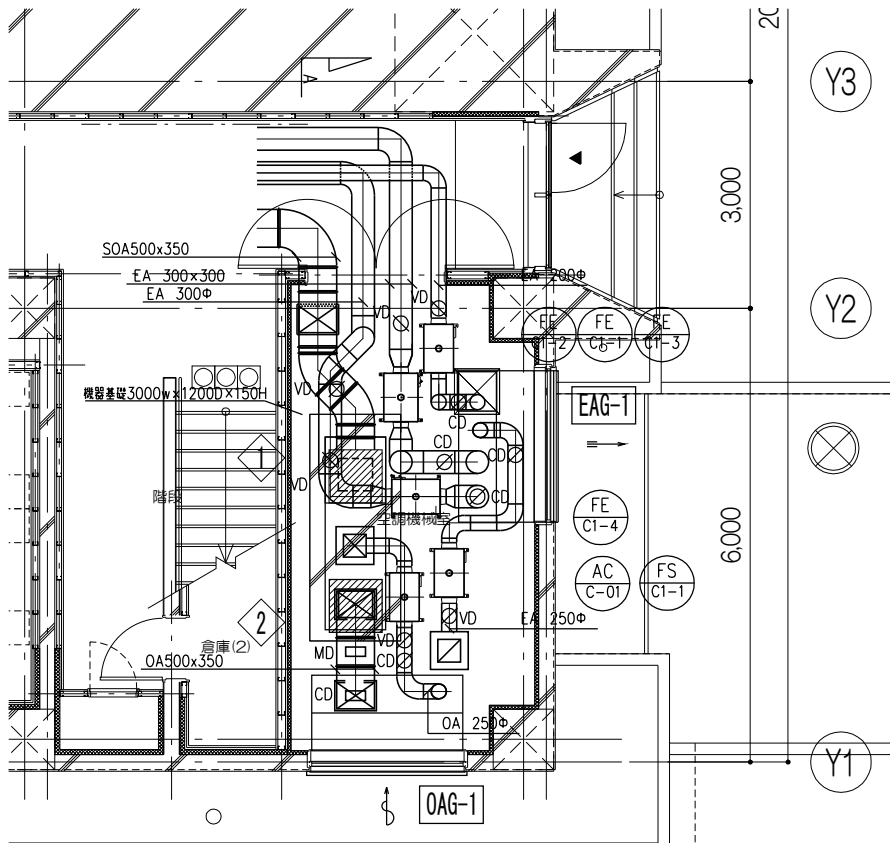
番号	種別	風量	風速	開口率	必要面積	ガラリ寸法			チャンバー寸法			中仕切り	個数	内張り GW25mm	備考
		[m3/h]	[m/s]			W [mm]	H [mm]		W [mm]	D [mm]	H [mm]				
EAG-1	EA	3500	2.0	30	1.63	2000	1000		2000	1000	1000	1	1	○	雪流入防止用トラップ設置
OAG-1	OA	3500	2.0	30	1.63	2000	1000		2000	1000	1000	1	1	○	雪流入防止用トラップ設置
EAG-2	EA	2430	2.0	30	1.13	2000	1000		2000	1000	1000	1	1	○	雪流入防止用トラップ設置
OAG-2	OA	2430	2.0	30	1.13	2000	1000		2000	1000	1000	1	1	○	雪流入防止用トラップ設置

※ガラリは建築工事とする

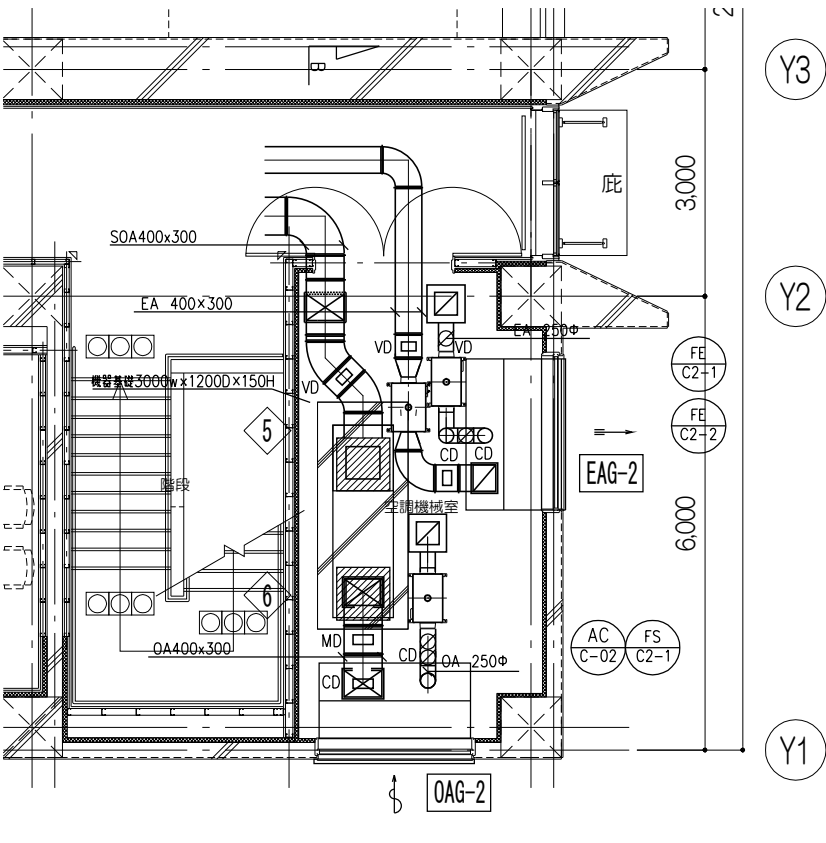
チャンバーリスト (1.2階)

No	機器番号	種別	チャンバー寸法			内貼	個数	備 考
			W	D	H			
①	AC-S-01	SOA	700	700	600	GW25t	1	
②	AC-S-01	OA	700	700	600	GW25t	1	
③	ACP-C3	SA	1500	500	400	GW25t	1	
④	ACP-C3	RA	1500	300	400	GW25t	1	
⑤	AC-S-02	SOA	700	700	600	GW25t	1	
⑥	AC-S-02	OA	700	700	600	GW25t	1	

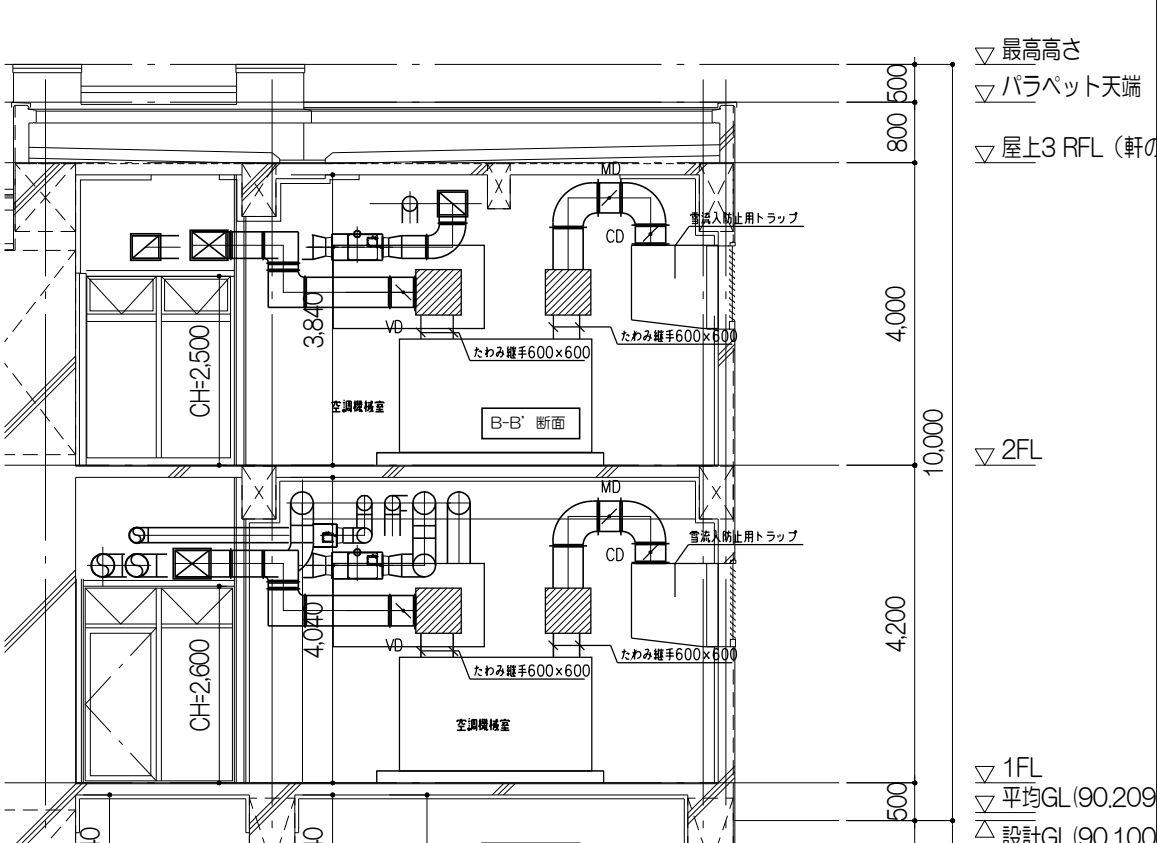




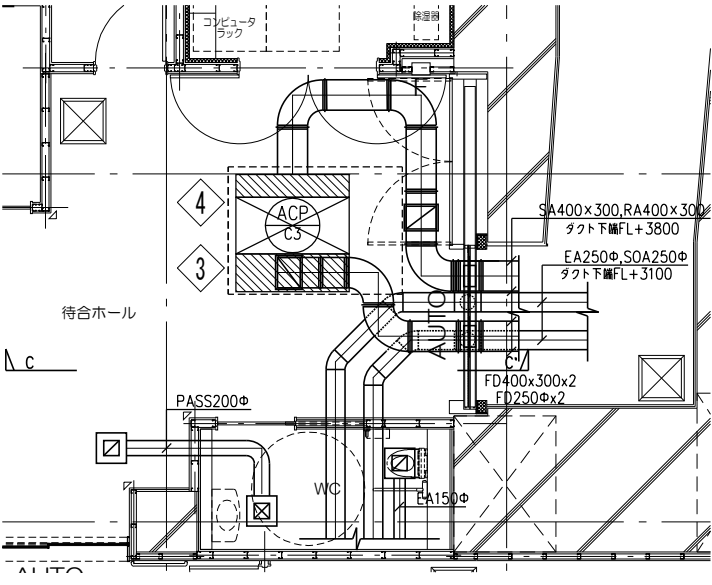
1階空調機械室平面図



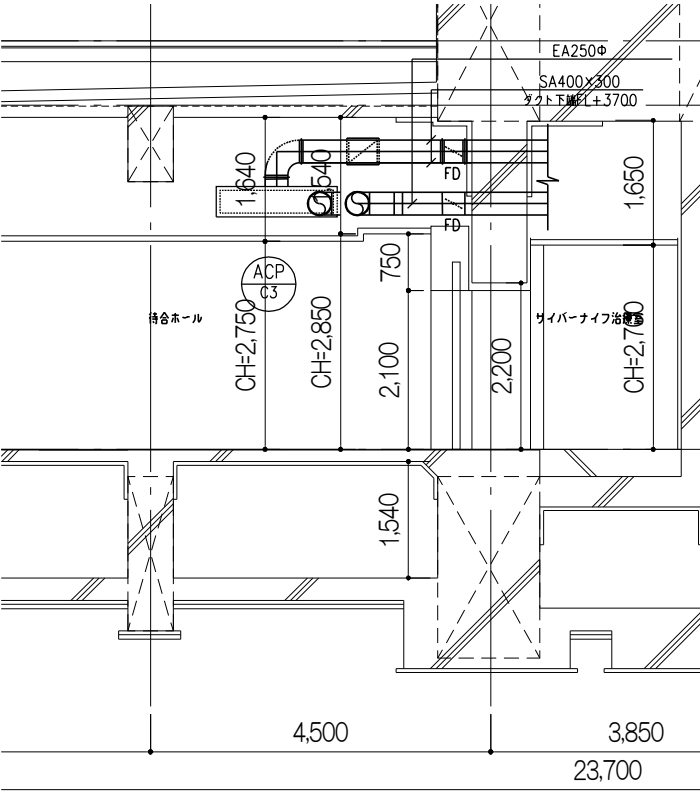
2階空調機械室平面図



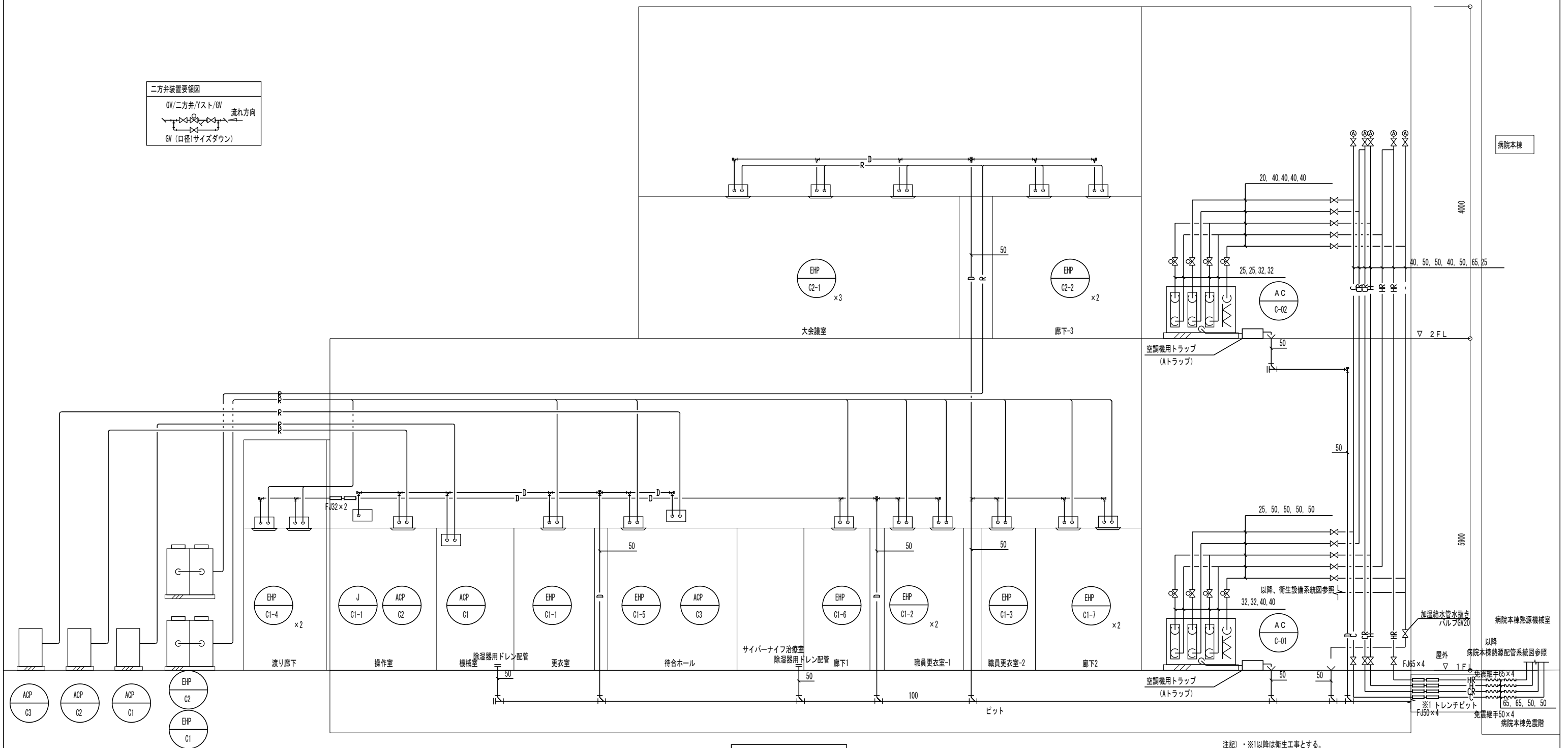
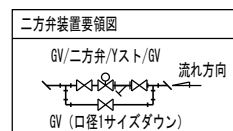
1.2階空調機械室断面図



1階待合ホール平面図

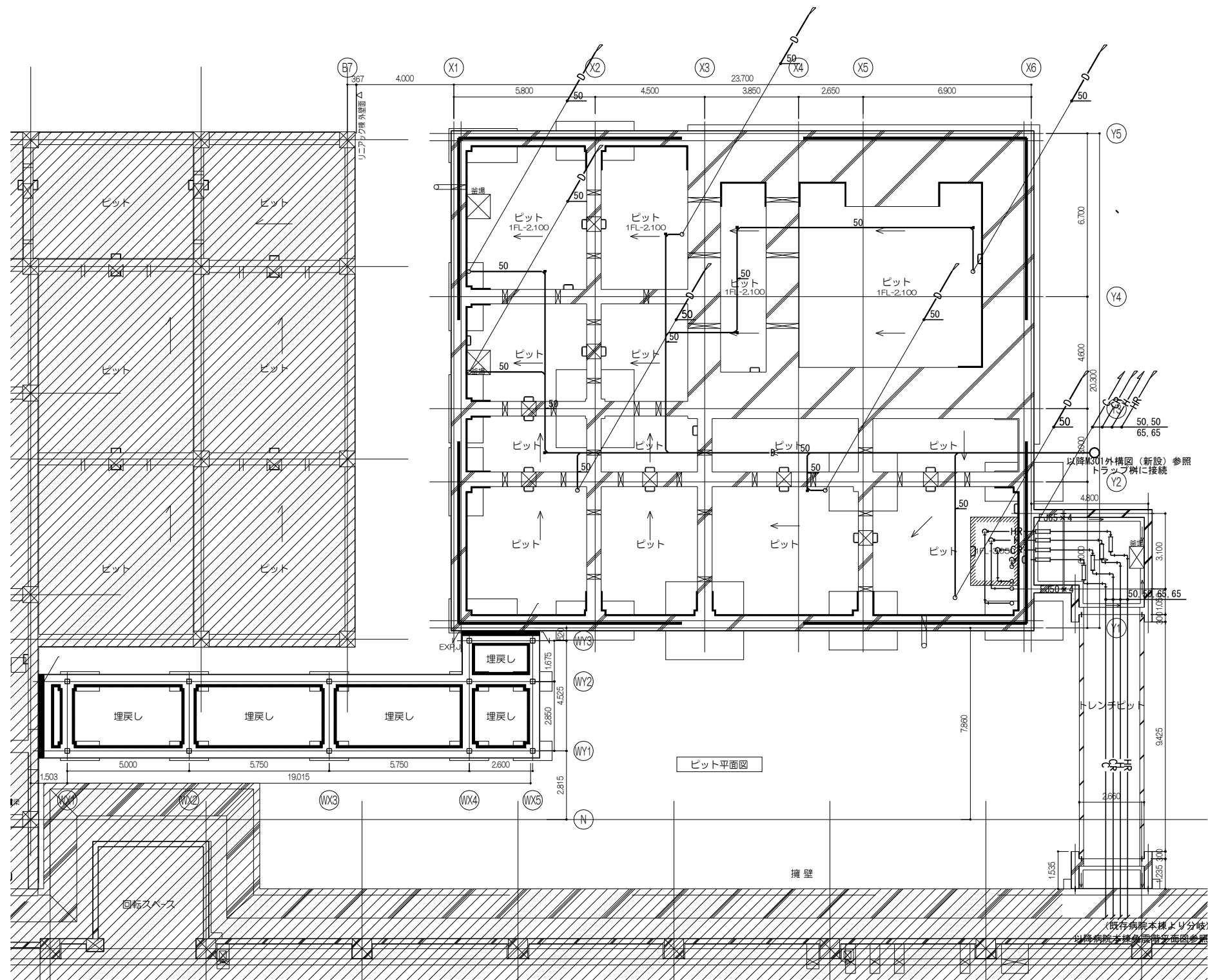


C-C' 断面



注記)・※1以降は衛生工事とする。  
・図中の  は二方弁装置を示す。

件 名 岩手県立中部病院サイバーナイフ棟整備工事		
図 名	空調和設備 サイバーナイフ棟・病院本棟 配管系統図	機械
縮 尺 一	日 付 2025/12 (令和7年)	M107

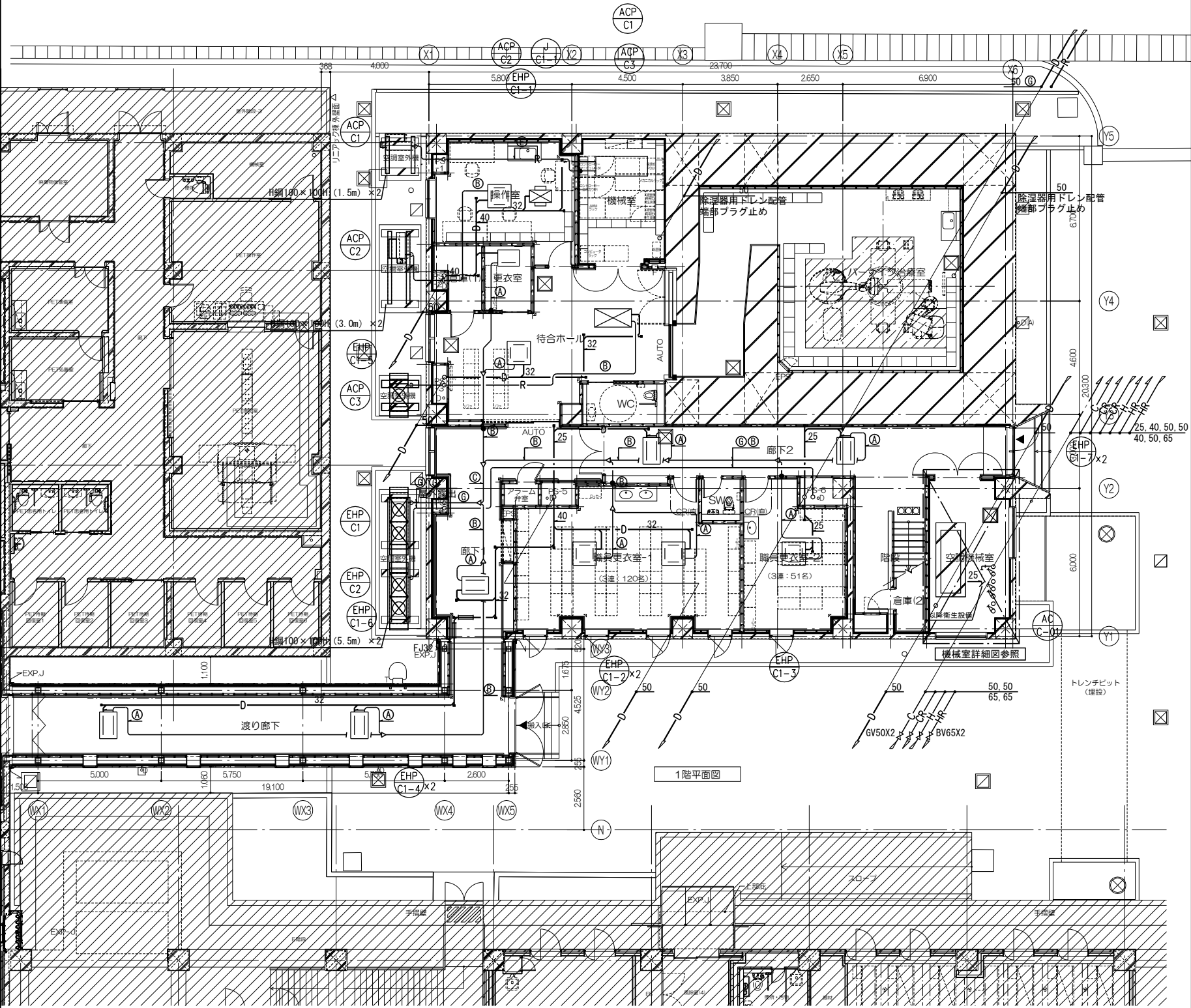


注記)  
・特記無き配管は、ビット内配管とする。

件 名 岩手県立中部病院サイバーナイフ棟整備工事		
図 名 空調和設備 ビット階配管平面図		機械
縮 尺 1/100(A1)1/200(A3)	日 付 2025/12 (令和7年)	M108

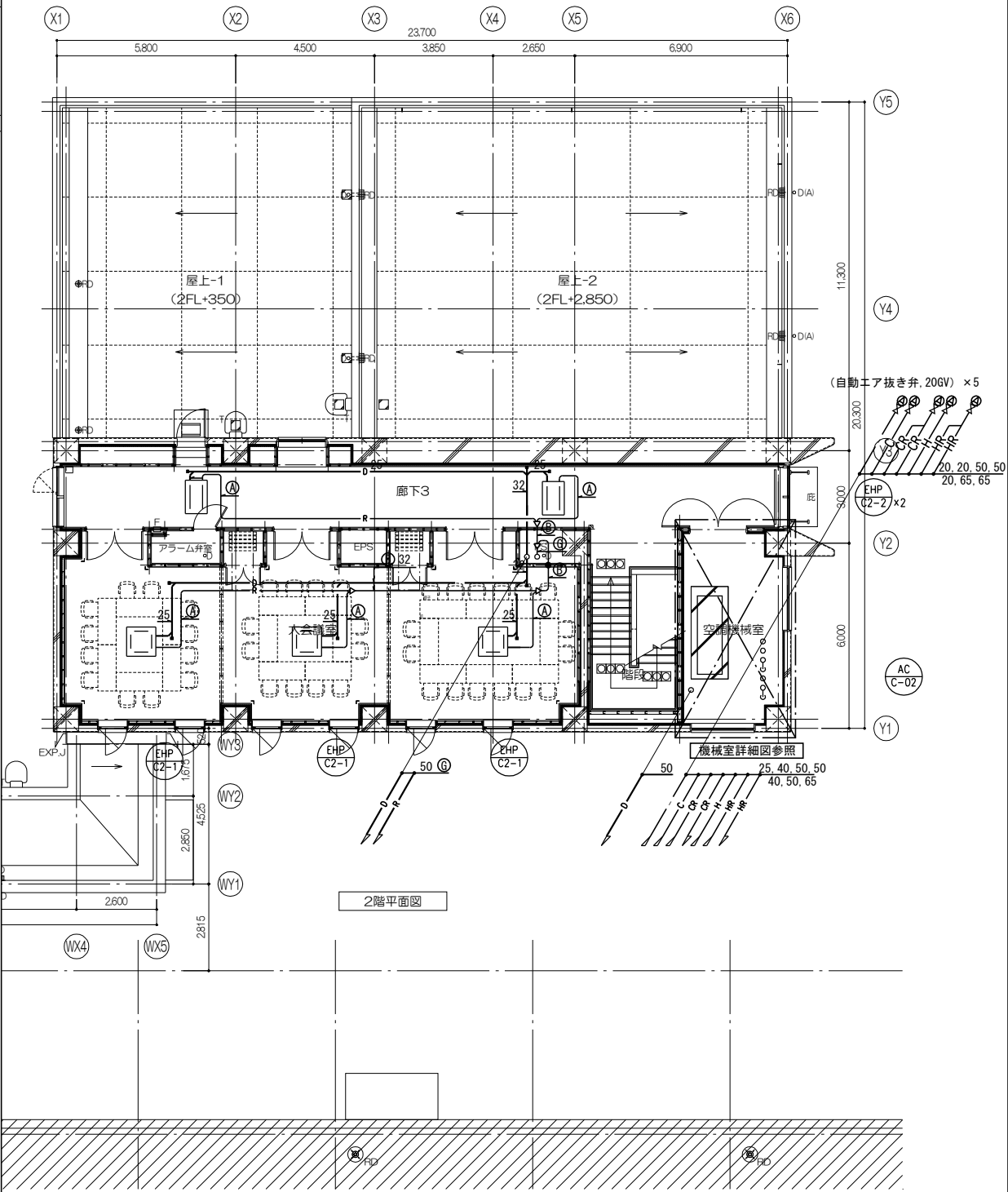


空調設備 1階配管平面図



1階平面図

空調設備 2階配管平面図



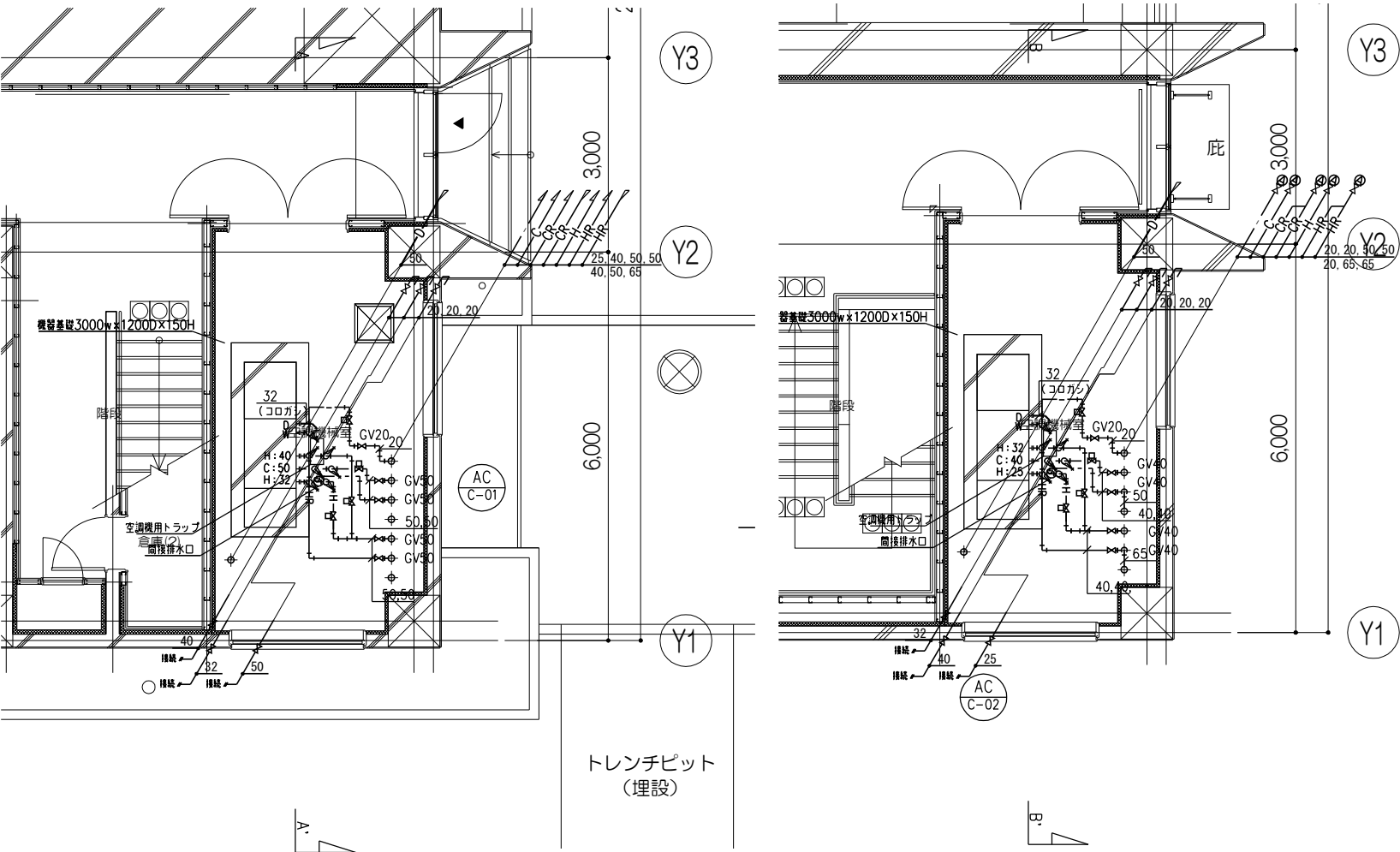
2階平面図

冷媒管サイズ表

記号	液 管	ガス管
①	6.35φ	12.70φ
②	9.52φ	15.88φ
③	9.52φ	19.05φ
④	9.52φ	22.20φ
⑤	9.52φ	25.40φ
⑥	12.70φ	19.05φ
⑦	12.70φ	22.20φ

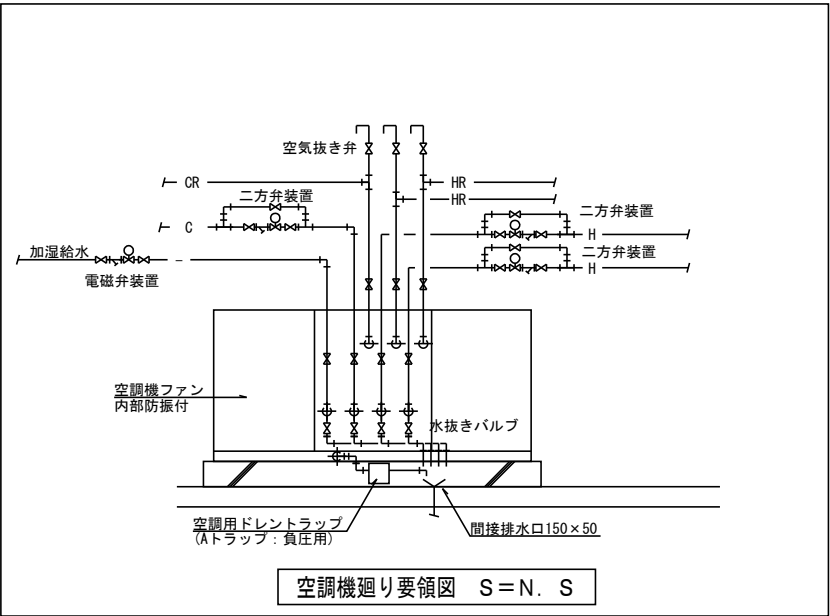
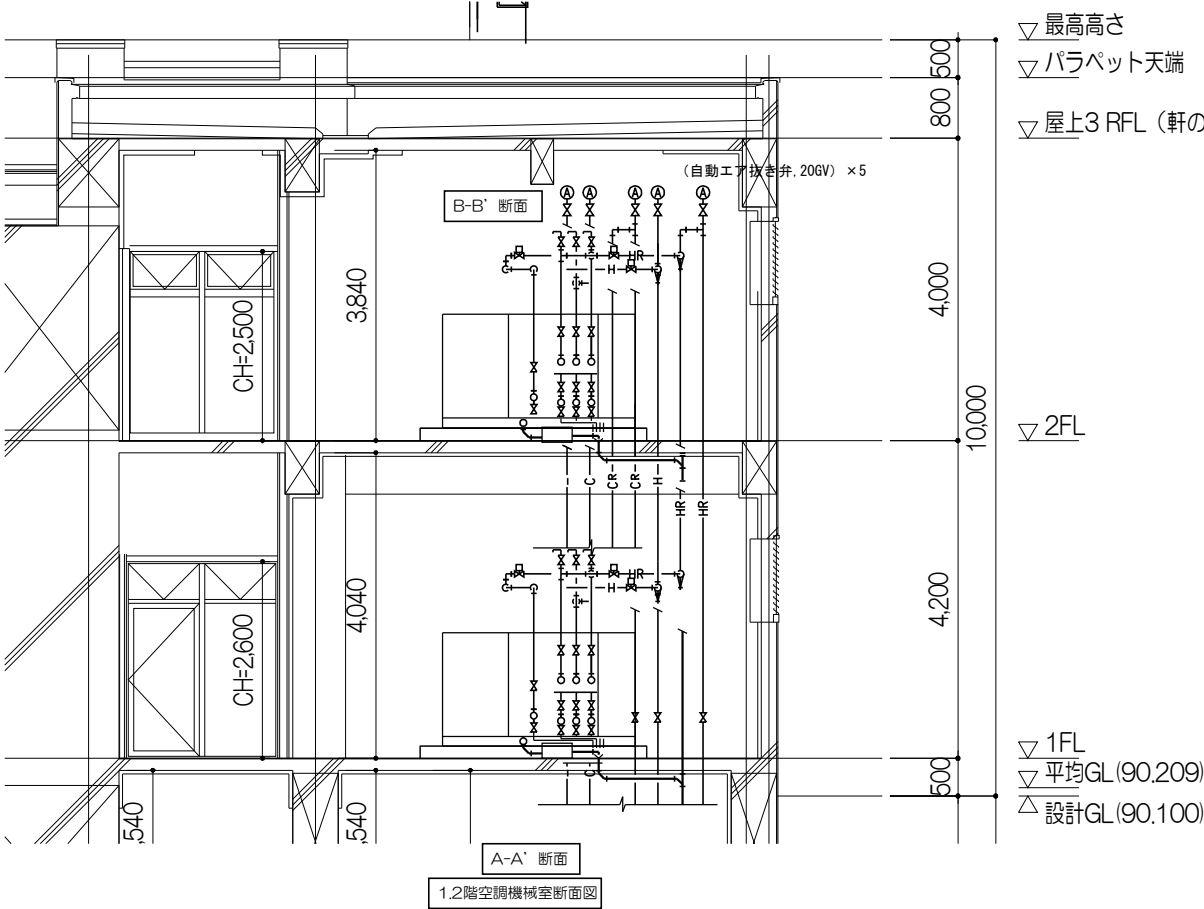
注記

- ・特記無き場合、各機器へのドレン管接続サイズは、25Aとする。
- ・特記無き配管は、天井配管とする。
- ・室内機・室外機の渡り配線は冷媒配管共巻きとする。
- ・(EHPベア：EMOEE-3.5□-3C+IE1.6) (EHPマルチ：EM-CEE-1.25□-2C)
- ・図中の — R ● — は防火区画貫通処理必要箇所を示す。
- ・(処理方法：国土交通大臣認定工法)



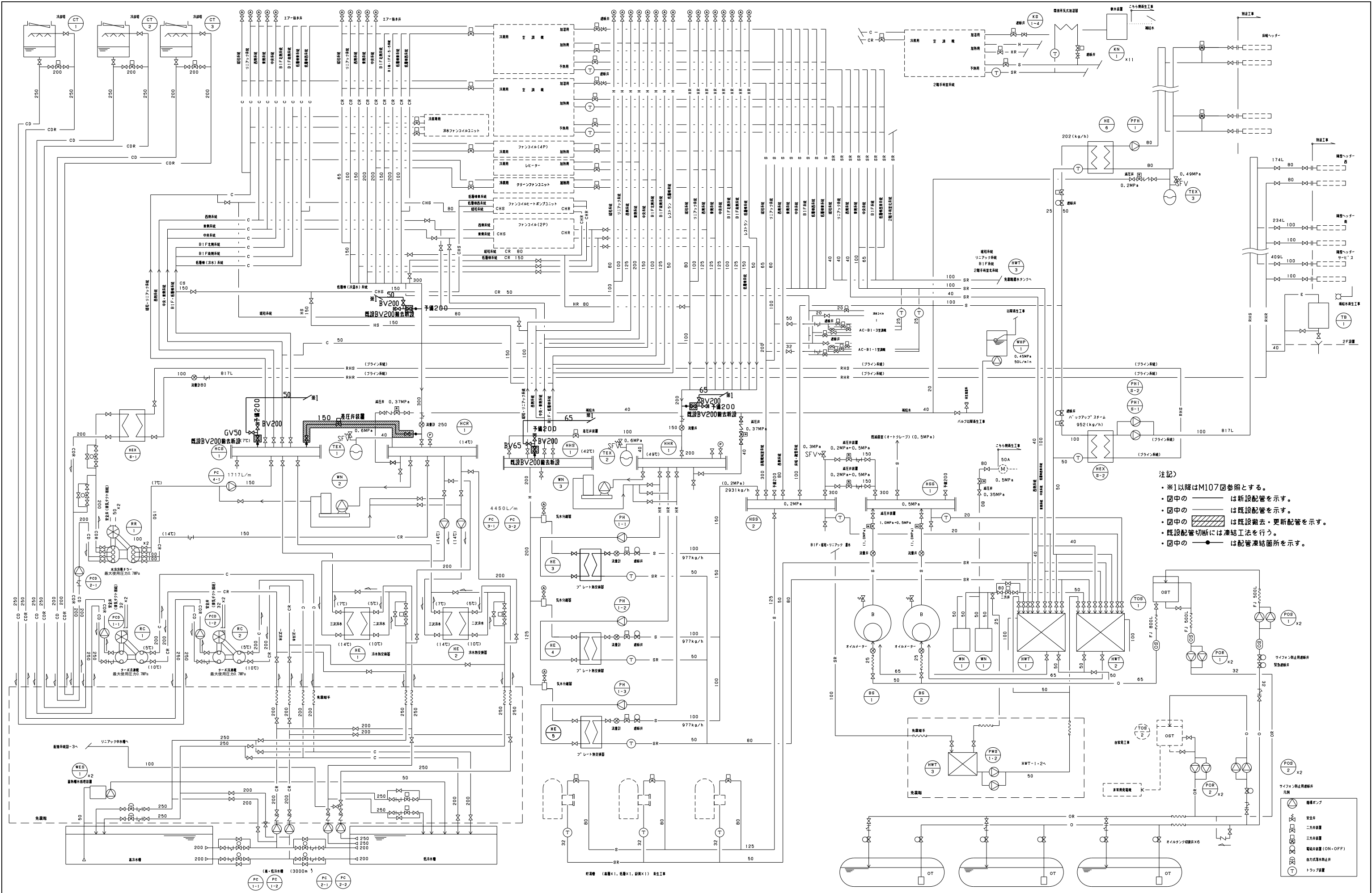
1階空調機械室平面図

2階空調機械室平面図



バルブリスト

機種	外調機	AC-S-01	AC-S-02	備考
管 埋				
温水 (予熱)	仕切弁	32×1	25×1	
	電動二方弁装置	32-25×1	25-15×1	
	エア抜弁GV	20×1	20×1	
温水	仕切弁	40×2	32×2	
	電動二方弁装置	40-32×1	32-25×1	
	エア抜弁GV	20×1	20×1	
冷水	仕切弁	50×2	40×2	
	電動二方弁装置	50-40×1	40-32×1	
	エア抜弁GV	20×1	20×1	
加温給水	仕切弁	20×1	20×1	
	電動二方弁装置	20-15×1	20-15×1	
排水	仕切弁	20×4	20×4	
	空調機トラップ	50×1	50×1	
	間接排水口	1 150×50×1	150×50×1	
計器	水用温度計	6	6	
	水用圧力計	6	6	

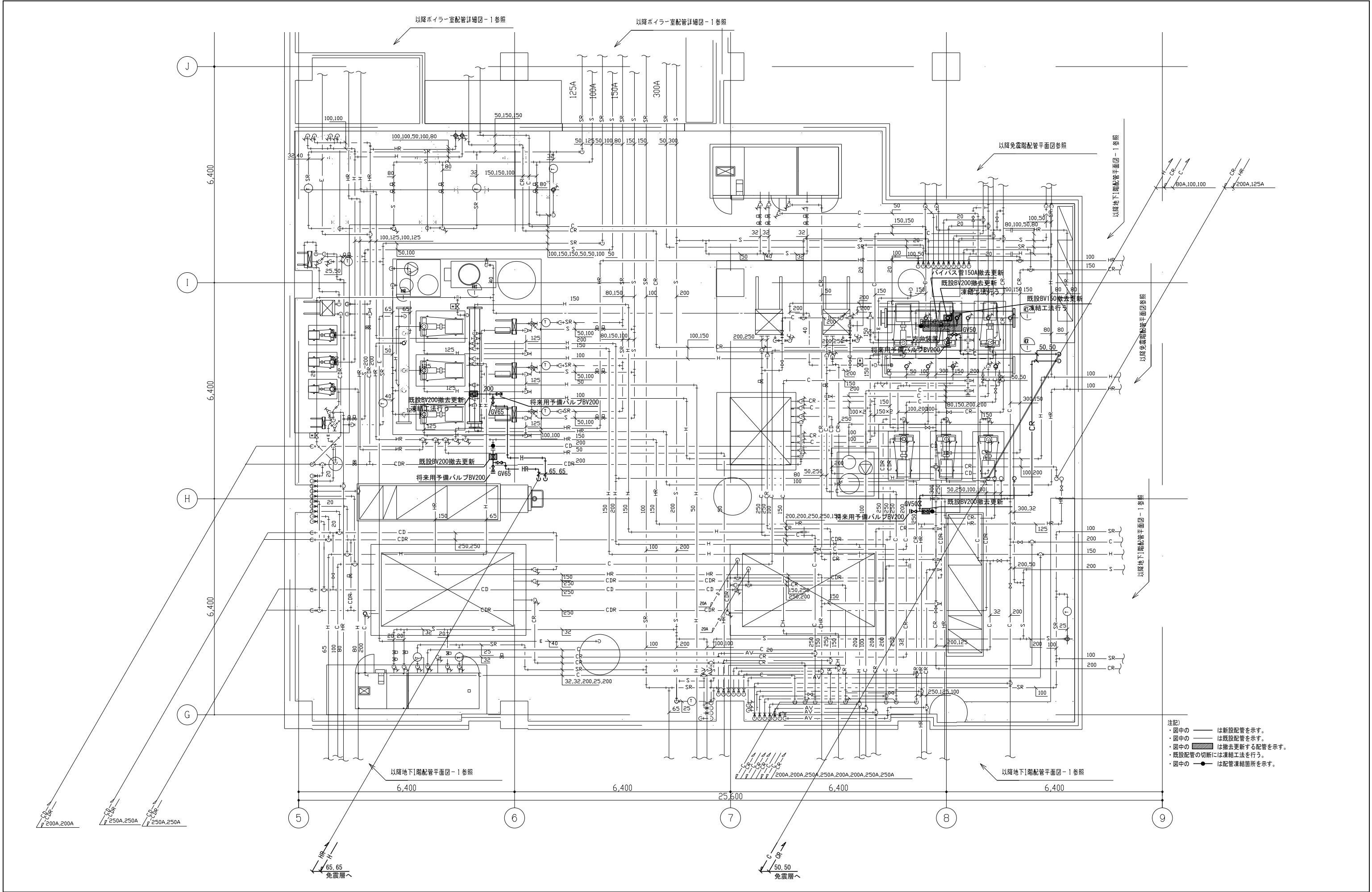


- 注記)
- ※1以降はM107図参照とする。
  - 図中の ——— は新設配管を示す。
  - 図中の ——— は既設配管を示す。
  - 図中の [斜線] は既設撤去・更新配管を示す。
  - 既設配管切断には凍結工法を行う。
  - 図中の ● は配管凍結箇所を示す。

件 名 岩手県立中部病院サイバーナيف棟整備工事			
図 名	空気調和設備 病院本棟 熱源配管系統図		機械
縮 尺	SCALE	日 付	2025/12 (令和7年)
			M111



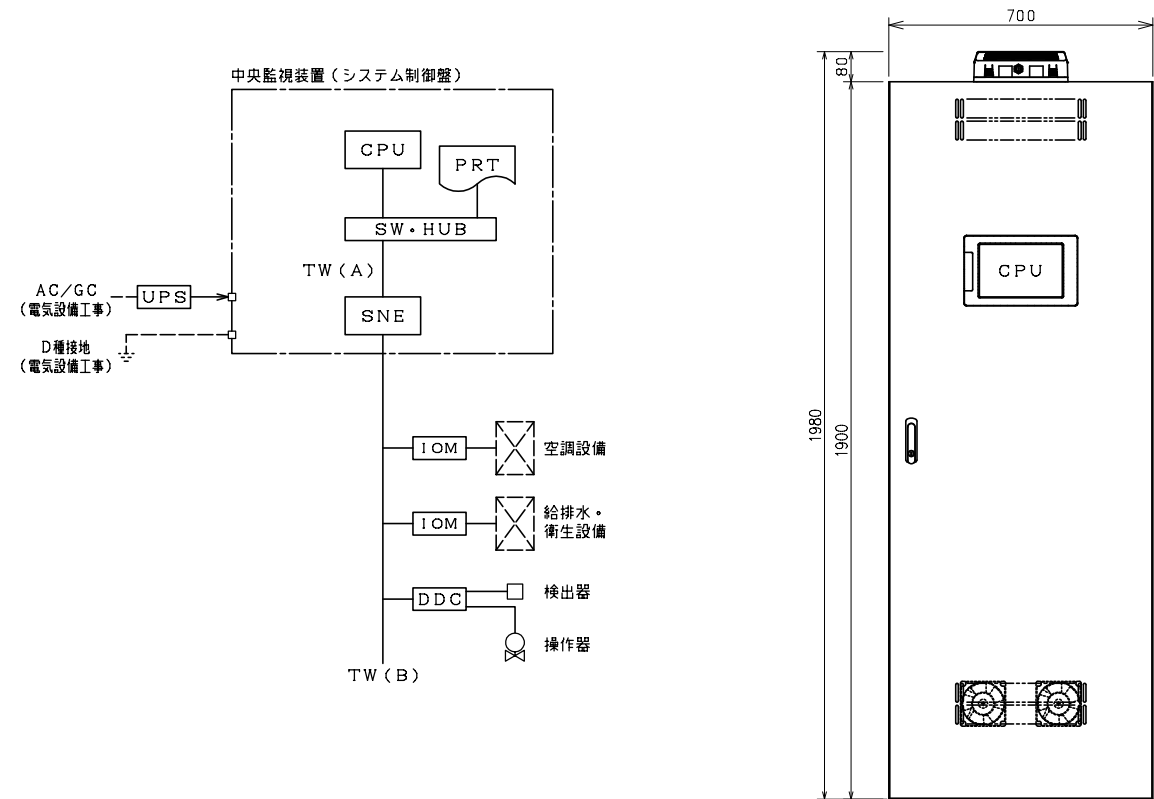




注記  
・図中の — は新設配管を示す。  
・図中の — は既設配管を示す。  
・図中の ■ は撤去更新する配管を示す。  
・既設配管の切断には凍結工法を行う。  
・図中の ● は配管凍結箇所を示す。

＜監視システムコンセプト＞

本中央監視装置は、各種設備機器の運転・警報監視・各種計測などを総合的かつ効率的に実現する。  
建物内の省力化や無人化をサポートすることができるシステムとする。



中央監視装置 構成図

中央監視装置 参考姿図  
（システム制御壁面設置）

中央監視装置ハード仕様概要

記 号	名 称	機 能 概 要	ハ ー ド 仕 様 概 要		備 考
CPU	中央監視装置 （汎用タブレット）	システム全体の管理、処理を行う。	主処理装置 主記憶容量 最大管理点数 プラットフォーム	マイクロプロセッサ 1GB以上 500オブジェクト Android	
	カラーディスプレイ 及び操作部	ソフトアナンシェータ方式による表示／操作の他、 各種一覧表示、トレンドグラフ表示を行う。	サイズ 解像度 操作部	10.1型ワイド 1280×800 タッチパネル方式	
PRT	プリンタ	監視端末からの各種印刷を行う。	印字方式 ドット密度 印字速度 印字用紙	ラインサーマル記録方式 8dot/mm（203dpi） 最大220mm/秒 レシート紙 最大72mm	
SNE	ネットワーク エンジン （Webサーバ）	ユニット毎にシステムのデータベース、各種制御機能 を有し、これらの管理、処理を行う。	主処理装置 主記憶容量  物理層／通信方式 通信プロトコル	マイクロプロセッサ フラッシュメモリ 16GB SDRAM 2GB Ethernet HTTPS、BACnet／IP、SNTP、 SMTP、SNMP	
IOM	入出力モジュール	管理ポイントの入力又は出力を行う。			
DDC	デジタル コントローラ	空調機の温湿度制御や、熱源装置の制御を行う。	機能	自動制御計装図参照	
CP	リモート盤	SNE、IOM、DDCを収納し、中央監視く（管理ポ イント）、および自動制御関連の入出力を行う。	管理ポイント その他	中央監視点一覧表参照 自動制御機器内蔵	参考サイズは自動 制御壁一覧表参照
TW	中央監視用伝送幹線	（A）基幹ネットワーク 中央監視装置、SNE間の通信を行う。	物理層／通信方式 通信プロトコル  通信速度	Ethernet HTTPS、BACnet／IP、SNTP、 SMTP、SNMP 100Mbps	
		（B）フィールドバス SNEとその下位に接続される機器（DDC等）との 通信を行う。	物理層／通信方式 通信プロトコル 通信速度	RS-485 / トークンパッシング BACnet MS／TP 38400bps	
SW・HUB	スイッチングハブ	Ethernetスイッチ	通信速度 デバイス接続1F	10Mbps／100Mbps 10BASE-T、100BASE-TX	
UPS	無停電電源装置 （簡易型）	停電時にもシステムの必要部分が機能するように、 電源供給を行う。	電源 出力容量 停電補償時間	入力：1φ100V 出力：1φ100V 750VA 10分間（寿命初期）	

中央監視装置の機能

＜監視システムコンセプト＞

本システムは分散設置された制御システム端末から収集された各種設備機器  
の運転状態、故障警報、各種計測計量などの管理ポイントを施設管理者が  
一元管理できるシステムとする。  
クラウドサービスを別途契約することにより、施設管理業務をサポートする  
サービス（各種データ配信、トラブル発生時のサポートなど）を受けられる  
ものとする。

1. 表示・監視・操作

タブレット画面を使用した表示、タッチパネル操作とする。  
メインとなる監視・操作画面はアナンシェータパネルイメージの画面とし、  
メインメニューからスケジュール運転制御、履歴表示、一覧表示、トレンド  
表示等の各種画面に容易に移動できる。

（1）アナンシェータパネル画面

- アナンシェータパネルイメージの画面にて、状態、警報、計測値、  
積算値、設定値などの状態を表示し、ポイントに対する操作はアナ  
ンシェータパネルに表示されているポイント（ボックス）を選択して  
行なう。
- ・アナンシェータパネルボックス数：15ボックス／ページ
  - ・状態変化表示：ボックス内状態表示、およびステータスバーの色変化
  - ・警報発生表示：ボックス内状態表示、およびボックス点滅表示
  - ・ポイント操作：ボックスを選択し、表示されるダイアログから操作

（2）警報履歴一覧表示

- 未確認警報、および警報の履歴を一覧表示する。
- ・警報履歴件数：最大1000件

（3）操作履歴一覧表示

- オペレータが実行した操作の履歴を一覧表示する。
- ・操作履歴件数：最大500件

（4）管理点種別一覧表示

- 管理点種別毎に現在の状態を一覧表示する。
- ・一覧表示種別：現在警報、発停、状態、設定、計測、積算、時間回数

（5）トレンドデータ／グラフ表示

- 一定周期で発停・状態ポイント、設定・計測ポイントのトレンドデ  
ータを収集し、グラフ（折れ線／棒）、またはリスト形式で表示する。

（6）個別空調監視

- 個別空調システム（パッケージエアコンなど）の運転／停止、モード  
切換、風量設定、温度計測、温度設定のポイントをパッケージエア  
コンのリモコンイメージの画面にて監視・操作が行なえる。

（7）警報発生監視

- 警報発生時、日時、ポイント名称、警報内容を通知する画面をポップ  
アップ表示し、警報音とともに通知する。火災・停電・重警報が発生し  
た場合は、画面右上部にアイコンにて常時通知する。

（8）状態変化監視

- アナンシェータパネル画面にて状態変化を監視する。

（9）アナログ上下限警報監視

- アナログ計測値が設定している上下限値を超えた場合、警報として  
通知する。

（10）運転時間／動作回数／積算値上限警報監視

- 動力機器等の運転時間、動作回数、計量ポイントを積算し、設定して  
いる値を超えた場合、警報として通知する。

（11）発停エラー／反指令監視

- 発停命令送出後、一定時間経過しても対象ポイントの状態が命令と  
一致しない場合、警報として通知する。

（12）システム監視

- システムの自己診断により異常が発生した場合、警報として通知する。

（13）個別発停／設定操作

- アナンシェータパネル画面のポイント（ボックス）を選択し、表示さ  
れるダイアログから発停／設定操作を行なうことができる。

（14）操作許可／禁止設定

- 保守作業時等、該当ポイントに対して中央監視からの起動／停止等の  
操作を行なわないようにする操作禁止、およびその解除（許可）設定  
を行なうことができる。

2. 制御機能

（1）スケジュール運転制御

- 操作対象ポイントに対し、週間スケジュール、例外日スケジュール、  
例外日を設定するカレンダーを組み合わせ、スケジュールにしたがった  
起動／停止を自動で行なうことができる。
- ・起動、または停止コマンドの回数：最大10コマンド/日

（2）インターロック制御

- 1ポイント、または複数ポイントの状態変化をトリガーとして、あら  
かじめ登録しておいた他のポイントに対して自動的に起動／停止など  
の命令を出力し、連動運転を行なうことができる。

（3）シーズン切換制御

- 冷暖房等の空調制御モードをシーズン切換制御にて一括で切り換える  
ことができる。

3. データ管理機能

（1）履歴データ蓄積／出力

- 警報発生／復帰履歴、操作履歴を蓄積し、マイクロSDカードに  
CSV形式で自動、あるいは手動で出力できる。
- ・警報発生／復帰履歴の蓄積：最大1000件
  - ・操作履歴の蓄積：最大500件

（2）トレンドデータ蓄積／出力

- トレンドデータを蓄積し、マイクロSDカードにCSV形式で自動、  
あるいは手動で出力できる。
- ・トレンドデータの蓄積：最大1500データ／ポイント

（3）簡易使用量

- 収集・蓄積した計量ポイントの積算値データの前回検計値、最新値  
から使用量を算出してグループ毎に一覧表示する。  
また、使用量データは手動修正が行なえ、マイクロSDカードに  
CSV形式で出力できる。
- ・グループ数：最大40グループ
  - ・ポイント数：8ポイント／グループ

4. ユーザー管理機能

（1）パスワード

- システムへのログインにはパスワードの入力を必要とし、パスワード  
によりユーザーの操作を4レベルで制御することができる。

5. ユーティリティ

（1）オンライン編集（属性編集）

- ポイントの表示名称、警報の有効／無効、運転時間／動作回数積算値  
のオンラインでの変更が行なえる。

（2）操作ガイダンス

- 使用している機能に関するヘルプを表示する。

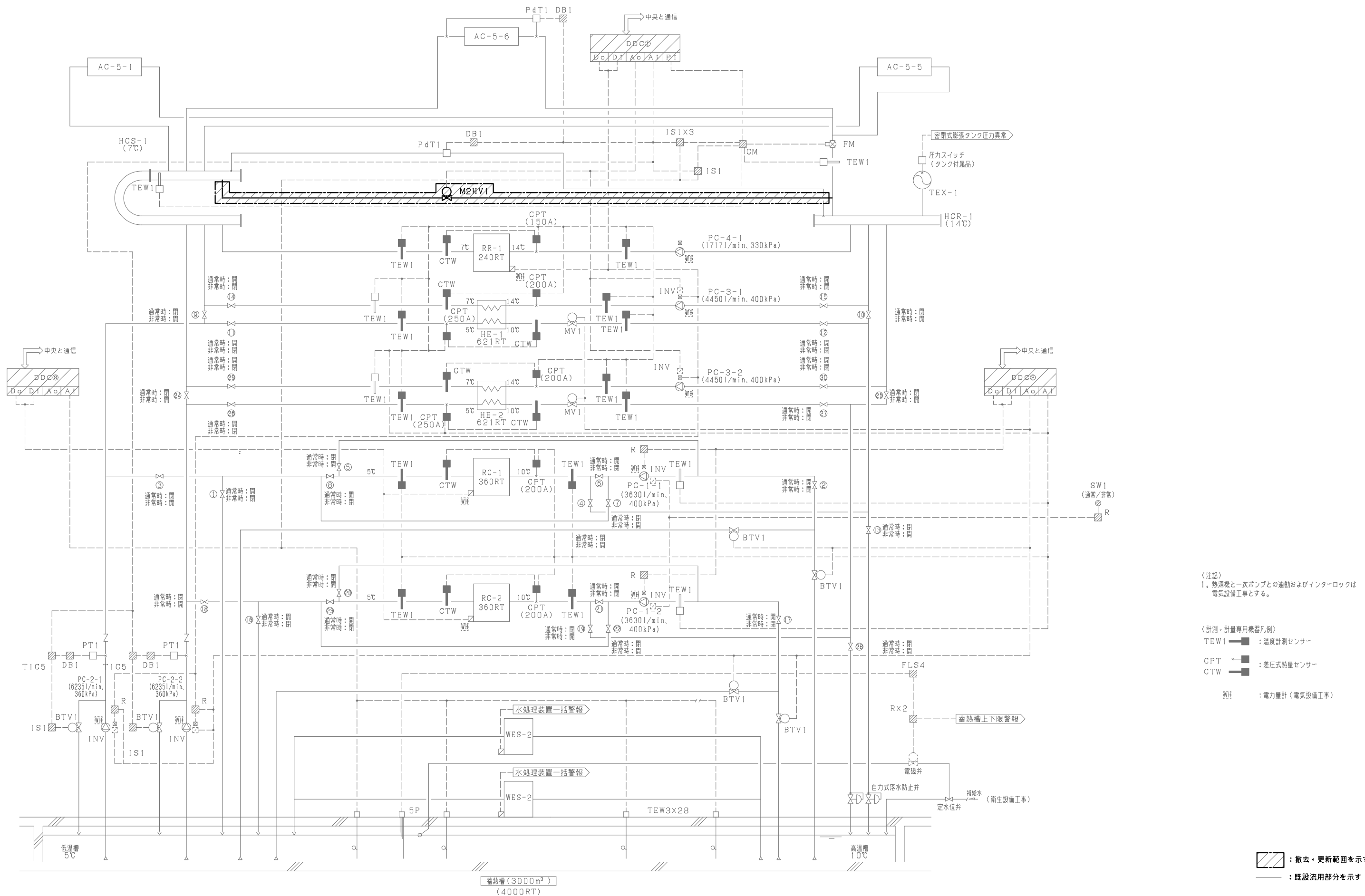
件 名 岩手県立中部病院サイバーナイク棟整備工事		
国 名 自動制御設備 中央監視装置		機械
縮 尺 -	日 付 2025/12（令和7年）	M114

### 中央監視点一覧表

[illegible]

## 中央監視点入出力インターフェイス

内 容	リモート盤	配 線	監視対象制御盤等	備 考
オン/オフ 操作				CX, TXは、 DC24Vリレー
状態・ 故障監視				起動、停止は、 瞬時電圧出力 (0.3秒以上)
状態・ 故障監視				51X、52Xは、 無電圧接点
オン/オフ または 切換操作				TXは、 DC24Vリレー
状態監視				52Xは、 無電圧接点 ラッチ出力
状態・ 故障監視				51X、52Xは、 無電圧接点
上下限警報 監視				上限、下限は、 無電圧接点
状態または 故障・警報 監視				無電圧接点
温度計測				PT100Ω PTCシリコン センサ
計測				0~10V 4~20mA
積算				電力量等 [パルス幅 20msec以上]
アナログ 出力				0~10V 4~20mA



作 名 岩手県立中部病院サイバーナイフ棟整備工事		
題 名 自動制御設備 計装図（１）		機械
縮 尺 ー	日 付 2025/12（令和7年）	M116

冷熱源制御 動作説明

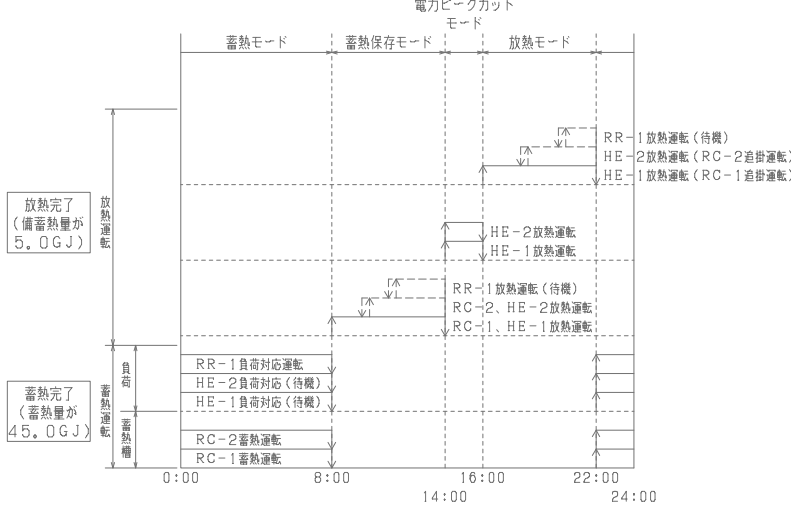
- 〈制御内容〉
1. 冷房負荷予測
- 1) 予測方式は、立上り負荷による予測方式と52週予測方式を選択して行う。
2. 立上り予測方式
- 1) 立上り指定時刻の実績負荷により、予測日量負荷を算出し、24時間の冷熱量を予測します。
- 2) 予測データは、平日用と休日用の2種を設定する。
3. 52週予測方式
- 1) 1年を52週に分け、52週日負荷予測データより予測日量負荷を算出します。
- 2) 予測データは、平日用と休日用の2種を設定する。
4. 運転モード制御
- 1) 1日を以下の様な運転モードに分け、タイムテーブルを設定し、各モード別に熱源機の運転を行う。
- a. 蓄熱優先モード 22:00～08:00
- b. 蓄熱保存モード 08:00～14:00
- c. 電力ピークカットモード 14:00～16:00
- d. 放熱優先モード 16:00～22:00
5. 蓄熱優先モード制御（22:00～08:00）
- 1) 蓄熱量が、45.0GJとなると満蓄熱とする。
- 2) 中央監視からの指令によりターボ冷凍機を起動し、満蓄熱に成るまで蓄熱運転を行う。
- 3) 蓄熱槽への蓄熱を優先とし、負荷側の要求により水冷チラーの運転も行う。
- 4) 冬季、蓄熱運転開始時の残蓄熱量が設定量以上の場合、蓄熱運転を行わない。
6. 蓄熱保存モード制御（08:00～14:00）
- 1) 蓄熱槽の蓄熱量を保存し、負荷側要求にはターボ冷凍機運転により対応する。
- 2) 当日9:00の負荷熱量により当日負荷の予測を行い、負荷予測に対応する熱源機の運転を行う。
- 3) 当日負荷予測以前の8:00～9:00については、二次側負荷熱量及び流量要求の多い方で熱源機の台数制御を行う。
7. 電力ピークカットモード制御（14:00～16:00）
- 1) 熱源機の運転を停止し、負荷予測熱量には蓄熱槽からの放熱により対応する。
- 2) 予測熱量が蓄熱槽放熱運転で間に合わない時は、熱源機の追掛け運転を行う。
8. 放熱優先モード制御（16:00～22:00）
- 1) 負荷予測熱量より蓄熱槽を使い切る事を目標とし、蓄熱槽放熱運転を行う。
- 但し、放熱完了は、5.0GJの蓄熱量を残す。
- 2) 予測熱量が蓄熱槽放熱運転で間に合わない時は、熱源機の追掛け運転を行う。

（表1） 台数制御運転パターン図

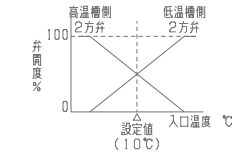
	蓄熱優先 モード	蓄熱保存 モード	電力ピークカット モード	放熱優先 モード	蓄熱優先 モード
	～8:00	8:00～14:00	14:00～16:00	16:00～22:00	22:00～
インバーターターボ冷凍機 RC-1	蓄熱運転	負荷対応運転	停止	負荷対応運転	蓄熱運転
インバーターターボ冷凍機 RC-2	蓄熱運転	負荷対応運転	停止	負荷対応運転	蓄熱運転
冷水二次、三次熱交換器 HE-1	負荷対応（待機）	負荷対応運転	負荷対応運転	負荷対応（待機）	負荷対応（待機）
冷水二次、三次熱交換器 HE-2	負荷対応（待機）	負荷対応運転	負荷対応運転	負荷対応（待機）	負荷対応（待機）
水冷チラー RR-1	負荷対応運転	負荷対応（待機）	停止	負荷対応（待機）	負荷対応運転

- 〈注記〉
1. 満蓄熱量（45.0GJ）まで蓄熱運転、備蓄熱量（5.0GJ）まで放熱運転を行う。
2. RC-1、HE-1及びRC-2、HE-2は、運転時間の少ない機器をベース機とする。

（表2） 台数制御判断図

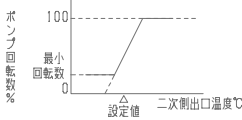


9. ターボ冷凍機冷水入口温度制御
- 1) ターボ冷凍機冷水入口温度が設定値となるよう蓄熱槽高温側／低温側2方弁の比例制御を行う。



- 2) 冬季／中間期において、ターボ冷凍機の高効率運転を目的としてターボ冷凍機冷却水入口温度を監視し、ターボ冷凍機冷水入口温度の設定値切換を行う。
- 3) ポンプ停止時、低温槽側2方弁が全開、高温槽側2方弁が全開となる様インターロック制御を行う。

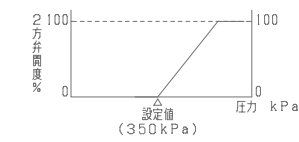
10. 熱交換器廻り温度制御、二次側送水温度リミット制御
- 1) 熱交換器二次側出口温度が一次側入口温度+2℃となるよう二次循環ポンプ（PC-2-1・2）のインバータ回転数の比例制御を行う。



但し、二次側送水温度が10℃以上となったら、一次側冷水2方弁は最小開度とする。

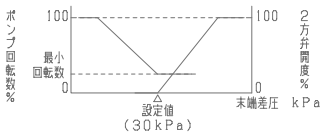
- 2) ポンプ停止時、一次側冷水2方弁が全開となる様インターロック制御を行う。

11. 冷水二次循環ポンプ吐出圧力制御（PC-2-1・2）
- 1) 冷水二次循環ポンプ吐出圧力が設定値となるようバイパス弁の比例制御を行う（最小回転数以下）。

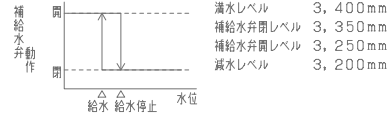


- 4) 冷水二次循環ポンプ停止時、バイパス弁が全開となる様インターロック制御を行う。

12. 末端差圧制御
- 1) 末端差圧が設定値となるよう冷水三次循環ポンプインバータ回転数の比例制御を行う。
- 2) 末端差圧が設定値となるようとバイパス弁の比例制御を行う（最小回転数以下）。



13. 補給水制御
- 1) 蓄熱槽内に設置した電極（5P）により、補給水の開／閉制御を行う（水位レベル 3,300mm）。



14. 非常時切換制御
- 1) 何らかの影響で蓄熱されていない場合は、非常と判断し手動弁を切換える。

（表3）手動弁切換表

弁番号	系 統 名	通常／非常切換		弁番号	系 統 名	通常／非常切換	
		通常	非常			通常	非常
手動弁 ①	RC-1 蓄熱吐出	O	X	手動弁 ⑩	RC-2 蓄熱吐出	O	X
手動弁 ②	RC-1 蓄熱吸込	O	X	手動弁 ⑪	RC-2 蓄熱吸込	O	X
手動弁 ③	RC-1 冷水負荷（往）	X	O	手動弁 ⑫	RC-2 冷水負荷（往）	X	O
手動弁 ④	RC-1 冷水負荷（還）	X	O	手動弁 ⑬	RC-2 冷水負荷（還）	X	O
手動弁 ⑤	RC-1 冷水負荷（往）	X	O	手動弁 ⑭	RC-2 冷水負荷（往）	X	O
手動弁 ⑥	RC-1 蓄熱吸込	O	X	手動弁 ⑮	RC-2 蓄熱吸込	O	X
手動弁 ⑦	RC-1 冷水負荷（往）	X	O	手動弁 ⑯	RC-2 冷水負荷（往）	X	O
手動弁 ⑧	RC-1 蓄熱吐出	O	X	手動弁 ⑰	RC-2 蓄熱吐出	O	X
手動弁 ⑨	RC-1 冷水負荷（往）	X	O	手動弁 ⑱	RC-2 冷水負荷（往）	X	O
手動弁 ⑩	RC-1 冷水負荷（還）	X	O	手動弁 ⑲	RC-2 冷水負荷（還）	X	O
手動弁 ⑪	HE-1 蓄熱吸込	O	X	手動弁 ⑳	RC-2 蓄熱吸込	O	X
手動弁 ⑫	HE-1 蓄熱吐出	O	X	手動弁 ㉑	HE-2 蓄熱吐出	O	X
手動弁 ⑬	HE-1 蓄熱吐出	O	X	手動弁 ㉒	HE-2 蓄熱吐出	O	X
手動弁 ⑭	HE-1 冷水負荷（往）	O	X	手動弁 ㉓	HE-2 冷水負荷（往）	O	X
手動弁 ⑮	HE-1 冷水負荷（還）	O	X	手動弁 ㉔	HE-2 冷水負荷（還）	O	X

- 〈注記〉
1. O：全開、X：全閉

- 2) 非常と判断した場合、盤内設置の切換スイッチを非常に切換える。
- この時、熱源機冷水入口制御、熱交換器廻り温度制御、二次側送水温度リミット制御及び冷水二次ポンプ吐出圧力制御は中止とする。

- 〈中央と通信〉
- 熱源機群発停
  - 蓄熱優先モード運転指令
  - 蓄熱保存モード運転指令
  - 電力ピークカットモード運転指令
  - 放熱優先モード運転指令
  - 熱源機状態・故障
  - 蓄熱槽温度計測（28点）
  - 残蓄熱量計測
  - 三次側瞬時熱量・流量計測
  - 三次側積算熱量・流量計量
  - 三次側往温度計測
  - 三次側還温度計測
  - ターボ冷凍機熱量計量
  - 冷水熱交換器1次側熱量計量
  - 冷水熱交換器2次側熱量計量
  - 水冷チラー熱量計量
  - ターボ冷凍機出入口温度計測
  - 冷水熱交換器1次側出入口温度計測
  - 冷水熱交換器2次側出入口温度計測
  - 水冷チラー出入口温度計測
  - シーズン切換（夏期／中間期／冬期）
  - インバータ故障
  - 蓄熱完了／放熱完了状態
  - 蓄熱槽水位上下限警報
  - 非常時切換

作 名 岩手県立中部病院サイバーナイズ棟整備工事		
国 名 自動制御設備 計装図（1）制御内容		機械
縮 尺	日 付 2025/12（令和7年）	M117



外調機制御（２SETS）

AC-C-01 1階放射線治療室系統 1SET  
AC-C-02 2階更衣室、会議室系統 1SET

: 1CP-S1  
: 2CP-S1

中央と通信  
(BACnetMS/TP)

DDC

AC-C-01と連動(FE-C1-1~3)  
AC-C-02と連動(FE-C2-1)

E A

FAN

E A

R

dP1

M1D1

PH

C

TE

DF15

C

H

C

M6V1

HR

HS

M2V1

CR

CS

H

HR

HS

M2V1

M1VR2

W

INV  
(AC付属品)  
調整用

FAN

TED1

SA

THE1  
(代表室)

OA

M1D1

dP1

PH

C

TE

DF15

C

H

C

M6V1

HR

HS

M2V1

CR

CS

H

HR

HS

M2V1

M1VR2

W

INV  
(AC付属品)  
調整用

FAN

TED1

SA

THE1  
(代表室)

<制御内容>

1. 給気温度制御

1) 給気温度が設定値となるよう冷水2方弁及び温水2方弁の比例制御を行う。

暖房動作

不燃帯

冷房動作

井開度%

100

0

設定値

給気温度℃

H/C  
2方弁

C/C  
2方弁

2. 室内湿度制御

1) 室内湿度が設定値となるよう加湿2方弁の2位置制御及び冷水2方弁の比例制御を行う。

2) 中央監視装置からの加湿許可時のみ加湿制御を実行とする。

3) 冷水2方弁は給気温度制御による冷房要求と室内湿度制御による除湿要求の要求度の高い方を選択して制御を行う。

4) 除湿要求にて冷水2方弁が制御される場合は冷房要求に対して過冷却状態となり、その結果再熱要求が発生し温水2方弁にて再熱制御される。(除湿再熱制御)

5) 外調機起動時、タイマーにより一定時間、加湿禁止(加湿2方弁は全閉)とする。

加湿動作

不燃帯

除湿動作

加湿許可  
動作

OFF

ON

加温  
設定値

除湿  
設定値

100

0

湿気湿度%RH

C/C  
2方弁

3. ファンインターロック制御

1) 外調機停止時、以下の状態となるよう外調機とのインターロック制御を行う。

a. 冷水2方弁・温水2方弁全開(ファン停止後に閉止)

b. 加湿2方弁全開

c. 外気取入ダンパ全開

<中央と通信>

・外調機故障・状態・警報

・給気温度計測・設定

・室内温度計測

・室内湿度計測・設定

・機内温度計測

・機内温度異常警報

・外気温度データ

・加湿許可指令

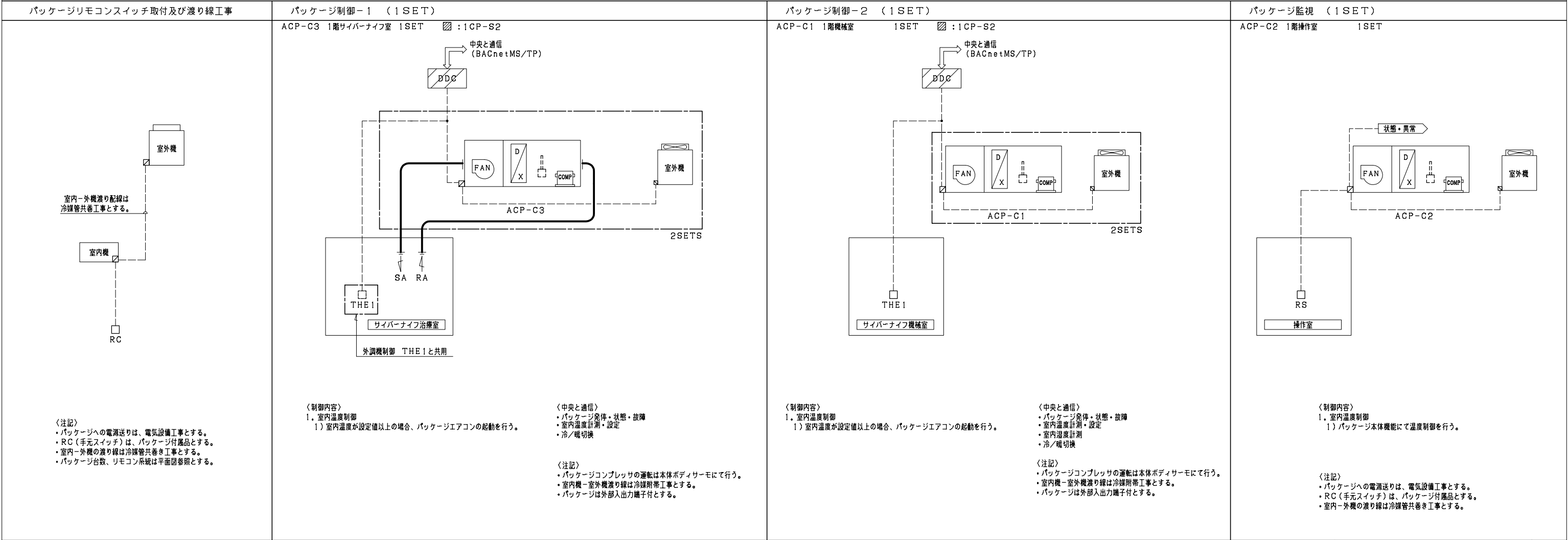
・フィルタ目詰り警報

・シーズン切換(冷/暖)

<注記>

・外調機と排気ファンの運転は電気設備工事とする。

・INVは外調機付属品とし、調整用とする。



作 名 岩手県立中部病院サイバーナイフ棟整備工事		
国 名 自動制御設備 計装図(2)		機械
圖 尺 -	日 付 2025/12 (令和7年)	M118

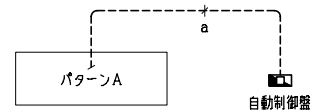


———— (実線) : 天井内隠蔽  
 - - - - (破線) : 露出  
 ☒ : プルボックス

TW-N1 : BACnet MS/TP専用ケーブル

- ・天井内隠蔽部はケーブルコロガシ施工とし、室内センサ・スイッチ類への壁内立下りはPF管内通線とする。

※天井内隠蔽部はケーブルコロガシ施工とする。



※平面図にて空調機・外調機廻りの自動制御機器は上図の通りとする。  
※自動制御機器は上図端点から一律5mとして工事材料を計上する。

```

- a -
EM-CEES1.25□-3C      (E25)      TED1
EM-CEES1.25□-3C      (E25)      TEDF15
EM-CEES2□-2C          (E25)      dP1
EM-CEE1.25□□-3C      (E25)      M1D1
EM-CEES2□-3C          (E25)      M6V1
EM-CEES1.25□-4Cx2    (E25) x2    M2V1x2
EM-CEE2□-3C          (E25)      M1VR2

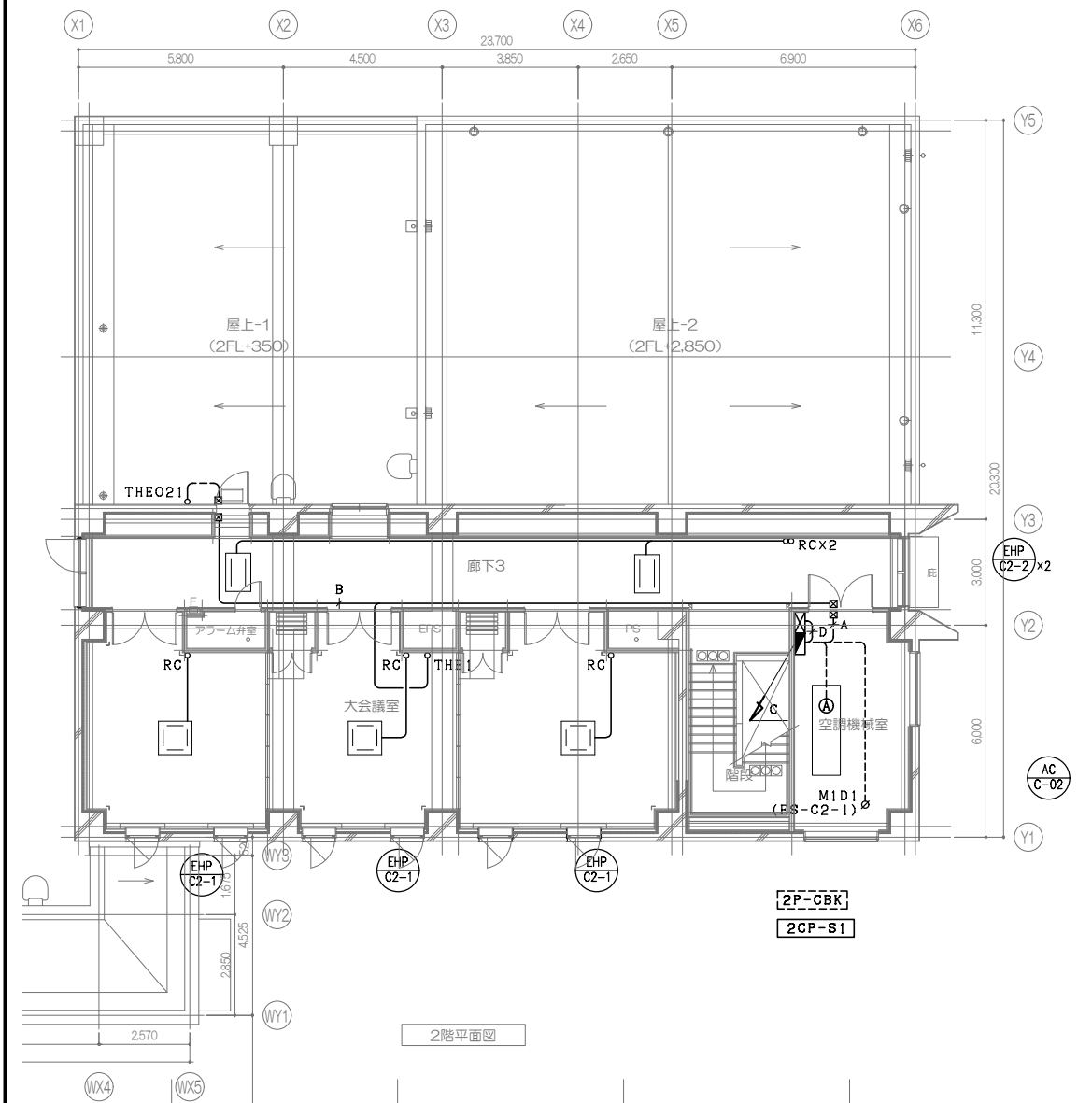
```

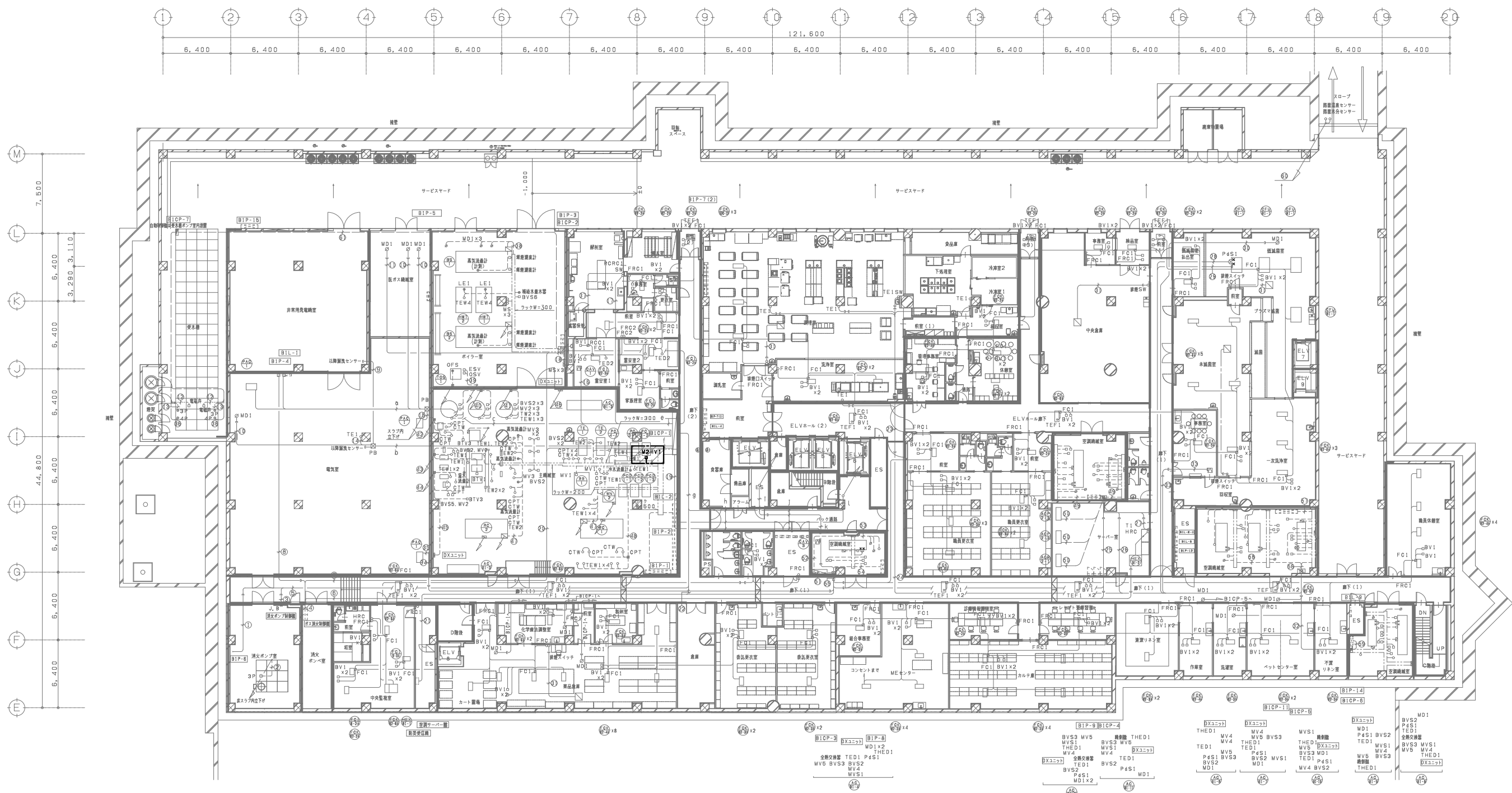
除湿器

a

J C

[illegible]





＜注記＞  
・既設配線は流用とする。

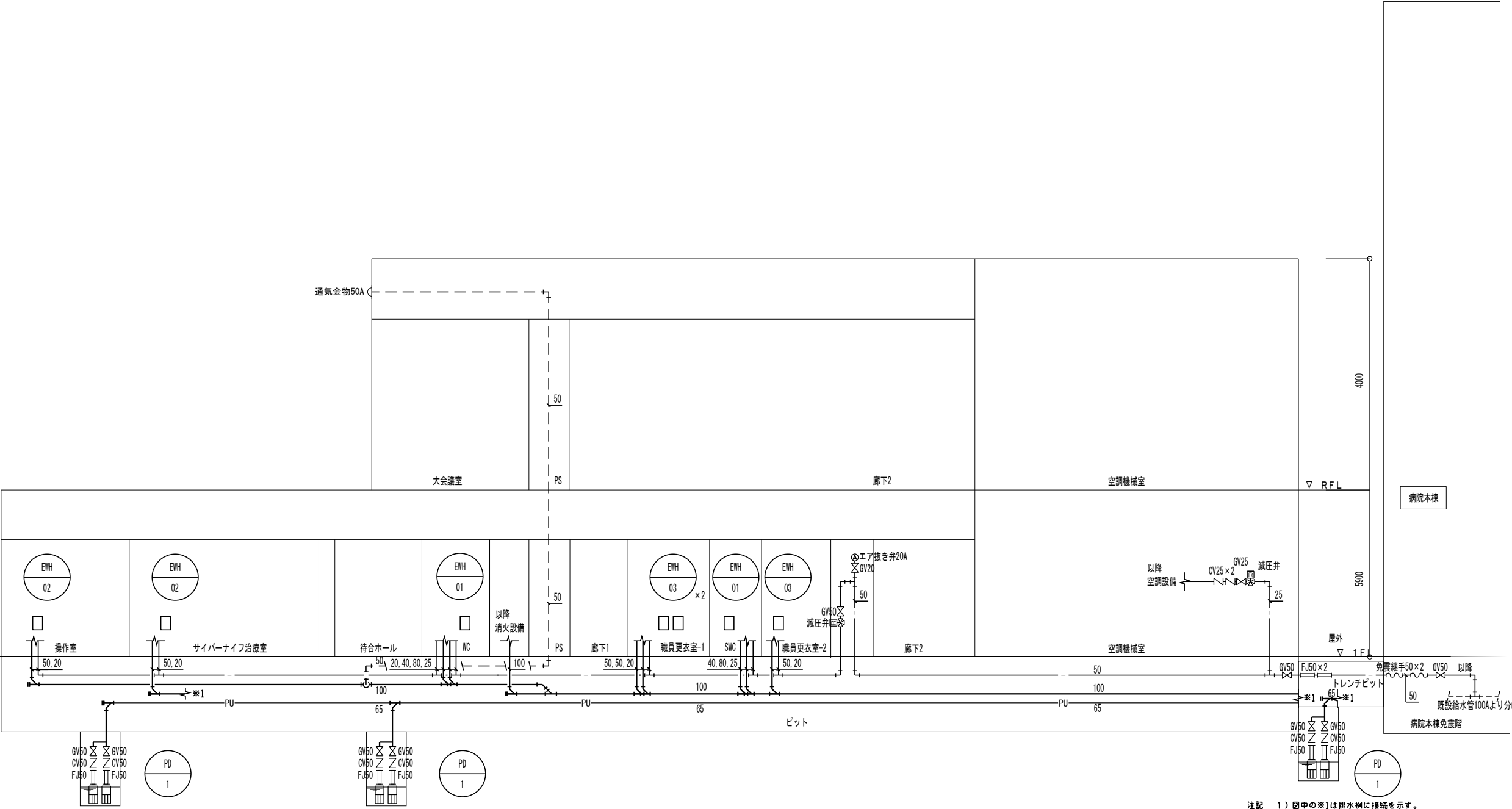
：撤去・更新範囲を示す  
：既設流用部分を示す

EM-CPES0、9-20P 電気ラック B1CP-1～高圧受電機 火災区画 EM-HP1、2-3P (コロボシ) 制御スイッチ～制御口 EM-CEE2P-3C BTV3

件名	岩手県立中部病院サイバーナイフ棟整備工事	
図名	自動制御設備 病院本棟 地下1階平面図	機械
縮尺	1/200(A1)1/400(A3)	日付 2025/12 (令和7年)
		M122

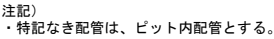




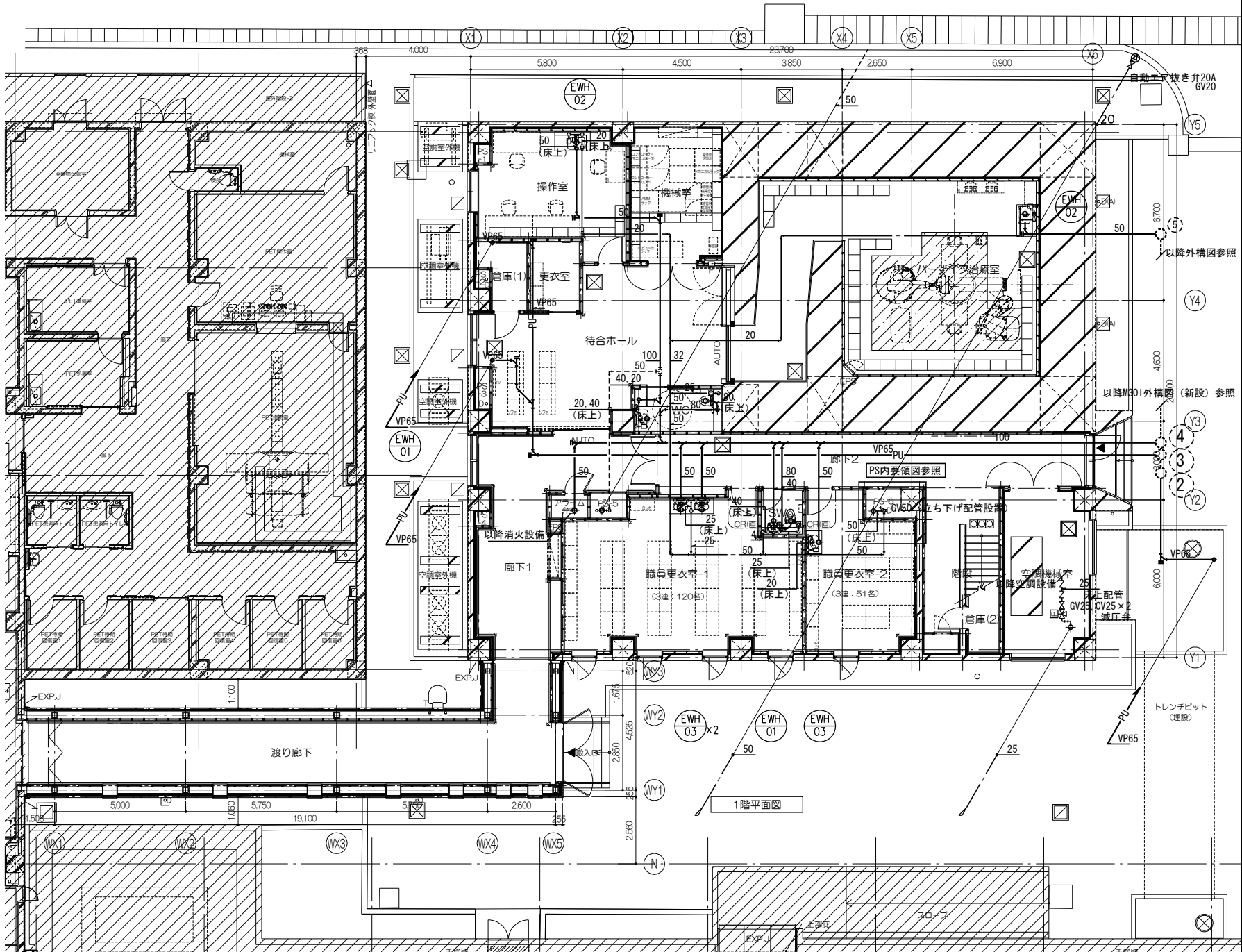


衛生設備 配管系統図

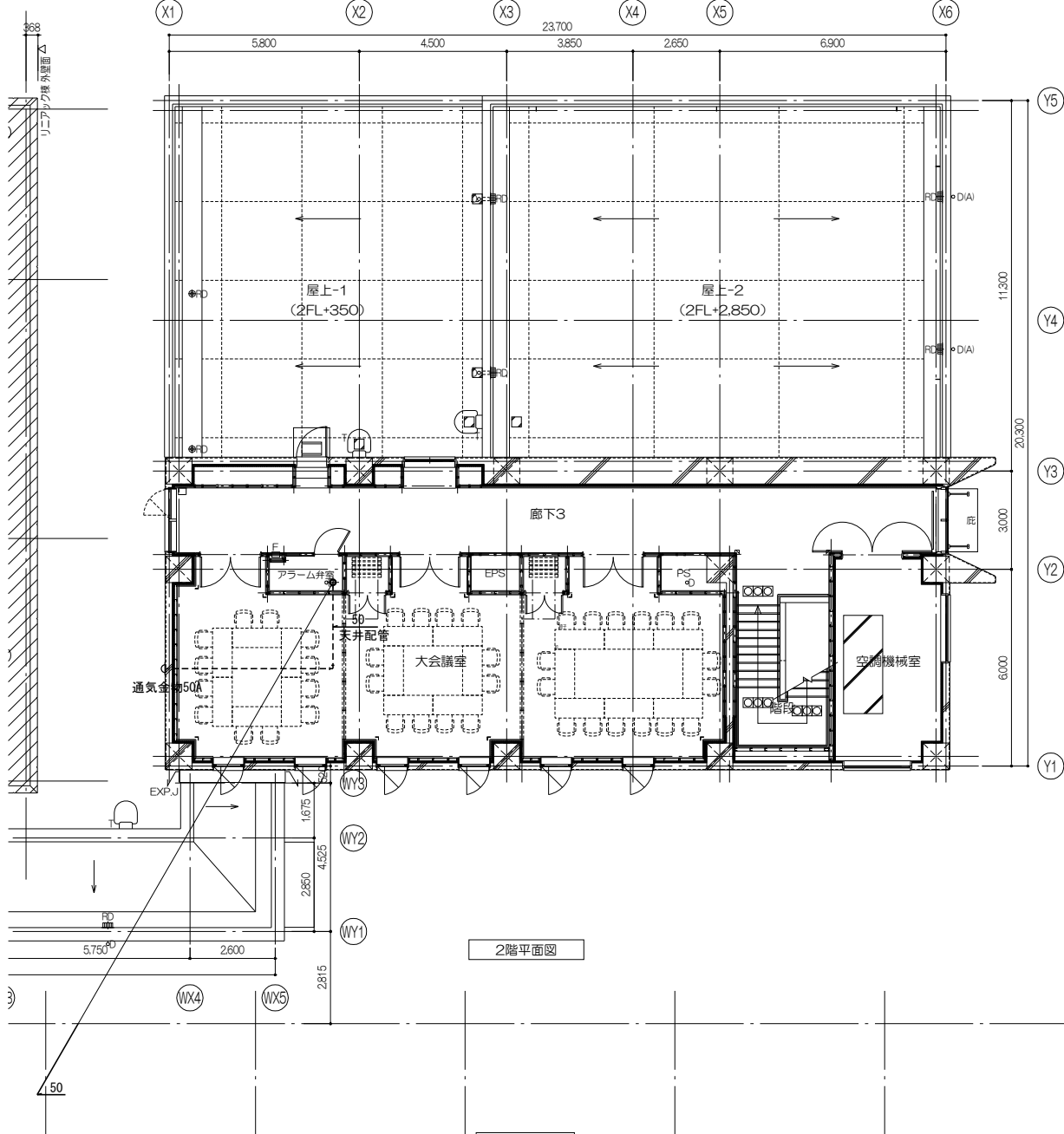
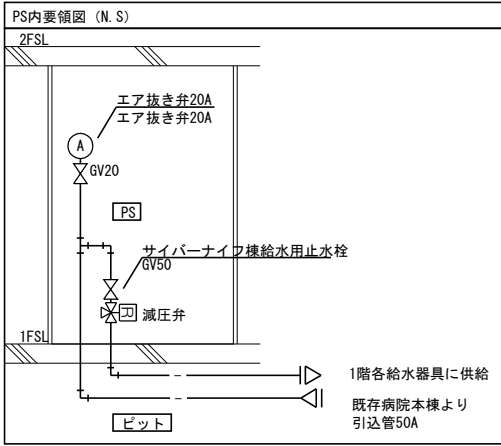
件 名 岩手県立中部病院サイバーナイフ棟整備工事		
図 名 給排水衛生設備 衛生配管系統図		機械
縮 尺 —	日 付 2025/12 (令和7年)	M124

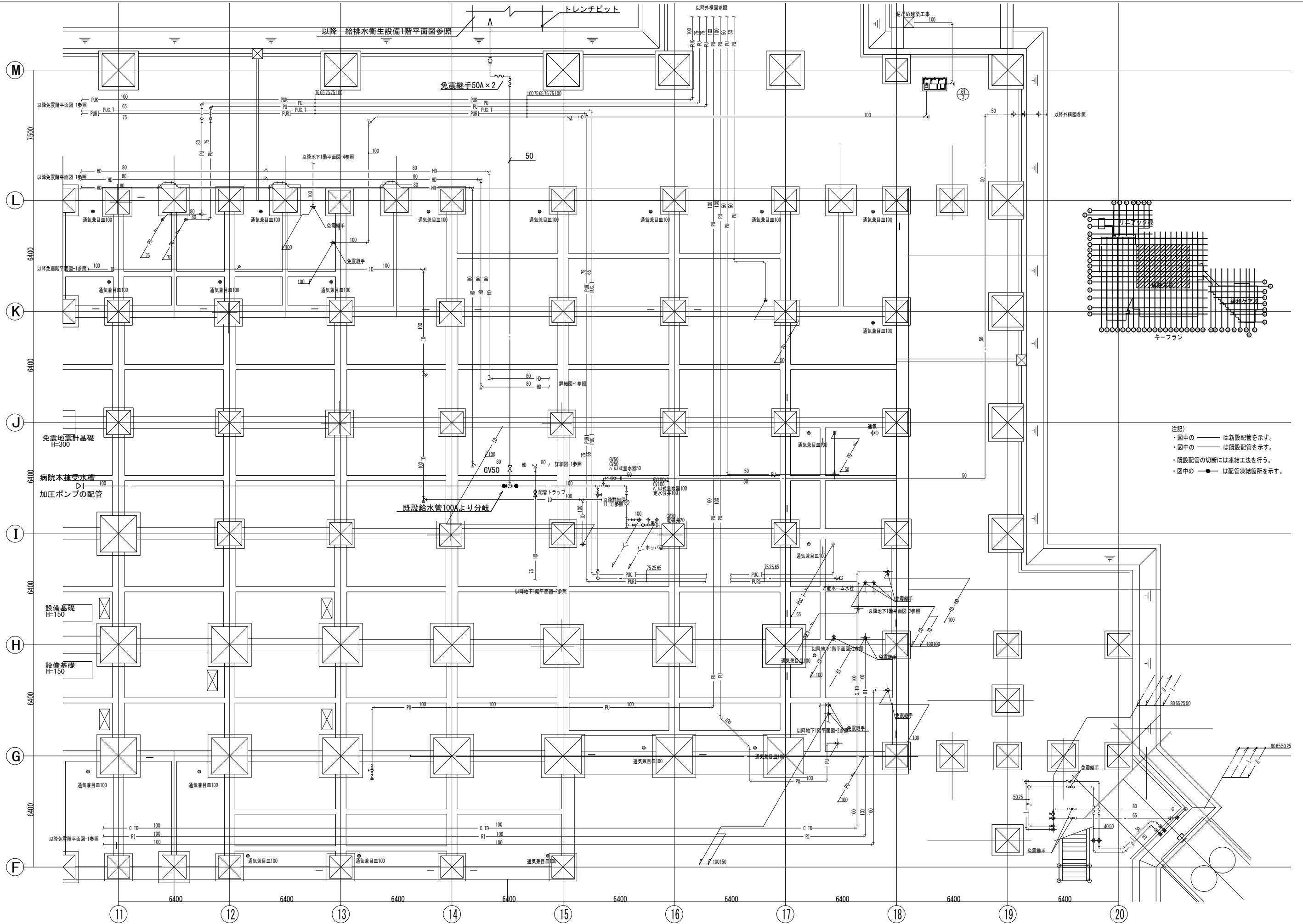


件 名 岩手県立中部病院サイバーナイフ棟整備工事		
図 名 給排水衛生設備 ビット階平面図		機械
縮 尺 1/100(A1)/1/200(A3)	日 付 2025/12 (令和7年)	M125



注記)  
・特記なき場合、給水管サイズは20Aとする。  
・特記なき配管は床下配管とする。  
・給湯配管は、特記なき場合は床上配管として20Aとする。





注記)  
・図中の ——— は新設配管を示す。  
・図中の ——— は既設配管を示す。  
・既設配管の切断には凍結工法を行う。  
・図中の ● は配管凍結箇所を示す。

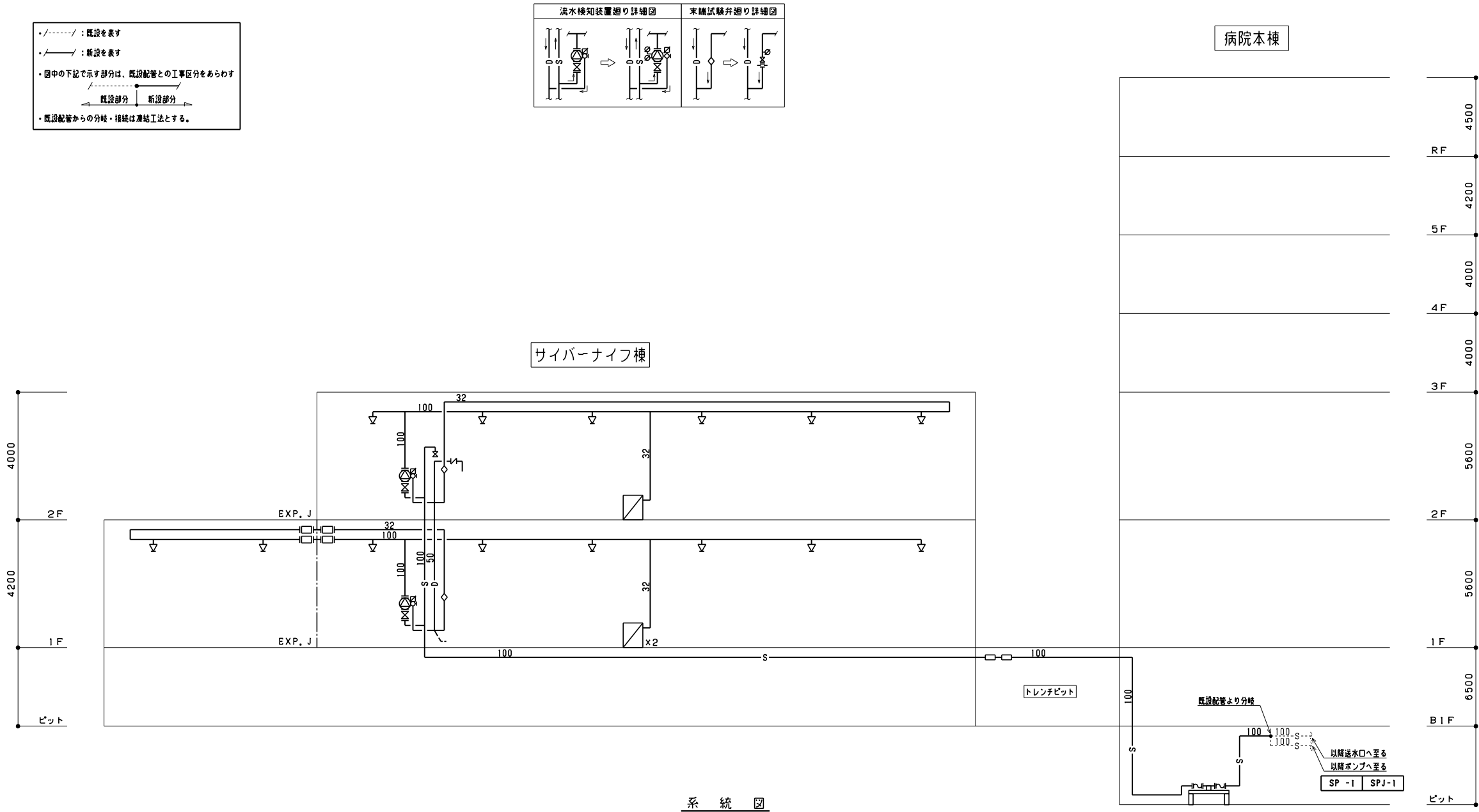
凡 例			
記 号	名 称	備 考	
☞ ○	ス プ リ ン ク ラ ー ヘ ッ ド	高感度型1種 72℃ 0.1 MPa・80 L/min	
⊗ ⊗	流 水 検 知 装 置	浮式 100A	
—◇—	末 端 試 験 装 置	圧力計 井 オリフィス	
☑ ☐	補 助 散 水 栓	総合警報込型 弁:25A ノズル:25A ホース:25A-20m×1本	
✕	仕 切 弁		
↺	逆 止 弁		
□	フ レ キ シ ブ ル 継 手		
~	免 震 継 手	SUS製 免震量600mm 免振コントローラ、免震ステージ含む	
— s —	ス プ リ ン ク ラ ー 用 配 管	JIS-G-3452 (白)	
— D —	排 水 管	JIS-G-3452 (白)	

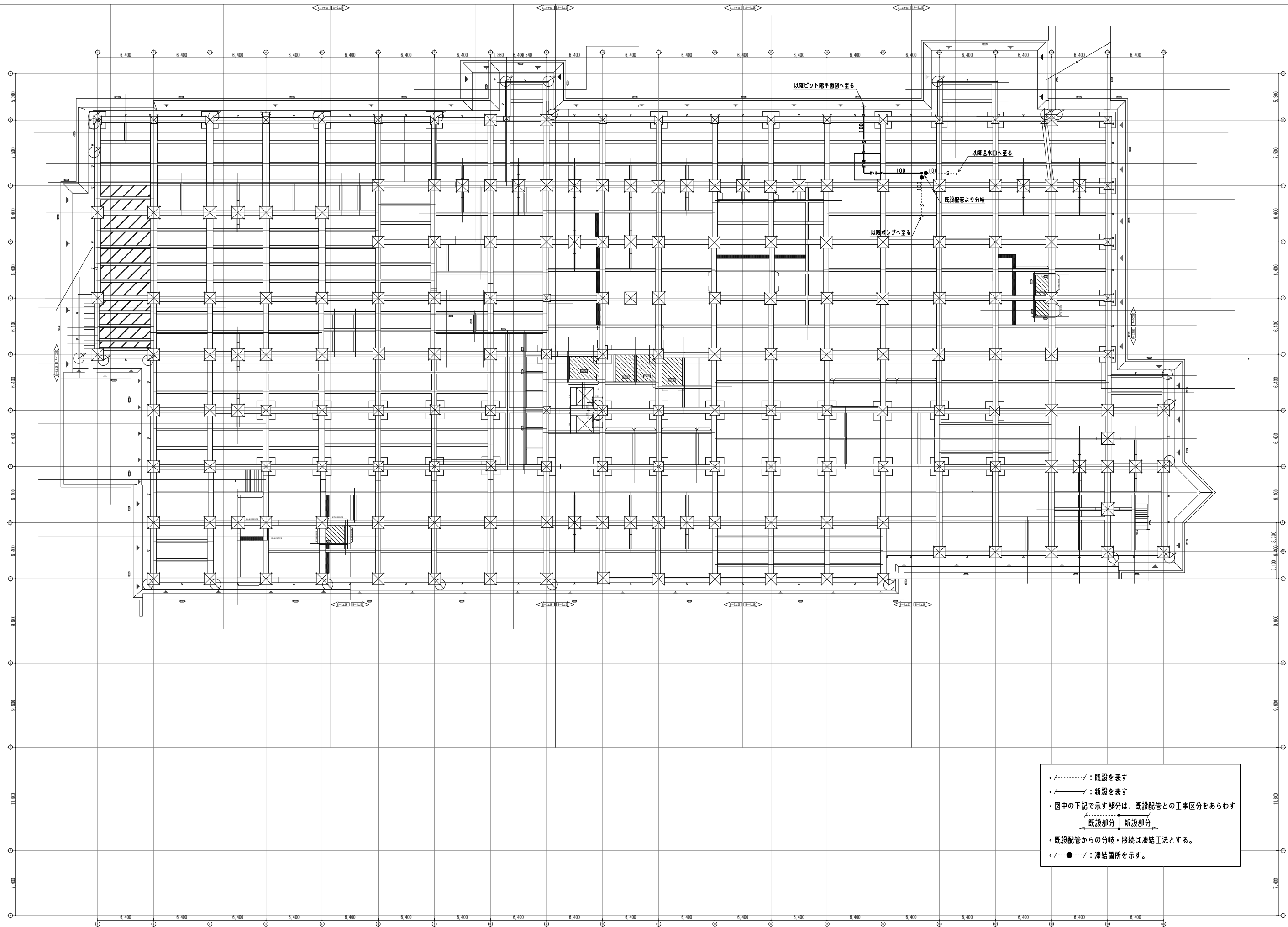
・ / - - - - / : 既設を表す
・ / - - - - / : 新設を表す
・ 図中の下記で示す部分は、既設配管との工事区分をあらわす
既設部分 新設部分
・ 既設配管からの分岐・接続は凍結工法とする。

注 記
◇ 工事区分 (スプリンクラー設備) ○一次側電気工事、表示警報用電気工事、自火報受信機に至る電気工事、 非常電源 (電気工事) ○一次側給水工事、図示以降の排水工事 (衛生工事) ○基礎工事 (建築工事)
◇ —、以降雑排水管に接続
◇ 凍結の恐れのある部分は、凍結防止対策を施すこと
◇ スプリンクラーヘッド巻出配管は、SUS製フレキシブル管とする (直天部分を除く)

ポンプ吐出力・水源容量					
設 備 名	同時個数 (個, 台)	基本吐出力 (L/min)	ポンプ吐出力 (L/min)	基本容量 (m³)	必要水源水量 (m³)
スプリンクラー	8	90	720	1.6	12.8
必要水源容量合計 (m³)					12.8

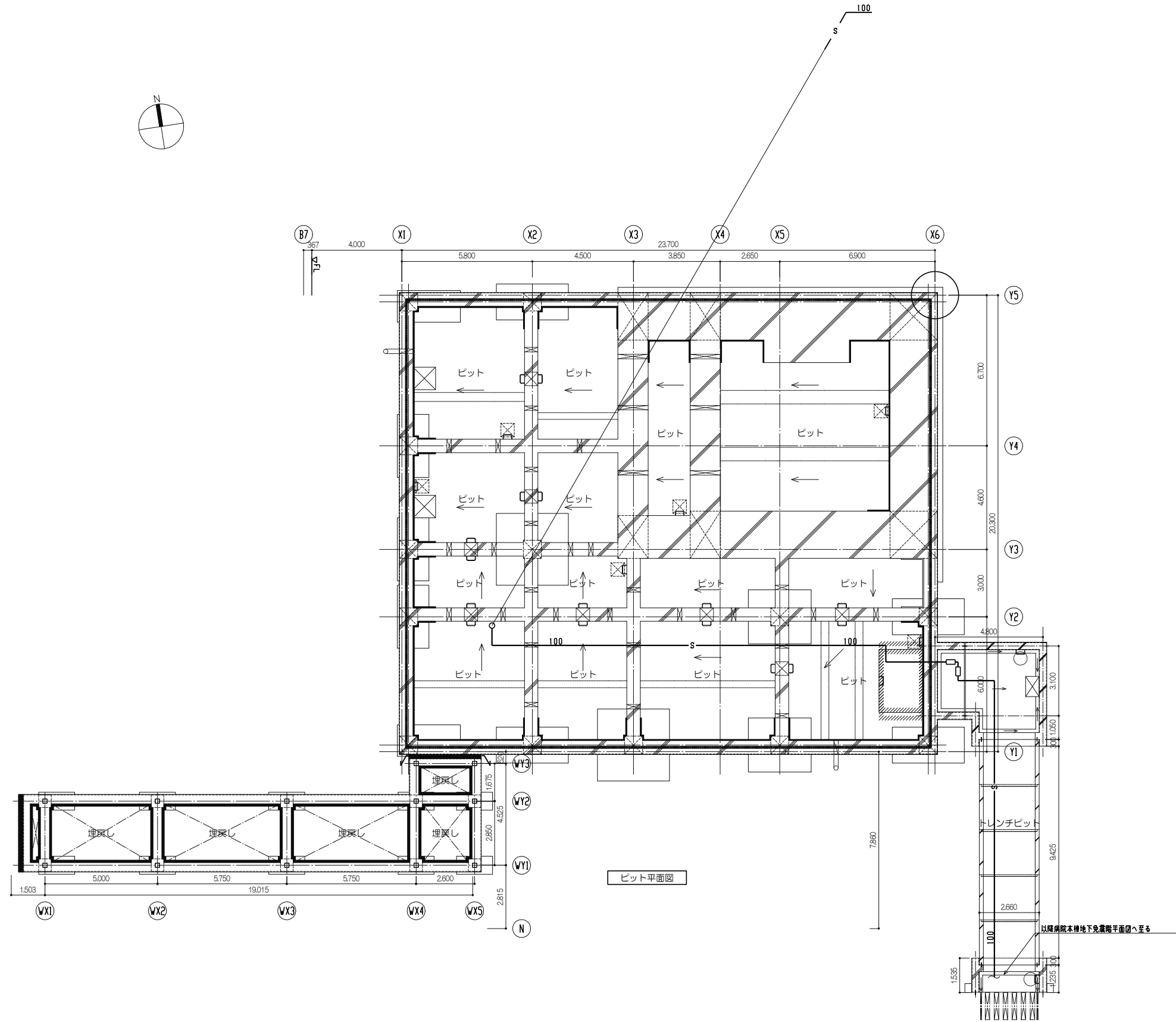
機 器 仕 様			
機器番号	機 器 名 称	機 器 仕 様	備 考
SP -1	スプリンクラーポンプ	100φ× 720L/min× 84mm× 22kW・50Hz	※1 (既設)
SPJ-1	スプリンクラー補助加圧ポンプ	25φ× 18L/min× 84mm× 1.5kW・50Hz	※2 (既設)
1) 各ポンプは、消防認定品とする。 2) ※1は、圧力タンク50L、盤一体型とする。 3) ※2は、受水槽100L、盤一体型とする。 4) 各ポンプは、既設ポンプを使用する。			



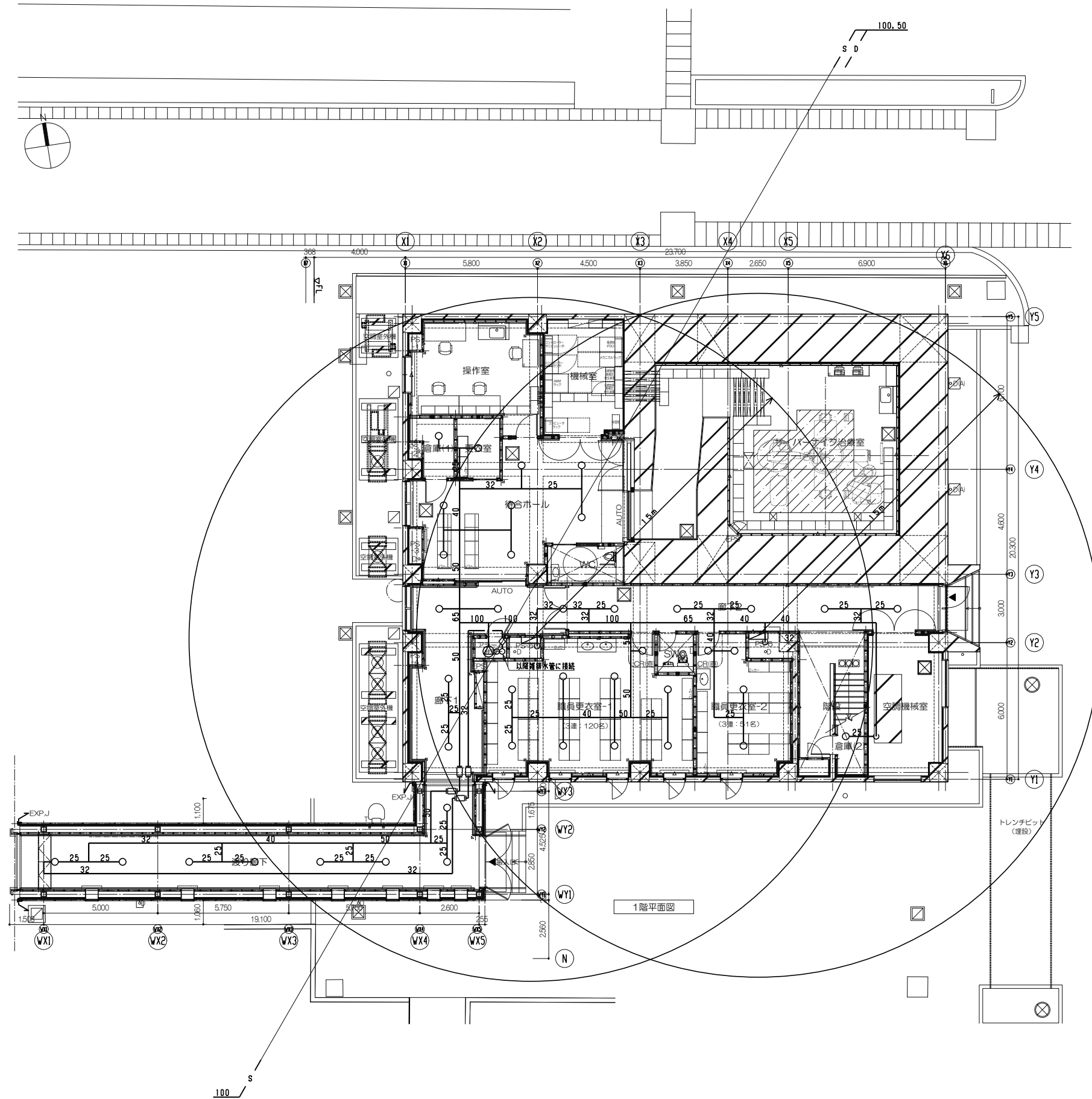


・ /-----/ : 既設を表す  
・ /-----/ : 新設を表す  
・ 図中の下記で示す部分は、既設配管との工事区分をあらわす  
    既設部分    新設部分  
・ 既設配管からの分岐・接続は凍結工法とする。  
・ /-----●-----/ : 凍結箇所を示す。

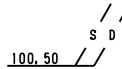




件名 岩手県立中部病院サイバーナフ棟整備工事		
図名 消火設備 ビット階平面図		機械
縮尺 1/100(A1)1/200(A3)	日付 2025/12 (令和7年)	M130



件名 岩手県立中部病院サイバーナイフ棟整備工事			
図名 消火設備 1階平面図			機械
縮尺 1/100(A1)/200(A3)	日付 2025/12 (令和7年)	M131	



件名 岩手県立中部病院サイバーナイフ棟整備工事		
図名 消火設備 2階平面図		機械
縮尺 1/100(A)1/200(A3)	日付 2025/12 (令和7年)	M132

医療ガス設備特記仕様書

1. 設 備 概 要

1-1	酸素供給設備 供給圧力：既設酸素圧力	酸素の供給は、既設酸素配管より分岐し、これより図示された各部屋のアウトレットへ配管により供給を行なう。						
1-2	治療用空気供給設備 供給圧力：既設空気圧力	空気の供給は、既設空気配管より分岐し、これより図示された各部屋のアウトレットへ配管により供給を行なう。						
1-3	エジェクタ吸引設備	治療用空気アウトレットにエジェクタ吸引用セカンダリーを取付け、吸引圧力を供給出来る物とする。 エジェクタ吸引用セカンダリーは別途とする。						
1-4	アウトレット (配管端末器)	1) アウトレットバルブと導入接手はガス別特定とし、定められたガス以外の接続は出来ない構造とする。 各ガスのガス別特定方式は以下の通りとする。 使用予定セカンダリー機器のガス別特定方式を確認の後、ガス別特定方式の確定とする。						
		<table><tr><td>ガス名称</td><td>酸 素</td><td>治療用空気</td></tr><tr><td>ガス別特定方式</td><td>ビン方式</td><td>ビン方式</td></tr></table>	ガス名称	酸 素	治療用空気	ガス別特定方式	ビン方式	ビン方式
		ガス名称	酸 素	治療用空気				
		ガス別特定方式	ビン方式	ビン方式				
		2) バルブ本体にはガスの種類により色分けされ、導入接手には個々のメンテナンスのためのストップバルブを備えた構造とする。						
3) 各アウトレットの取付高さは以下の通りとする。								
<table><tr><td>器 具</td><td>壁付アウトレット (器具芯)</td></tr><tr><td>取付高さ</td><td>FL+1400mm</td></tr></table>	器 具	壁付アウトレット (器具芯)	取付高さ	FL+1400mm				
器 具	壁付アウトレット (器具芯)							
取付高さ	FL+1400mm							
1-5	シャットオフバルブ (遮断弁)	1) バルブは、禁油したボールバルブを使用する。 2) 区域別シャットオフバルブは、各階の系統別に設け、緊急時にガスの送気を遮断出来るものとする。 設置場所は、施設関係者以外の者が容易に操作しにくい場所とし、取付高さFL+1,500mm(バルブ芯)とする。 3) 区域別シャットオフバルブは、非常時においてバルブの操作にて迅速にガスを遮断でき、外部からバルブの開閉状態が容易に見分けられる構造とする。また、ガス名、識別色及び制御区域を示す文字をカバー表面又はカバー直近に表示し、ボックス内に流れ方向を示す矢印を表示する。						

2. 配 管 工 事

2-1	配管材料	ガス名称	配 管 仕 様	継 手 仕 様	備 考
		酸 素 治療用空気	銅管リン脱酸銅継目無管 JIS H 3300 C 1220Tの Lタイプとする。 ガス別に着色を施された熱収縮性 合成樹脂チューブ被覆銅管とする。	ろう付継手 左記の銅管による形成品又は JIS H 3401の加工品とする。  機械的継手 継手本体はJIS H 3250の 加工品とする。	銅管の異種金属に対する保護として 塩ビ管又は防食テープを使用する。 支持金具と銅管が直接接触しない様、 銅管用吊金具を使用する。

2-2	配管の識別表示	<table><tr><th>配 管</th><th>酸 素</th><th>治療用空気</th></tr><tr><td>識 別 色</td><td>緑</td><td>黄</td></tr></table>	配 管	酸 素	治療用空気	識 別 色	緑	黄
配 管	酸 素	治療用空気						
識 別 色	緑	黄						

2-3	配管の支持間隔	※ 1) 管の呼び径20mm未満は、最大支持間隔1.5mとする。管の呼び径20mm以上50mm未満は、最大支持間隔2.0mとする。 管の呼び径65mm以上は、最大支持間隔3.0mとする。ただし、曲部及び分岐箇所は、0.5m以内とする。 2) 共用架台で支持及び固定する場合の部材は、管の呼び径が50mm以下の場合は形鋼L-30×30×3t又は 鋼板折り曲げによる40×40×3.2t、50mmを超える場合は形鋼L-65×65×6tとする。 3) 最大振れ止め支持間隔は、管の呼び径が65mm以上から6mとし、50mm以下及び吊棒長さが300mm未満の場合、配管の振れ止め支持は不要とする。 ※配管の支持間隔：公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）令和4年度版第11編医療ガス設備工事 2.2.2.4 吊り及び支持間隔による。
-----	---------	---

2-4	配管の施工	1) 配管の接合は、差込接合によるろう付け溶接又はロック機能付き機械的継手を標準とする。ただし、取外しの必要な弁や機器との接続部は、 ロック機能がない機械的継手（フレヤー継手、フランジ継手、ユニオン形接合継手又はくい込み式継手）としてもよい。これらの継手以外を使用する場合は特記による。 2) 壁取付け器具への立ち下げ配管は、以下の通りとする。但し、手術室内の吸引立ち下げ配管はφ16とする。 <table><tr><td>配 管</td><td>酸 素</td><td>治療用空気</td></tr><tr><td>配管サイズ</td><td>φ10</td><td>φ10</td></tr></table> 3) 配管は、横走りを天井内、器具への立ち下がりを壁内配管（機器周り配管を除く。）を原則とし、 その他の設備、配管等に接触してはならない。軽量鉄骨壁内の立ち下がりは配管は、軽量鉄骨下地等金属接触部を防食テープ又はPF管で保護する。 4) 500mmを超えてカラーパイプの被覆を去除いた部分及び銅管の露出部分（機械室内等を含む。）は、全周、全長を全て塗装する。 5) 配管の溶接作業は、酸化防止措置として配管内に不活性ガス（窒素ガス）を通しながら行う。 6) 異種金属の接続は絶縁ユニオン又は絶縁フランジにより接続する。 7) 既設配管との接続工が必要な為、切替工事を行う。 8) 既存配管の切り込みは、最初に小さな切り込みを入れて圧力が完全に抜けていて誤切断のないことを確認した後に行う。 9) 配管設備を増設する場合は、既存配管に接続するまでに、接続部の気密試験を除きすべての試験を実施した後に接続する。	配 管	酸 素	治療用空気	配管サイズ	φ10	φ10
配 管	酸 素	治療用空気						
配管サイズ	φ10	φ10						

2-5 検査・試験

ガス名称	試験用ガス	配 管 気 密 試 験		試験用ガス	総 合 気 密 試 験	
		試験圧力	保持時間		試験圧力	保持時間
酸 素	窒 素 又は 清浄空気	1.0MPa	24 時間	窒 素 又は 清浄空気	0.40MPa	24 時間
治療用空気		1.0MPa	24 時間		0.40MPa	24 時間

（注） 末端が開放状態となる排気管は配管外観検査による接続確認とする。  
※1 機械室を除く一部又は全部を銅管で施工した場合の試験圧力は全て0.20MPaでよい。

- 1) 配管工事終了後、系統試験を行ない、配管に異常の無い事を確認の上配管気密試験を行う。
- 2) 排気管、安全放出管を除く銅配管は、配管気密試験完了後、器具取付け前に試験用ガスを放出して管内の清掃を行い、異物、ごみ、塵あい等を十分に除去する。
- 3) 総合気密試験は、端末の器具全ての取付終了後に行ない、配管及び器具に異常の無い事を確認の上作動試験を行う。
- 4) アウトレット清浄度検査の方法は、テスト用アダプタプラグにより、指定流量で 15 秒間、  
直径 50mm±5mm、細孔10μmのフィルターにガスを吹き付ける。  
検査箇所数は各区域別シャットオフバルブの区域ごとに最も配管経路が長いアウトレット1箇所を測定する。

配 管	酸 素	治療用空気
流 量	60L/min	60L/min
- 5) 既存配管との接合は、1系統ごとに行い、施工後ガス別の系統確認を行う。
- 6) 既存配管へ接続後及び気密試験後は、異ガスの混入を防止するために実際使用するガス（以下「実ガス」という。）以外を封入してはならない。
- 7) 接続部の気密試験は、吸引及び麻酔ガス排除を除く配管で標準送気圧力での検知液による発泡漏れ試験とし、吸引及び麻酔ガス排除配管は煙を吸い込ませる吸煙試験とする。

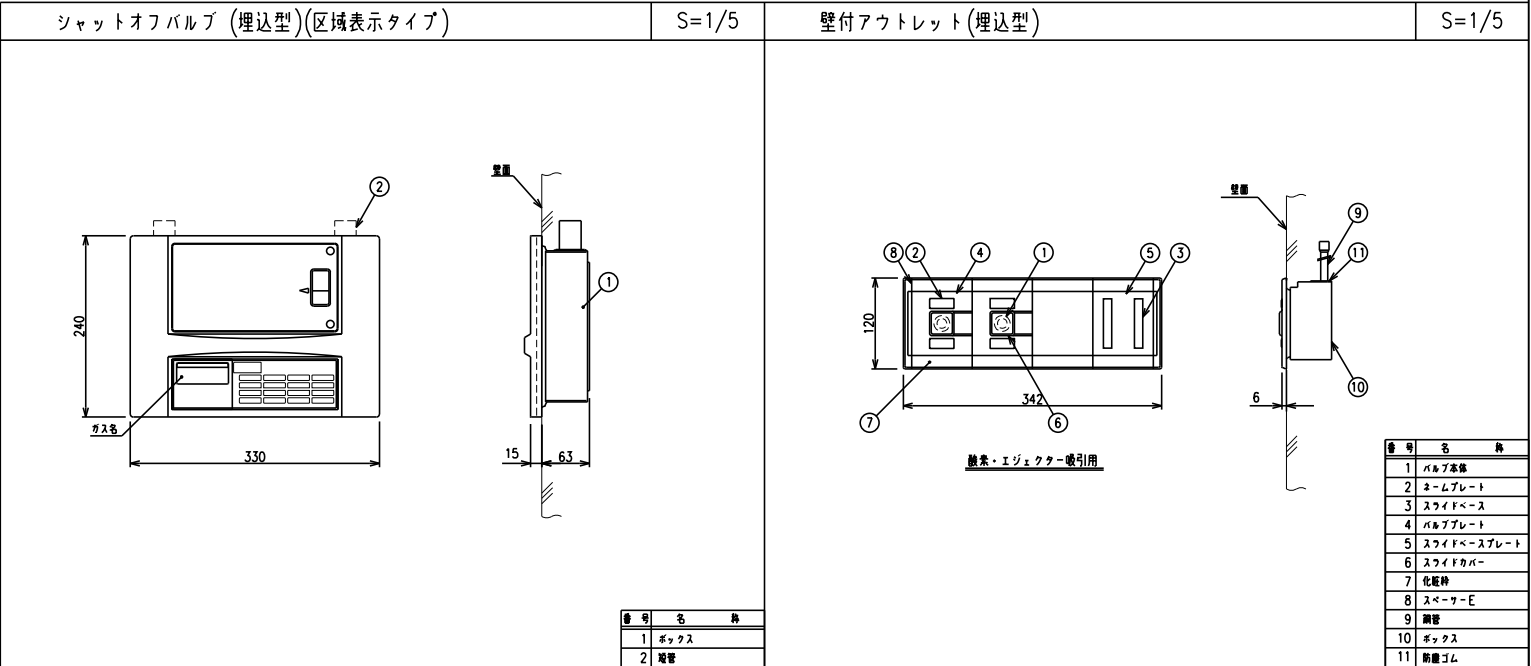
2-6	検査・試験の順序	(ア) 配管外観検査 (イ) 配管系統検査 (ウ) 配管気密試験 (エ) 配管内清浄度検査 (オ) 器具外観検査 (カ) 総合気密試験 (キ) 区域別遮断弁作動確認 (ク) 作動及び性能検査 (ケ) 圧縮空気供給装置の清浄度試験（新設時のみ） (コ) 品質機能検査 (サ) 竣工検査
-----	----------	---

- 1) 検査・試験は区域ごと行ってもよいが各検査・試験を合格せず、次の検査・試験を行ってはならない。
- 2) 検査不合格の場合、手直し後は必要な検査・試験まで戻って実施する。  
(ク)作動及び性能検査は実際に使用する医療用ガスにて行う。なお、実際に使用する医療用ガスの納入は別途とする。
- 3) 既存部に供給装置があり、既存部から新設部へ供給することになる場合は、接続部の気密試験を除き、  
(ア)から(カ)までの試験が完了後に新設部へ接続する。(キ)以降の試験は既存部からの供給を受けて行う。
- 4) (コ)品質機能検査：供給装置、区域別遮断弁、配管端末器、警報装置の作動確認及び圧縮空気供給装置の清浄度試験の  
二重確認を適切な訓練を受けた会社にて行うこと。

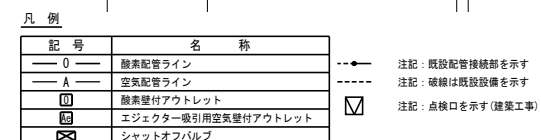
2-7	完工検査	実際に使用する医療用ガスに置き換えられ、全ての系統の配管設備が、使用が可能な状態となったときで、かつ、使用開始前に行う。 なお、新設した供給装置より送気する場合は、実際に使用する医療用ガスの納入は別途とする。 検査に当たっては、当該施設の医療ガス安全管理委員会の実施責任者等が立ち会い、臨床使用時の安全性を確認する。 検査に合格した場合は、当該施設の医療ガス安全管理委員会の実施責任者等が施工管理者及び現場代理人とともに、完工検査書に氏名を記載するものとする。
-----	------	---

3. 医療ガスの安全管理

3-1	保守点検	厚生労働省医政局長通知(令和3年12月16日医政発1216第1号)「医療ガスの安全管理について」より 本工事における医療ガス設備が安全に使用され続ける為に、施主又は当該施設を使用する者の責任においてその厳正な監督下で 医療ガス設備の保守点検を確実に行われるものとする。
-----	------	--



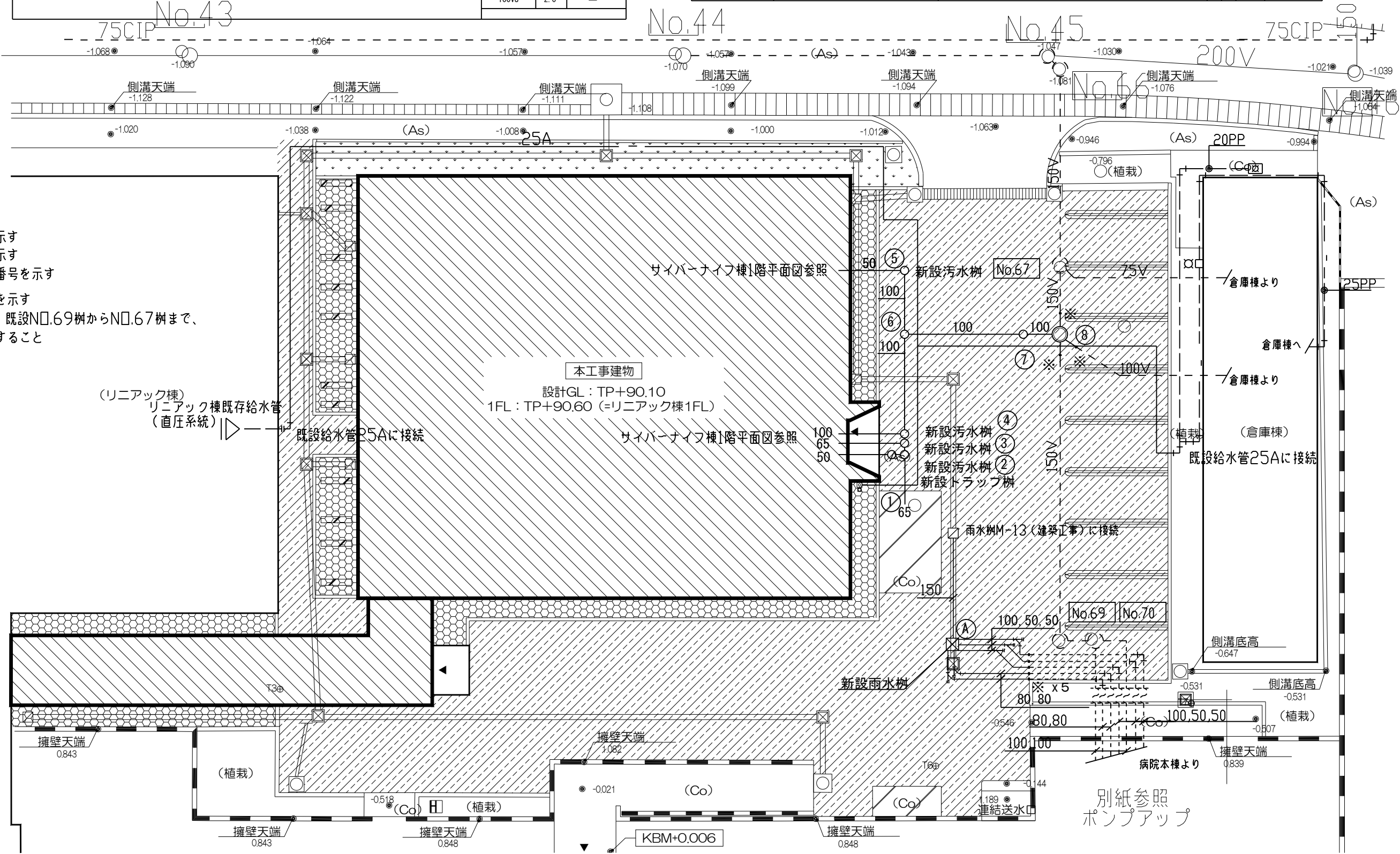
件 名 岩手県立中部病院サイバーナティブ棟整備工事		
図 名 医療ガス設備 特記仕様書・器具図		機械
縮 尺 ー	日 付 2025/12（令和7年）	M133



樹 リ ス ト										
樹番号	樹名称	樹寸法	仕上げ地盤面 (計画GL=90.10)	土被り m	管底 m	樹深さ mm	ふた仕様	管径・管種	勾配 %	距離 m
1	小口径トラップ樹	UT 100-200	89.75	0.86	88.79	960H	T25 (200φ)	100VU	2.0	1.0
2	小口径樹	90L 100-200	89.75	0.88	88.77	980H	T25 (200φ)	100VU	2.0	1.0
3	小口径樹	90Y 100-200	89.75	0.90	88.75	1000H	T25 (200φ)	100VU	2.0	1.0
4	小口径樹	90Y 100-200	89.75	1.02	88.73	1020H	T25 (200φ)	100VU	2.0	—
5	小口径樹	90L 100-200	89.75	0.88	88.77	980H	T25 (200φ)	100VU	2.0	6.0
6	小口径樹	WLS 100-200	89.75	1.04	88.61	1140H	T25 (200φ)	100VU	2.0	6.0
7	小口径 ドロップ樹 (落差1.2m)	DR 100-300	89.75	1.16	88.49	1260H	T25 (300φ)	100VU	2.0	2.0
8	インバート樹 SC-4	900φ	89.75	2.336	87.264	2486H	T25 (600φ)	100VU	2.0	—
No.43										

雨 水 樹 リ ス ト							
樹番号	樹名称	樹寸法	仕上げ地盤面 (計画GL=90.10)	土被り m	管底 m	樹深さ (泥だめ+150含む深さ) mm	ふた仕様
A	雨水樹 (RC-3)	600×600	89.75	0.45	89.15	750H	T20

器具リスト					
器 具 名 称	参 考 型 番 (TOT0)	附 属 品	屋 外	合 計	備 考
キー式立水栓	T28AKUH13	キー式水栓（ホース接続）、不凍水栓柱 H=1200	1	1	







- 注記
- ・図中の—— は新設配管を示す
  - ・図中の—— は既設配管を示す
  - ・図中のNo.70 は既設樹番号を示す
  - ・図中の※は既設管への接続を示す
  - ・図中の8の樹の新設時には、既設No.69樹からNo.67樹まで、排水を仮設ポンプにて圧送すること

別紙参照  
ポンプアップ

件 名 岩手県立中部病院サイバーナイフ棟整備工事			
図 名 給排水衛生設備 外構図 (新設)			機械
縮 尺 1/100(A)1/200(A)3	日 付 2025/12 (令和7年)		M301



樹番号	樹名称	樹寸法	仕上げ地盤面 (計画GL=90.10)	土被り m	管底 m	樹深さ mm	ふた仕様
既設樹 68	既設樹接続 小口径樹	45WY 150-200	89.75	2.336	87.264	2486H	T-8A (200φ)

- 注記
- ・ 図中の  は既設配管を示す
  - ・ 図中の  は撤去範囲を示す
  - ・ 図中の  は既設樹番号を示す
  - ・ 図中の  は試験箇所を示す
- ・ 既設配管の位置・深さの確認のため、撤去工事前に試験を行い、その結果を監理者に報告すること

